J. Rakuno Gakuen Univ., **21** (1): 67～132(1996)

農家生活の質的向上に関する研究

——日韓共同研究第1報（共同研究の目的と構成および生活経営からみた農家生活の実態〈北海道調査〉）——

後藤郁子[1)]・森　夏節[2)]・飯村しのぶ[3)]・崔　徳卿[4)]

The Improvement of Quality of Life in Farm Household
—Joint Research in Japan and Korea (I)
The Purpose and Composition of the Research
The Structure of Farm Household Life and its Effect on Home Management
〈Survey in Hokkaido〉 —

Ikuko GOTO, Kaori MORI, Shinobu IIMURA, Choi DUCH KYUNG

(June, 1996)

目　次

共同研究の目的と構成 ……67
生活経営からみた農家生活の実態 ……69
— 北海道調査 —
はじめに ……69
I．農家生活を支える北海道農業の概観 ……69
II．調査の概要 ……71
III．調査結果 ……72
1．調査対象の基本的属性 ……72
2．農業経営と農家主婦 ……76
3．家事運営と家計管理 ……91
4．余暇生活活動 ……102
5．生活の情報化 ……107
IV．調査研究結果のまとめ ……118
参考文献：資料 ……120
資料編 ……121

共同研究の目的と構成

我が国は，戦後，大量生産，大量消費の高度成長期を経て，「生産優先」がもたらした人的課題への反省のもとに，「生活の質的豊かさ」が求められる時代を迎えた。

農家生活においては，家族が健康，生甲斐，ゆとりや充実感を実感できる「生活重視」の農業経営のあり方が求められる。

その実現のためには，生産と生活の調和ある関連のもとに，生活基盤の充実が必要であり，生活経営の果たす役割は極めて大きい。

1）北海道文理科短期大学　教養学科　生活経営学研究室
Department of Culture (Home Management), Hokkaido College of Arts and Sciences, Ebetsu, Hokkaido, 069, Japan
2）北海道文理科短期大学　経営情報学科　OAシステム研究室
Department of Information Management (OA System), Hokkaido College of Arts and Sciences, Ebetsu, Hokkaido, 069, Japan
3）藤女子大学　人間生活学部　人間生活学科
Department of Human Ecology, Fuji Women's College, Ishikari Hokkaido, 061-32, Japan
4）国立安城産業大学校　生活管理学科
Department of Home Management, Anseong National University, 67, SEOGJEONG, ANSEONG-EUB, ANSEONG-GUN, KYEONGGI-DO, KOREA

本稿は，1995年度北海道文理科短期大学共同研究「農家生活の質的向上に関する研究」の成果の一部である。

本研究は，農家生活の新しい豊かさ実現に資することを目的として，農家生活における人的及び物的資源の管理・運営のライフスタイルに視点をあて，農家生活の中核にある30歳代～40歳代の主婦を対象に「生活経営からみた農家生活の実態と分析」更に，経営主（夫）を加えた「生活時間構造の実態と分析」を二つの柱とした。

農家生活の特性を生かし，生活の質的向上を進めるために必要な全道及び全郡的拡がりをもつ基礎的資料は従来から得難く，このことは研究者や指導関係者の切実な問題であった。中でも記帳調査上の難易度が高いため整備が遅れていた「農家生活時間構造」については，経営形態別，夫婦別，季節別実態を農業生産活動及び農家生活活動との関連により把握することは，本研究の特色といえよう。

更に本研究は，本学園の酪農学園大学との学術交流協定を結ぶ，韓国国立安城産業大学校との共同研究により取り組み，共に両国農家生活の新しい豊かさの実現に資することを目的とした。

併せて，間もなく訪れる21世紀のアジアの農家生活向上に関する国際的ネットワークに，本研究の結果がいささかかでも貢献できることを願いつつ取り組んだ。

共同研究の構成

1　研究内容及び研究方法の概要

(1)生活経営からみた農家生活の実態（北海道及び韓国）

1)　研究内容

①　対象の基本的属性

②　農業経営と農家主婦

③　家事運営と家計管理

④　余暇生活活動

⑤　生活の情報化

2)　研究方法

①　30歳代～40歳代の経営形態別農家主婦を対象に農家生活アンケート調査の実施

②　アンケート調査結果の分析，考察の実施

(2)経営形態別農家の生活時間の実態（北海道及び韓国）

1)　研究内容

①　対象の基本的属性

②　生活時間記録表の様式及び時間分類方法の策定

③　経営形態別・季節別生活時間構造とその内容及び特徴

2)　研究方法

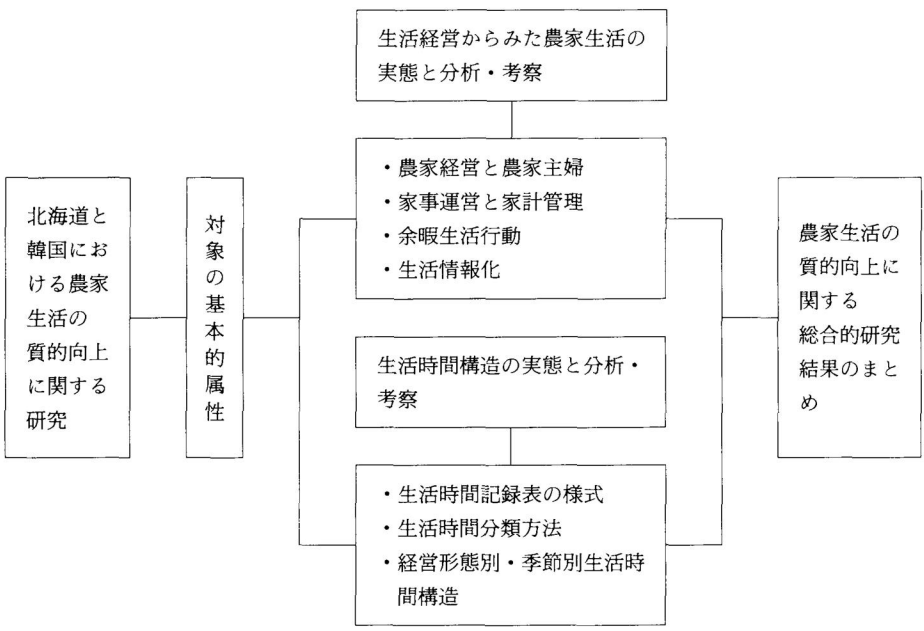
①　経営形態別農家の30歳代～40歳代の夫と妻を対象に春，夏，秋，冬，各3日間の記録調査の実施

②　調査結果の集計，分析，考察の実施

2　共同研究のまとめ

以上の各研究内容を相互に考察し，農家生活の質的向上に関する研究結果のまとめを行なう。

共同研究の構成図



生活経営からみた農家生活の実態
―北海道調査―

はじめに

近年，北海道の農家・農村においては，社会情勢の変化に伴って，地域社会構造や農業構造が大きな変化を遂げている。

生産と生活が密接に関連する農家生活においては，生活構造をめぐる変化や課題も少なくない。

これらの課題解決と共に，まもなく訪れる21世紀にむけて，農家・農村の「新しい豊かさ」実現のためには，農家ならではの魅力を享受し，生産と生活を通して生甲斐やゆとり，地域や生活に根ざした文化の創造，充実感のある農家生活構築への取り組みが求められる。

従って，生活重視の農業経営と共に農家生活経営の果たす役割はきわめて大きい。

以上の目的実現に資するための基礎資料として，北海道農家の中核にある30歳代～40歳代の農家主婦を対象として「生活経営からみた農家生活の実態」に関する本アンケート調査を実施した。

Ⅰ　農家生活を支える北海道農業の概観

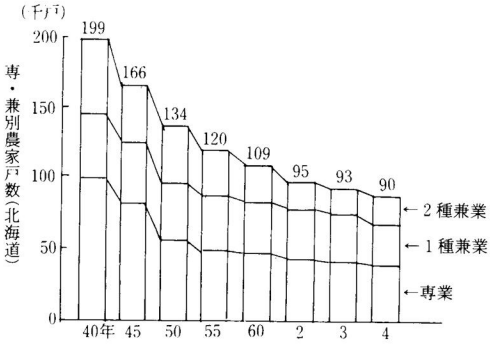
まず最初に，北海道の農家が営む農業について概観する。

本道農業は，1戸当りの経営規模が大きく，生産の大部分が農業を中心とする農家によって担われている。

1．農家戸数

農家戸数は，年々減少し，平成6年度（1994年）には約8万5000戸で，昭和40年度（1965年）約19万9000戸の半数以下となっている。（図1－1参照）

図Ⅰ－1　専・兼別農業戸数



資料：農林水産省「農業センサス」

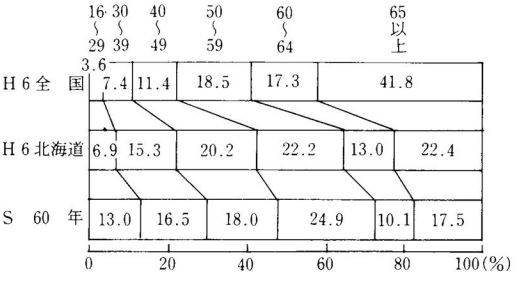
農家のうち，農業だけを行なっている専業農家は約3万8000戸，第1種専業農家は約2万8000戸と農業を中心とする農家が全体の85.8％で，第2種専業農家の多い府県の農業構造とは異なる状態となっている。

2．農業就業人口と農業問題

平成6年度（1994年）の農業就業人口は，約18万9000人で毎年減少を続けている。そのうち60才以上が35％を占め高齢化が進んでいる。（図1－2参照）

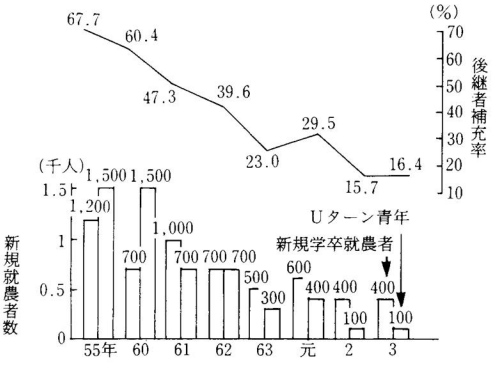
また農家出身者のうち，新規学卒就農者は，平成3年（1991年）には約400人，Uターン青年（一度他の職業についた後，農業をはじめる若者）は100人となっており，昭和40年（1965年）の新規学卒就農者8,400人，Uターン青年4,700人に比較すると，極端に減少している。（図Ⅰ－3参照）

図Ⅰ－2　農業就業人口の年齢層別構成比



資料：農林水産省「農業センサス」「農業調査」

図Ⅰ－3　農業子弟の新規就農者数



資料：農林水産省「農家就業動向調査」、「農業動態調査」、「農林漁業現地情報（特定情報）収集結果」

一方，農外からの新たな就農者は，毎年20名～30名程度見られる。（表Ⅰ－3参照）

今後，こうした意欲的な人々の北海道農業への参入が地域農業を支えていく上で重要と考えられている。

表 I-3　新規参入者数の推移　　（単位：人）

年　次	45～49年	50～54	55～59	60	61	62	63	元	2	3	4	計
人　数	32	70	102	24	24	27	28	21	32	29	20	409

資料：北海道農政部農業改良課調べ
注：新規参入者＝農外からの新たな就農者

3．耕地面積

平成6年（1994年）の全道耕地面積は，120万4000haで，1戸当り耕地面積は14.2haとなり，畑作地帯や酪農地帯では欧州並みの水準にある。

4．農家経済

北海道農家の所得構成は，平成6年度（1994年度）の農業所得が62.8％と6割以上を占め，都府県に比較し農業への依存度が高いのが特徴である。

農業所得による家計充足率（％）（農業所得÷家計費×100）は，82.6％となり，自然条件，その他の影響によって年毎の差はあるものの，北海道においても農業所得のみでは，家計の維持は困難な姿となっている。

次に，平成6年度（1994年）の農家1世帯当りの家計費，は559万3000円となり，平成2年度（1990年）を100としてみると，115.7％となり15.7ポイントの上昇，また1人当り家計費では18.1ポイントの上昇を示した。

同様に家計費を費目別に比較してみると，平成6年度（1994年）最も上昇した費目は臨時費（235.7ポイント），続いて保健医療費（31.0ポイント），次に雑費（18.8ポイント）となり他の費目はめだった特徴はみられなかった。

次に農家生活の特徴としてあげられる生産現物家計消費については，平成2年度（1990年）12万3500円と比較して（85.1％）となり，14.9ポイント，金額にして1万8400円の減少となっており，年々減少の傾向を示している。

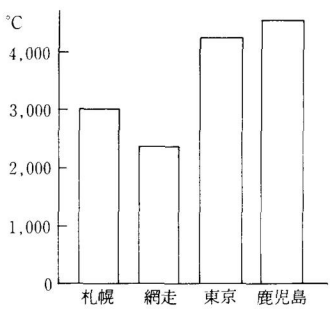
5．気候の特徴

北海道の気温，日照時間，降水量は図1－4～1－6に示すとおりである。平均気温は5～10℃と冷涼で，春，秋は概して低く，季節による気温の格差が大きい。また夏でも夜は涼しいため，温度差が良質の農産物を生み出す要因ともなっている。

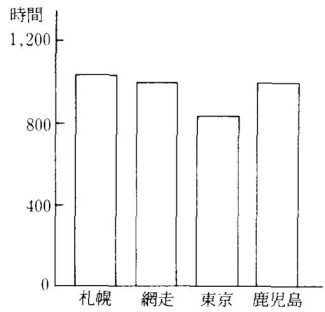
6．地域ごとの農業の特色

北海道は，土地面積が大きく，地域によって，気象や立地条件が異なるので，それぞれの地域によって，特色ある農業が行なわれている。（図I－7参照）

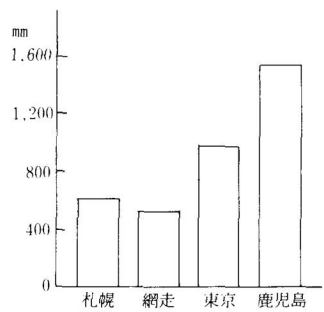
図I－4　気温（基準温度10℃～5月～10月の積算）



図I－5　日照時間（5～10月の合計）



図I－6　降水量（5～10月の合計）



資料：札幌管区気象台調べ
注：いずれも1961～1990年の30年間の各月平均

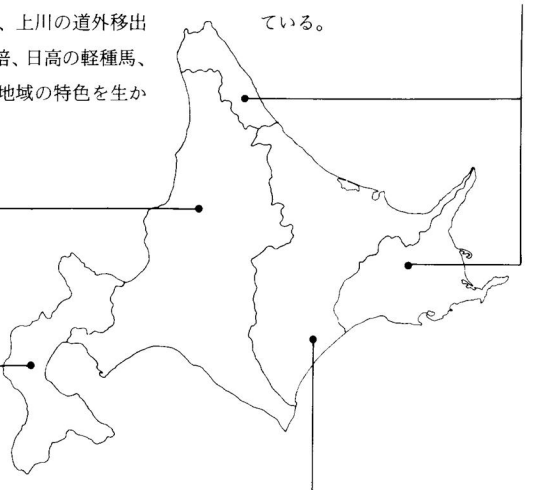
図 I-7　地域ごとの農業の特色

道央地帯

本道の中央部から日本海に注ぐ石狩川水系に沿った上川盆地や石狩平野では比較的温暖な夏期の気候と豊かな水資源を利用して、北海道で最も稲作の盛んな地帯となっている。また、札幌近郊、空知南部、上川の道外移出向けを中心とした野菜の栽培、日高の軽種馬、上川・西胆振の肉用牛など地域の特色を生かした農業が行われている。

道東北［酪農］地帯

根釧、天北を中心とするこの地域は、広大な平坦地が大半を占めているが、泥炭土など特殊土壌が多く気候が冷涼なことから、草地が中心となっており、大規模な酪農が行われている。



道南地帯

渡島半島、羊蹄山麓からなる道南地帯は、平坦部が少ないため経営規模は小さくなっているが、道内でも最も温暖な気候に恵まれており、集約的な農業が行われている。米が各地で生産されているが、このほか、後志の羊蹄山麓が畑作地帯、後志北部が果樹地帯として発展しており、また、函館近郊では施設野菜団地がつくられている。

道東北［畑作］地帯

十勝平野、北見、斜網を中心とするこの地域は、広大な農地を生かし、豆類、てん菜、馬鈴薯、麦類を中心とした我が国最大の大規模機械化畑作地帯となっている。

資料：「農業ランド・北海道」平成5年3月北海道農政部農業改良課より引用作成

II　調査の概要

1.　調査対象農家の選定

来るべき21世紀にむけて，豊かさの実感できる北海道農業の実現には，20歳代を終えて中堅として経営と生活を担う，30歳代から40歳代の農家主婦の役割は極めて大きい。

このため北海道農家の稲作専業・稲作複合，野菜，畑作，酪農，果樹の6つの経営形態の30歳代から40歳代の主婦300人を対象としてアンケート調査を実施した。

なお，経営形態別対象農家の選定は，担当地区農業改良普及センターに依頼した。

表 II-2　調査対象農家

項　目	経営形態						合計
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
調査数	50	50	50	50	50	50	300

2.　調査対象地域の概要

(1)地域別対象農家

地域別対象農家は，表II－3に示すとおりである。

表 II-3　地域別経営形態別対象農家一覧表

支庁名	農業教良普及センター名	市町村名	経営形態	質問票回収数	有効回答数
空知	空知西部地区農業改良普及センター 空知南西部地区農業改良普及センター	新十津川町 長沼町	稲作専業 稲作専業	25 25	25 23
上川	旭川地区農業改良普及センター 上川中央地区農業改良普及センター	旭川市 当麻町	稲作複合 稲作複合	25 25	25 25
渡島	渡島中部地区農業改良普及センター	大野町	野菜	50	46
十勝	十勝中部地区農業改良普及センター	帯広市	畑作	50	38
根室	北根室地区農業改良普及センター	中標津町	酪農	20	20
留萌	北留萌地区農業改良普及センター	天塩町	酪農	30	30
後志	北後志地区農業改良普及センター	余市町 仁木町	果樹	30	30
胆振	西胆振地区農業改良普及センター	豊浦町	果樹	20	19
計				300	281

(2)調査対象地域

調査対象地域は，図II－8に示すとおりに全道8支庁にわたり，稲作経営，野菜経営，畑作経営，酪農経営，果樹経営の6形態を調査対象地域とした。

図II－8　調査対象地域の位置図
北海道行政区（支庁）及び調査対象地域

3.　調査事項

農家の実態を把握するために調査した主な事項は次のとおりである。

(1)調査対象の基本的属性
(2)農業経営と農家主婦
(3)家事運営と家計管理
(4)余暇生活活動
(5)生活の情報化

4.　調査方法

(1)調査時期　平成7年（1995年）8月～9月
(2)調査対象者に記入票を配布し，記入結果を直接又は郵送により回収した。
　有効回答票数……281
　回収率……93.7％

III　調査結果

1.　調査対象者の基本的属性

(1)　年齢構成

調査対象農家(主婦)年齢構成は，表1－1のようになった。全体として，30歳代が48％，40歳代が50.9％の構成となり，両年代を5歳ごとの分類でみると30歳代では後半に，40歳代では前半に各々高い割合となっている。

(2)　結婚経過年数

表1－2から結婚後の経過年数は，「11年～20年」に最も集中し（57.3％），さらに「21年以上」経過したものを加えると全体の80.8％となり，概ねベテランの主婦が調査対象となったと言える。

表 1-1　年齢構成　（人：%）

年代	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
30～34	10	20.8	1	2.0	6	13.0	3	7.9	17	34.0	6	12.2	43	15.3
35～39	22	45.8	14	28.0	18	39.1	13	34.2	12	24.0	13	26.5	92	32.7
40～44	14	29.2	21	42.0	19	41.3	7	18.4	16	32.0	17	34.7	94	33.5
45～49	0	0.0	14	28.0	3	6.5	15	39.5	5	10.0	12	24.5	49	17.4
NA	2	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	3	1.1
計	48		50		46		38		50		49		281	

表 1-2　結婚経過年数　（人）

結婚年数	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
1～5	1	2.1	0	0.0	1	2.2	1	2.6	0	0.0	3	6.1	6	2.1
6～10	13	27.1	1	2.0	7	15.2	2	5.3	17	34.0	4	8.2	44	15.7
11～20	29	60.4	32	64.0	33	71.7	19	50.0	25	50.0	23	46.9	161	57.3
21以上	5	10.4	17	34.0	4	8.7	15	39.5	8	16.0	17	34.7	66	23.5
NA	0	0.0	0	0.0	1	2.2	1	2.6	0	0.0	2	4.1	4	1.4
計	48		50		46		38		50		49		281	

表 1-3　結婚前の職業　（人）

年代	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
農業	10	20.8	21	42.0	8	17.4	21	55.3	14	28.0	14	28.6	88	31.3
漁業	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
勤め人	35	72.9	27	54.0	36	78.3	13	34.2	30	60.0	33	67.3	174	61.9
その他	3	6.3	0	0.0	1	2.2	4	10.5	2	4.0	1	2.0	11	3.9
なし	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	6.0	0	0.0	3	1.1
NA	0	0.0	1	2.0	1	2.2	0	0.0	1	2.0	1	2.0	4	1.4
計	48		50		46		38		50		49		281	

(3)　結婚前の職業

表1－3によると，全体の94.5％とほとんどが職業に就いており，その内の過半数(61.9％)を「勤め人」で占めており，結婚前から「農業に従事」していたのは3割程度(31.3％)である。

「勤め人」の割合が高かったのは，野菜農家の78.3％。稲作専業農家の72.9％続いて果樹農家の67.3％，酪農家の60.0％で，いずれも6割から8割弱の高い割合となっている。これを1979年度における北海道の農村婦人の生活実態[注1)]と比較してみると，職業従事者は調査対象者全体(30歳～40歳代 662人)の82.8％で，そのうち70.5％が農業に従事しており勤め人は9.1％と1割に満たなかった。

しかし，この15年間に農家主婦の婚前就業構造が大きく変化し，北海道においても未婚女性の農村離れが著しく進んでいると共に，農家の中堅主婦達の農業外職業経

注1）昭和54年度「農山漁村婦人の生活に関する調査結果集計表」昭和55年3月北海道農務部農業改良課　より算出

表 1-4　結婚前の職業「勤め人」の内訳　(人)

職　業	経営形態						計
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
教　員				1	1		2
学校職員			2				2
保　母	3		1	1	2	1	8
幼稚園教諭	3						3
看護婦(含歯科)	3		2	2	2	3	12
会社員	5		4	2	2	3	16
事務員	1	9	10	4	3	7	34
団体職員	9	5	2	1	8	2	27
銀行・金融	2				2	4	8
病院事務	1		1				2
美容部員	1		1				2
公務員	2		1	1	1	4	9
店員・販売員	3	3		1		4	11
CAD オペレーター	1						1
縫　製	1						1
建設業		1					1
薬品卸		1					1
車		1					1
サービス業		2					2
デパート		1	2				3
工　員			1				1
臨床検査技師					1		1
印刷業					1		1
POP					1		1
飲食店					1		1
寮母(老人ホーム)						1	1
美容師						1	1
バスガイド		1				1	2
アルバイト			1				1
NA		3	8		5	2	18
計	35	27	36	13	30	33	174

験者が増加を見せていることがわかる。

次に表1－4によって，今回の調査対象の結婚前の職業「勤め人」の内訳を見てみる。職業内容は，多岐にわたっており，事務系統にその割合が多い一方，教員，保母，幼稚園教諭，臨床検査技師，看護婦等の専門職も少なくない。さらにCADオペレーターの1名は，農家生活の場においても，高度情報化の到来がより身近になった感がある。

(4)　実家の職業

実家の職業は，表1－5によってみると，全体の6割(60.9％)が「農業」で占められており，続いて「勤め人」(23.8％)となっている。経営形態別には，全形態を通して「農業」の割合が高く，特に専業農家で81.3％，複合農家で70.0％と圧倒的割合を示しているのが特徴的である。野菜農家が「勤め人」に高い割合(41.3％)を示したものの，全体を通して農家においては『農業』に生きる次代の子弟を育んでいることがわかる。

以上を前述と同様1979年における北海道の農村婦人の生活実態と比較してみると，実家の職業を「農業」とする割合は84.5％と高く，調査対象のほとんどが「農業」で占められ，「勤め人」は1割(8.6％)に満たなかった。また，商業2.1％，その他(4.8％)の構成となっており，ここでも農家の職業構造の大きな変容がうかがえる。

次に，表1－6によって実家の職業「勤め人」の内訳をみると，会社員及び公務員が5割(48％)を占め，野菜農家，果樹農家および畑作農家に集中していることが特徴的である。

(5)　家族構成

1)　家族形態

対象者の家族形態は，表1－7のようになった。全体

表 1-5　実家の職業　(人)

年代	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
農　業	39	81.3	35	70.0	20	43.5	24	63.2	29	58.0	24	49.0	171	60.9
漁　業	0	0.0	0	0.0	3	6.5	0	0.0	2	4.0	0	0.0	5	1.8
勤め人	3	6.3	6	12.0	19	41.3	10	26.3	11	22.0	18	36.7	67	23.8
商　業	2	4.2	1	2.0	0	0.0	2	5.3	2	4.0	2	4.1	9	3.2
その他	4	8.3	7	14.0	4	8.7	2	5.3	5	10.0	4	8.2	26	9.3
NA	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	2.0	3	1.1
計	48		59		46		38		50		49		281	

表1-6　実家の職業「勤め人」の内訳　（人）

職業	経営形態						計
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
教員					1		1
学校職員		1					1
会社員	3		7	4	2	2	18
団体職員			1				1
公務員		1	3	2	1	7	14
店員・販売員			1				1
運転手		1					1
大工			1				1
鉱員		1			1		2
土木・建設業			1	1	1		3
印刷業					1		1
調理師			1				1
NA		2	4	3	4	9	22
計	3	3	19	10	11	18	67

図1－1　家族形態別割合

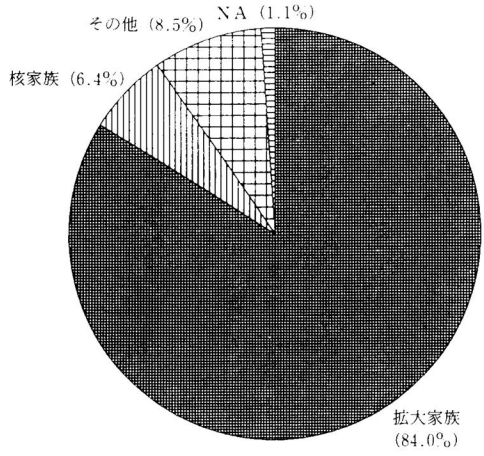


表1-7　家族形態　（人）

家族構成	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
夫婦	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
夫婦＋子供	1	2.1	4	8.0	1	2.2	4	10.5	4	8.0	4	8.2	18	6.4
夫婦＋両親	5	10.4	3	6.0	2	4.3	1	2.6	1	2.0	2	4.1	14	5.0
夫婦＋父親	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
夫婦＋母親	1	2.1	1	2.0	0	0.0	0	0.0	2	4.0	1	2.0	5	1.8
夫婦＋子供＋両親	25	52.1	20	40.0	29	63.0	22	57.9	33	66.0	27	55.1	156	55.5
夫婦＋子供＋父親	1	2.1	4	8.0	4	8.7	0	0.0	1	2.0	1	2.0	11	3.9
夫婦＋子供＋母親	6	12.5	7	14.0	5	10.9	6	15.8	6	12.0	7	14.3	37	13.2
夫婦＋子供＋父親＋他の人	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	2	0.7
夫婦＋子供＋母親＋他の人	2	4.2	2	4.0	3	6.5	2	5.3	0	0.0	1	2.0	10	3.6
その他	6	12.5	6	12.0	2	4.3	3	7.9	3	6.0	4	8.2	24	8.5
NA	0	0.0	2	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	3	1.1
計	48		50		46		38		50		49		281	

では拡大家族[注2] 84.0％，核家族[注3] 36.4％，その他8.5％と，大多数が拡大家族によって占められており，夫婦のみの家族はなかった。拡大家族の構成は「夫婦＋子供＋両親」のタイプが5割(55.5％)を超える割合である(図1－1)。

経営形態別にみると，各経営形態農家とも，拡大家族が圧倒的に多く，核家族は畑作農家の10.5％が最も多い割合で，稲作農家および野菜農家においては各々2.1％，2.2％と少ない。

2）家族人数

一世帯あたりの家族人数は，7人(31.7％)が最も多く，次いで6人(29.5％)で，以上が全体の6割(61.2％)を占

注2）「拡大家族」とは，2人以上の子どもが，結婚しても親の家族と生活を共にし，同世代の夫婦2組以上から構成される家族，又は，子供1人が結婚して親の家族と生活を共にし，祖父母，父母，子，孫と縦の系列からなる家族。
注3）「核家族」とは，夫婦とその未婚の子どもによって構成される家族。

表 1-8　家族人数　　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
2　人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3　人	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	2.6	3	6.0	3	6.1	8	2.8
4　人	6	12.5	4	8.0	2	4.3	4	10.5	2	4.0	4	8.2	22	7.8
5　人	5	10.4	12	24.0	3	6.5	7	18.4	4	8.0	11	22.4	42	14.9
6　人	10	20.8	15	30.0	20	43.5	10	26.3	16	32.0	12	24.5	83	29.5
7　人	21	43.8	11	22.0	12	26.1	12	31.6	16	32.0	17	34.7	89	31.7
8　人	5	10.4	5	10.0	7	15.2	4	10.5	7	14.0	1	2.0	29	10.3
9　人	0	0.0	2	4.0	2	4.3	0	0.0	2	4.0	0	0.0	6	2.1
10人以上	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
NA	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	0.4
計	48		50		46		38		50		49		281	

表 1-9　寝たきり病人の状況　　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
いない	44	91.7	48	96.0	43	93.5	37	97.4	48	96.0	47	95.9	267	95.0
い　る	4	8.3	2	4.0	3	6.5	1	2.6	2	4.0	2	4.1	14	5.0
N.A.	0		0		0		0		0		0		0	
計	48		50		46		38		50		49		281	

めている(表1－8)。全体の平均家族数は，6.2人[注4]であった。

(6)　寝たきりの病人について

家族の中の寝たきり病人について「いる」と答えたものが5.0％であり，ほとんどの家族は「いない」(95.0％)であった(表1－9)。

2.　農業経営と農家主婦

(1)経営形態別にみた耕地面積

調査対象とした経営形態別農家の耕地面積は，表2－1の通りである。

稲作専業農家においては，全農家が平均14.3 haの「水田」を所有し，そのうち70.8％の農家が平均3.7 haの「普

表 2-1　経営形態別耕地面積　　(戸数)

	経営形態																	
	稲作						野菜			畑作			酪農			果樹		
	専業			複合														
経営耕地		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)
水田　ha	48	100.0	14.3	50	100.0	9.2	40	87.0	4.4	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	16	32.7	7.0
普通畑 ha	34	70.8	3.7	36	72.0	1.1	39	84.8	5.1	38	100.0	29.0	10	20.0	8.5	30	61.2	4.5
牧草地 ha	4	8.3	2.0	2	4.0	4.8	1	2.2	3.0	3	7.9	4.2	49	98.0	57.4	0	0.0	0.0
樹園地 ha	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	2.2	0.1	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	47	95.9	4.4
その他 ha	11	22.9	3.4	12	24.0	1.5	12	26.1	1.0	2	5.3	8.0	8	16.0	15.6	1	2.0	3.0
N.A.	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		1	2.0		1	2.0	
対象人数	48			50			46			38			59			49		

※複数回答

注4）平均家族数の計算において「10人以上」と回答のあった（1件）家族人数を，10人として計算した。

通畑」，又，22.9％の農家が平均3.4haの「その他」に属する耕地を所有している他，4戸の農家が平均2haの「牧草地」を所有している。

このことは，1978年度から始まった我が国の「水田利用再編対策」に基づく稲作転換による転換作物の経営耕地であることがうかがえる。

稲作複合農家においては，全農家が平均9.2haの「水田」の他，72％の農家が平均1.1haの「普通畑」を持ち，その他の経営耕地をもつ農家が24％にものぼり又，「牧草地」を持つ農家が3戸ある。

これらのことは，前述の稲作専業経営における稲作転換に基づく実情と同様である。

野菜農家では，84.8％の農家が平均5.1haの「普通畑」，8.7％にも上る農家が4.4haの「水田」，26.1％の農家が「その他」を所有し，「牧草地」及び「樹園地」が1戸づつあった。畑作農家では全戸が「普通畑」を持ち，「牧草地」は3戸，「その他」は2戸であった。

酪農家は，「牧草地」を所有する農家が10.0％，他に普通畑10戸とその他8戸の農家があった。果樹農家は95.9％が「樹園地」で，「普通畑」も61.2％の農家が所有しており，「その他」は1戸であった。

(2)経営形態別にみた作付作目及び家畜の種類

表2－2によって，対象農家の経営形態別作付作目及び家畜等の状況をみると，稲作専業農家に於いては，全農家が平均13.1haの「水稲」，続いて「麦・雑穀」62％，「露地野菜」52％，「施設野菜」22.9％等を主たる作付作目として取り組んでおり，中には「施設花」栽培「鶏」「肉牛」飼育の農家もあり，作目が多岐に亙っていることがわかる。

稲作複合農家に於いても，全農家が平均8.6haの「水稲」を中心に，「麦・雑穀」「露地野菜」「施設野菜」の他，「施設花」「果樹」の栽培「家畜」などの飼育農家もある等，稲作専業農家と同様，作付作目が多岐に亘る傾向を示している。

野菜農家に於いては，全農家の67.4％が「露地野菜」，47.8％が「施設野菜」の作付けを行なうと共に，80.4％が平均36.0haの「水稲」の栽培を行なっている。

畑作農家に於いては，全農家の94.7％が平均13.8haの「麦・雑穀」，86.8％が平均7.9haの「いも類」，及び31.6％が平均7.1haの「工芸作物」の栽培を行なっている。

酪農家に於いては，全体の98％が「乳牛」飼育農家で一戸平均頭数は98.0頭となっている。「肉牛」飼育農家は全体の4％と少ない。果樹農家に於いては，全農家が一戸平均4.6haの「果樹」，その他は「水稲」，「麦・雑穀」24.5％の作付をおこなっている。

(3)農業粗収入

昨年（1994年）の農業粗収入（農畜産物の販売金額）

表2-2　経営形態別作目・家畜

(戸数)

	経営形態																	
	稲作						野菜			畑作			酪農			果樹		
	専業			複合														
作目家畜等		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)		(%)	平均(ha)
水稲　ha	48	100.0	13.1	50	100.0	8.6	37	80.4	3.9	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	16	32.7	6.9
麦雑穀　ha	30	62.5	3.8	19	38.0	2.8	5	10.9	1.2	36	94.7	13.8	2	4.0	4.3	12	24.5	3.0
いも類　ha	5	10.4	0.5	6	12.0	1.6	11	23.9	2.4	33	86.8	7.9	2	4.0	8.6	3	6.1	0.5
露地野菜　ha	25	52.1	1.8	22	44.0	0.3	31	67.4	2.3	18	47.4	2.8	4	8.0	0.6	6	12.2	5.3
施設野菜　ha	11	22.9	2.5	17	34.0	0.1	22	47.8	2.8	1	2.6	0.6	0	0.0	0.0	4	8.2	0.1
施設花　m²	3	6.3	3200.0	3	6.0	1226.7	8	17.4	2569.3	2	5.3	70.8	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
工芸作物　ha	1	2.1	1.5	1	2.0	0.8	0	0.0	0.0	12	31.6	7.1	2	4.0	4.9	0	0.0	0.0
果樹　ha	1	2.1	3.5	3	6.0	2.3	1	2.2	1.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	49	100.0	4.6
乳牛　頭	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	2.6	80.0	49	98.0	98.4	0	0.0	0.0
肉牛　頭	2	4.2	8.5	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	2.6	13.0	4	8.0	111.0	0	0.0	0.0
肉豚　頭	1	2.1	70.0	1	2.0	150.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
繁殖豚　頭	0	0.0	0.0	1	2.0	23.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	2.0	9.0	0	0.0	0.0
鶏　羽	4	8.3	27.5	1	2.0	15.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	2	4.0	19.0	0	0.0	0.0
その他家畜	0	0.0	0.0	3	6.0	4.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	3	6.0	16.7	1	2.0	1.0
N.A.	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		1	2.0		0	0.0	
対象人数	48			50			46			38			59			49		

※複数回答

表 2-3　農業粗収入　　(人)

粗収入　(万円)	経営形態 稲作 専業(%)		稲作 複合(%)		野菜 (%)		畑作 (%)		酪農 (%)		果樹 (%)		計 (%)	
100未満	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.1	0	0.0	2	0.7
101～200	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.1	0	0.0	1	0.4
201～300	1	2.1	0	0.0	2	4.3	1	2.6	1	2.1	1	2.0	6	2.1
301～500	3	6.4	6	12.0	1	2.2	1	2.6	1	2.1	5	10.2	17	6.0
501～700	0	0.0	5	10.0	5	10.9	0	0.0	0	0.0	4	8.2	14	5.0
701～800	1	2.1	2	4.0	8	17.4	1	2.6	1	2.1	2	4.1	15	5.3
801以上	41	87.2	37	74.0	30	65.2	33	86.8	45	93.8	35	71.4	221	78.6
N.A.	1	2.1	0	0.0	0	0.0	2	5.3	0	0.0	2	4.1	5	1.8
計	47		50		46		38		48		49		281	

について，100万円未満から800万円以上の7段階に分けて質問を行なった。

表2－3に示すとおり，対象農家の農業粗収入は一戸平均800万円以上が78.6％，800万円～701万円が5.3％，700万円～501万円が5.0％，500万円～301万円が6.0％，300万円以下が9.2％で，800万円以上が約80％を占めている。

これを経営形態別にみると，800万円以上では該当農家の割合が多い順に，酪農家(90.0％)，畑作農家(86.8％)，稲作専業農家（85.4％），稲作複合農家（74.0％），果樹農家（71.4％），野菜農家（65.2％）の順になっている。

次に800万円～701万円台では，野菜経営の17.4％が最も多く他は4～2％台に止まっている。

700万円～501万円台では，野菜農家の10.9％，稲作複合農家の10.0％，果樹農家の8.2％となっている。

500万円～301万円台では，稲作複合農家の12.0％，果樹農家の10.2％，続いて稲作専業農家の6.3％となっている。

300万円以下では，酪農・野菜・稲作専業・畑・果樹の各経営となっている。

なお，800万円以下の層でみると，稲作複合農家では，700万円～301万円の層で22％，野菜農家では800万円～501万円の層で28.3％，果樹農家では700万円～301万円の層で12.3％の割合を示している。

北海道における農家の一戸平均農業粗収入は，稲作平均7,194.7千円，露地野菜平均10,204.2千円，畑作平均1,335.2千円，酪農29,275.2千円となっている。

(4)経営組織

経営組織は，表2－4の通り，全農家の9割(93.6％)以上が「個人経営」を行なっており，畑作及び果樹農家が100％を示した。

一方，稲作専業農家の「農業法人組織」[注5]，「農作業の共同化」参加或は形成の割合が目立って高かった。

また，稲作複合農家，酪農家に於いても「農業法人組織」各1戸，「農作業の共同化」各々2戸と3戸。

野菜農家に於いても「協業組織」[注6]を形成している農家が1戸あった。表2－4参照。

「個人経営」が圧倒的に多い対象農家の中で，稲作専業農家が「農業法人」や「農作業の共同化」に高い割合を示すと共に，稲作複合経営に於いても「農業法人化」や「農作業の共同化」志向がめだって現われている。

このことは，経営面積も広く，経済的基盤の安定と共に，農業への自立志向も高い姿の現われではないかと推察される。

なお，対象稲作経営農家の農業法人組織は1戸1法人

注5）「法律によって社会的に認められた権利義務をもつ組織体である。・・・農事組合法人は，農民3名以上の発起人により設立が認められ，議決権は1人1票であり，組合員以外の理事が認められないなどの特徴をもつ。」
「新版農業経営ハンドブック」全国農業改良普及協会　付録　農業経営用語解説　32．法人，農業生産法人，農業組合法人，（迫田登 稔）から引用

注6）「・・・2戸以上の農家が共同で土地・労働力・資本などを提供して，経営体を形成し，生産・販売・収益配分・危険負担までの，経営のすべてを共同で行なうものをいう。・・・協業経営には参加農家の全部門を協業経営に移し，個別の経営部門を解消させた全面協業経営と，特定の部門のみを協業経営とし，個別の経営は別個に存在する部門別協業経営とがある。」
「新版農業経営ハンドブック」全国農業改良普及協会
付録　農業経営用語解説
35．農業経営（共同経営），組織経営体，（関野 幸二）から引用

表 2-4　経営組織　（人）

経営形態	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
個人経営	36	75.0	48	94.1	45	97.8	38	100.0	46	92.0	49	100.0	262	92.9
農業法人組織	7	14.6	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	9	3.2
協業組織	0	0.0	0	0.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
農作業の共同化	5	10.4	2	3.9	0	0.0	0	0.0	3	6.0	0	0.0	10	3.5
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	48		51		46		38		50		49		282	

※複数回答

組織であった。

(5)主婦が従事する農作業及び農業経営

農業生産における主婦の役割は，近年，量・質共に増大・高度化の傾向をみせている。農家生活の健全な運営をはじめ，ゆとりある生活確保に深くかかわる農作業及び農業経営を主婦がどの様に担っているかを把握するため，その参加，参画状況について，1)農業生産活動への参加状況，2)農作業及び農業経営活動の内容，3)労働時間構造の点から調査した結果は各々次の様になった。

1）農業生産活動における基幹労働力の分担状況

農業生産活動における労働力の分担状況について，基幹労働力[注7]を中心に5項目に分類し質問を行なった結果，表2－5の通りとなった。

対象者全体の最も大きな特徴は，92.2％の主婦が「夫と共に基幹労働力」として農業生産労働に従事していることである。

又，「妻のみ基幹労働力」が対象農家中3.9％，11例あり，いづれも主婦が農業生産活動の重要な担い手となっていることがわかる。

これを，経営形態別にみると，いづれも8割以上10割以上近くが「夫と共に基幹労働」として従事しており，最も高い割合となった畑作農家では97.4％，最も低い割合となった稲作複合農家においても86.0％であった。

更に，「妻のみ基幹労働」が，稲作複合農家に6例，野菜農家に3例，稲作専業農家・果樹農家に各々1例づつあった。

なお，「夫のみ基幹労働」の農家が，稲作農家を除く各経営形態に1例づつ，「妻は家事に専念」が稲作専業農家と酪農家に1戸づつあった。

以上の結果によって，各経営形態共に，主婦が農業生産活動の重要な担い手として従事していることがよくわかった。

農作業が及ぼす生活への影響を，生活の充実や家族のゆとり等の視点からより深く探求する必要の所以はまさにこの点にあると云えるのではなかろうか。

表 2-5　農業生産活動の分担状況　（人）

生産活動	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
夫婦とも基幹労働	46	95.8	43	86.0	39	84.8	37	7.4	47	94.0	47	95.9	259	92.2
夫のみ基幹労働	0	0.0	0	0.0	1	2.2	1	2.6	1	2.0	1	2.0	4	1.4
妻のみ基幹労働	1	2.1	6	12.0	3	6.5	0	0.0	0	0.0	1	2.0	11	3.9
妻は家事に専念	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	2	0.7
その他	0	0.0	1	2.0	3	6.5	0	0.0	1	2.0	0	0.0	5	1.8
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	48		50		46		38		50		49		281	

注7）「基幹的労働者」とは，「農業就業人口」のうち，調査日前1年間のふだんの主な状態が「仕事に従事していた者」のことをいう。

なお，「農業就業人口」とは，「調査期間日前1年間に『農業のみに従事した世帯員』及び『農業と兼業の双方に従事したが，農業の従事日数が多い世帯員』」をいう。以上，「農林水産省農業センサス」を参照した。

表 2-6　農作業の種類数

項目	経営形態					
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹
	専業	複合				
農作業種類数	22	21	21	22	18	21

2）農作業・農業経営への従事内容

前項で対象農家の主婦達が，各々の農業経営に於いて，なくてはならない農業労働の担い手であることをみた。

では，主婦達が従事する「農業労働」の内容はどのようなものであろうか。

①農作業と②農業経営に区分して設問した結果は次のようになった。

①主婦が従事する経営形態別農作業内容

対象農家の主婦が従事する農作業の種類数を表2－6によってまとめてみた。

稲作専業農家及び畑作農家が22種類，稲作複合・野菜・果樹の各農家が21種類，酪農家が18種類と各経営形態共大差はなく，いづれも多種類の農作業に及んでいることがわかる。

次に「従事する」と答えた人数の多い順に作業内容をあげると表2－7のようになった。当然のことながら，

表 2-7　農作業の従事内容

順位＼項目	経営形態					
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹
	専業（48人）	複合（50人）	（46人）	（38人）	（50人）	（49人）
	作業名　人	作業名　人	作業名　人	作業名　人	作業名　人	作業名　人
1	播種 44 育苗 44	播種 45	収穫 41	除草 35	畜舎清掃 46	収穫 35
2	田植 43	育苗 43 除草 43 収穫 43	選別・荷造り 39	育苗 27 収穫 27	搾乳 44	摘心・心花 34
3	収穫 42	除防 40	除草 34	播種 26	分娩世話 42	選別・荷造り 33
4	除草 39	田植 39	播種 32	機械の補助作業 24	トラクタ運転 33	出荷 25
5	防除 37	選別・荷造り 30	出荷 28	トラクタ運転 18	給餌 30	除草 23
6	選別・荷造り 36	機械の補助作業 29	育苗 27	選別・荷造り 15	その他の機械作業 14	販売 22
7	出荷 28	灌水 27 出荷 27	田植 22	温度管理 13	機械の補助作業 13	播種 18
8	温度管理 27	温度管理 26	防除 21	出荷 10	収穫 11	機械の補助作業 14
9	機械の補助作業 26	摘心・摘花 19	機械の補助作業 17 摘心・摘花 17	その他の機械作業 9	除草 7	育苗 13 施肥 13
10	トラクタ運転 21 施肥 21	トラクタ運転 17	温度管理 13	施肥 6	播種 4	トラクタ運転 12
11	灌水 20	水管理 16	施肥 11	水管理 5 摘心・摘花 5 販売 5	育苗 3 出荷 3 販売 3 その他 3	その他の機械作業 9 田植 9 防除 9
12	その他の機械作業 12 摘心・摘花 12	その他の機械作業 15 施肥 15	灌水 9	防除 4	選別・荷造り 2	温度管理 7
13	耕耘 11	耕耘 12	トラクタ運転 7	耕耘 3 中耕 3	中耕 1 防除 1 温度管理 1	剪定 5
14	販売 9	剪定 9	その他の機械作業 5 販売 5	灌水 2	— —	灌水 4
15	剪定 8	販売 6	水管理 4 剪定 4	搾乳 1 畜舎清掃 1 分娩世記 1 その他 1	— —	その他 3
16	水管理 6	中耕 3	耕耘 1 中耕 1 その他 1	— —	— —	耕耘 2 水管理 2
17	中耕 5	その他 2	— —	— —	— —	中耕 1
18	給餌 1 その他 1	— —	— —	— —	— —	— —

経営形態における作付作物の種類によって作業内容に特徴が現われている。

稲作農家では（専業）（複合）共に，播種・育苗から始まり，水稲の生育管理から収穫・出荷に至るまで数多くの種類の作業にかかわっている。

これら農作業の種類の多様性をもたらしている原因の一つは，すでに述べたように「稲」以外に導入された他の稲作転換による作物等の影響とみることができよう。

また稲作農家における多くの主婦が従事している作業内容の中には，「防除作業」や各種「機械作業」等健康や人命の管理の上からも細心の注意を必要とする性質のものがあげられている。

稲作専業農家，稲作複合農家共に，「販売」をあげており，農家の主婦も「流通経済」にかかわる仕事に進出を始めていることがうかがえる。

野菜農家に於いては，稲作農家と同様な作業と共に「摘心・摘花」の作業があげられている。

この農家でも「販売」に従事している主婦がいる。

畑作農家では，「機械の補助作業」「トラクタ運転」等「機械」作業が上位に上がっている。

酪農農家に於いては，何といっても50人中46人が「畜舎の清掃」，44人が「家畜の飼育」，42人が「分娩の世話」と，家畜の飼育管理に主婦が最も重要な担い手となっている。

又，「機械作業」に従事する主婦も少なくない。

果樹農家に於いては，「収穫」「摘心・摘花」「選別・荷造り」が上位に上がり，続いて「出荷」「除草」「販売」の順となっている。

いづれも商品価値に留意し細心の注意を必要とする作業であると共に，「流通経済」にかかわる「販売」の仕事への従事がみられることが，果樹農家の特徴といえよう。

②主婦が従事する経営形態別農業経営内容

「農業の基幹労働力」として従事する農家主婦が単なる労働の担い手としてだけではなく，農業経営への適正な参画が農家生活近代化の課題となっているが，調査対象農家の主婦達がかかわる経営活動内容は，どのような姿になっているのであろうか。

表2－8によって，経営形態別に主婦の従事する経営内容の種類をみると，稲作専業，稲作複合，酪農の各経

表2-8　農業経営活動の種類数

項目	経営形態					
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹
	専業	複合				
経営活動の種類数	11	11	10	8	11	10

表2-9　農業経営の従事内容

順位＼項目	経営形態					
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹
	専業（48人）	複合（50人）	（46人）	（38人）	（50人）	（49人）
	作業名　人	作業名　人	作業名　人	作業名　人	作業名　人	作業名　人
1	作付・作業計画　17	作目や品種の決定　24	農業収入の管理　21	作付・作業計画　12 青色申告　12	経営簿記帳　11 その他　11	経営簿記帳　16 農作業日誌　16
2	青色申告　14	作付・作業計画　22	農作業日誌　20	農作業日誌　11	販売・出荷計画　8	作付・作業計画　15
3	経営簿記帳　12	作業日誌　21	青色申告　15	農業機械・施設等の改善計画　7	作付・作業計画　7 農作業日誌　7 青色申告　7 農業経営費の管理　7	販売・出荷計画　14
4	作目や品種の決定　11 農作業日誌　11	経営簿記帳　19 農業収入の管理　19 農業経営費の管理　19	経営簿記帳　13	販売・出荷計画　5 経営簿記帳　5	農業機械・施設等の改善計画　6 農業収入の管理　6 経営方針の決定　6	農業収入の管理　13
5	販売・出荷計画　9	販売・出荷計画　12	作付・作業計画　12	経営方針の決定　3	作目や品種の決定　2	青色申告　11
6	農業経営費の管理　8 その他　8	経営方針の決定　10	販売・出荷計画　11	農業経営費の管理　1	—　—	作目や品種の決定　10
7	農業収入の管理　7 経営方針の決定　7	青色申告　6	作目や品種の決定　9	—　—	—　—	農業経営費の管理　4 経営方針の決定　4
8	農業機械・施設等の改善計画　3	農業機械・施設等の改善計画　5	農業経営費の管理　8	—　—	—　—	農業機械・施設等の改善計画　3
9	—　—	その他　1	経営方針の決定　4	—　—	—　—	その他　2
10	—　—	—　—	その他　3	—　—	—　—	—　—

営が11種類，野菜，果樹経営が10種類，畑作経営が8種類の順になっている。農業経営活動の種類数は各経営共大差はないものの，最大11種類，最小8種類にのぼっていることがわかった。

次に，表2－9によって農業経営従事内容を経営形態別にみると，稲作専業農家では対象48人中，作付・作業計画えの参画が17人で1位，2位が青色申告14人，3位経営簿記帳12人，4位に作業日誌の記帳や作目・品種の決定11人と，各々1割台の農家が申告や記録に従事している。

稲作複合農家では対象50人中，作目や品種の決定に24人，作付・作業計画22人，作業日誌21人，経営簿記帳・農業収入の管理・農業経営費の管理各々19人，販売・出荷計画12人及び経営方針の決定に10人が従事し，以上あげた内容は全経営形態農家中，いづれも，最も多い従事人数となっている。

野菜農家に於いては対象46人中，農業収入の管理が21人で1位となっていることが，他の経営農家にみられない特徴であると共に，全経営形態中最も多い人数となっている。

更に農作業日誌20人は，稲作複合農家に続いて全経営形態中2番目であり，青色申告15人は全経営形態中1位の人数となっている。

また，経営簿記帳13人，販売・出荷計画11人，作目や品種の決定9人，農業経営費の管理8人，経営方針の決定4人と，1割～1割弱ではあるが農業経営管理や流通関係に従事している主婦がいることがわかった。

畑作農家に於いては，対象38人中12人が作付・作業計画，青色申告，に従事し，続いて作業日誌11人となっている。

更に農業機械・施設等の改善計画7人が3位にあげられている。これは他の経営形態にみられない特徴で，このことは，畑作農家の主婦達の機械の補助作業・トラクタの運転，その他の機械作業等，農業機械関係の農作業従事者が多いこと（資料表2－1参照）に大きく関係していることが伺える。

酪農家では，経営簿記帳，その他が各々11人，販売・出荷計画が8人で上位1，2位を占め3位，4位の，農業経営の重要項目に人数が集中していることが特徴的である。

また，農業機械・施設等の改善計画6人の従事者がいることは，畑作農家と同様な特徴によるものと思われる。

果樹農家では，経営簿記帳・農作業日誌の記帳など，記録への取り組みが上位を占め，作付・作業計画，販売・出荷計画，農業収入の管理，青色申告，作目や品種の決定など，重要な経営内容への2桁の人数の参画の姿がみられた。

全体を通して，農作業日誌，経営簿記帳，作付・作業計画，青色申告等が上位に上がっている。

この他に，農業経営費や農業収入の管理，販売・出荷計画，作目や品種の決定，経営方針の決定，等に参画している姿を各経営農家にみることができる。

このことは地についた農業経営への参画が徐々に進んでいることの現われではなかろうか。

3）農繁期・平常期・農閑期別にみた労働時間構造

1日24時間の生活時間における労働は，職業労働（生産労働）と家事労働によって構成される。

ここでは，農業生産労働と家事労働の担い手として働く主婦の労働時間を，農業作業の繁忙期・平常期・農閑期の3つの時期についてたずねた。

①農作業時間について

a．平均農作業時間（1人1日）

農繁期・平常期・農閑期別の1人1日平均労働時間は表2－10のようになった。

表2-10　平均農作業時間　　(1人1日平均)

	経営形態						全体平均
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
農繁期	11時間23分	10時間58分	10時間 3分	10時間53分	11時間25分	10時間 1分	10時間47分
平常期	8時間54分	7時間54分	7時間42分	8時間54分	7時間42分	8時間18分	8時間14分
農閑期	1時間42分	1時間36分	4時間48分	2時間30分	6時間 6分	1時間48分	3時間 5分

当然のこととは云え，主婦の従事する農作業時間は，農作業の繁・閑によって大きな違いが現われている。

多忙な農繁期の平均農作業時間は10時間47分という長さになっている。

これを経営形態別にみると，各形態農家いづれも10時間をこえ，稲作専業農家及び酪農家に於いては各々11時間23分，11時間25分という長い従事時間がみられる。

次に平常期の農作業時間の平均は8時間14分となり，農繁期に比較して2時間33分も短縮されている。

これを経営形態別にみると，農繁期との差が最も大き

かったのが酪農家4時間41分，続いて野菜農家3時間15分，稲作複合農家3時間03分，稲作専業農家2時間32分，果樹農家1時間56分，畑作農家1時間56分の順となっており，酪農家の差がめだって大きい。

農閑期の農作業時間は，平均3時間5分で，3期間中最も短い。

経営形態別の時間は，酪農家が6時間6分で最も長い。

続いて野菜農家が4時間48分，畑作農家が2時間30分と続き，稲作農家，果樹農家は各々1時間台で大差はない長さとなっている。

ここで，酪農家が農繁期より約6時間，平常期間より1時間36分短い時間になっているものの，他の経営形態農家よりめだって長い時間となっているのは，先に2．(5)2)①でみたように，季節性の少ない家畜の飼育管理が主婦の重要な役割となっているためと思われる。

次に農繁期に比較して約5時間短くなってはいるものの，酪農家に続いて長い農作業時間の野菜農家は，北海道農家の一般的な農閑期と考えられている1月～3月には，早くもビニールハウス内の農作業が始まるためと思われる。

また畑作農家においても，育苗作業が始まる時期と思われる。

b．最長・最短農作業時間

(a) 最長時間を表2－11によってみると農繁期の1人1日平均時間は15時間50分にも及んでおり，経営形態別にみて最も長時間に亙っているのは酪農経営の17時間である。ついで果樹農家の15時間50分，稲作専業農家及び畑作農家の15時間30分，稲作複合農家14時間，野菜農家の17時間となっており，野菜農家と酪農家の差は10時間にも及んでいる。

平常期については，「専業」「複合」の稲作農家が2形態共10時間で，畑作農家に比較して3時間短く，それ以外の3つの経営形態に比較して各々3時間短くなっている。

農閑期に於いては，稲作複合農家が7時間で最も短く，他は各々10時間，果樹農家は8時間30分となっている。

(b) 次に最短時間については，農繁期の1人1日平均時間が10時間48分となっており，全経営形態農家中最も短い果樹農家に於いても10時間，続く稲作複合のうかにおいても10時間6分と長く，他の経営形態農家では10時間54分，11時間24分といづれも平均時間を上回る長さになっている。

平常期については，稲作専業，畑作農家，果樹農家の各経営が平均を40分から4分上回っている他は，各々7時間台となり，平均より短い。

農閑期に於いては，ここでも酪農家と野菜農家とが，各々6時間6分，4時間48分となっており，全体の平均時間を上回っている。

主婦の従事する農作業時間についてアンケートの質問結果をもとにみてきたが，全体を通して各経営形態共長時間に亙っており，30代～40代の主婦は，ここでも，農業労働の担い手として，大きな役割を担っていることがうかがえる。

表2-11　最長・最短農作業時間　(1人1日平均)

		経営形態						全体平均
		稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
		専業	複合					
農繁期	最長	15時間30分	14時間 0分	17時間 0分	15時間30分	17時間 0分	15時間50分	15時間50分
	最短	0時間 0分	7時間 0分	5時間 0分	8時間 0分	0時間 0分	6時間 0分	4時間20分
平常期	最長	12時間 0分	10時間30分	12時間 0分	13時間 0分	12時間 0分	12時間 0分	11時間55分
	最短	0時間 0分	1時間 0分	0時間 0分	6時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	1時間10分
農閑期	最長	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分
	最短	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分

②家事作業時間について

a．平均家事作業時間（1人1日）

表2－12によって農作業の時期別に，1人1日平均家事作業時間（以下家事作業時間と云う）をみると，農繁期2時間31分，平常期3時間6分，農閑期3時間49分，となり，農作業にゆとりが生まれるに従って家事作業時間が増加の傾向をみせ，農繁期と平常期の差は35分，平常期と農閑期の差は43分，農繁期と農閑期の差は1時間18分，各々増加をみせている。

次に経営形態別農家の家事作業時間を農作業の時期別にみると，農繁期については長い順に，野菜農家が3時間，果樹農家が2時間59分で大差なく，残る4形態農家はいづれも2時間台で大差ない。

次に平常期について，長い順に酪農家3時間36分，野

表 2-12　平均家事作業時間　(1人1日平均)

	経営形態						全体平均
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
農繁期	2時間 6分	2時間26分	3時間 0分	2時間19分	2時間16分	2時間59分	2時間31分
平常期	2時間52分	3時間12分	3時間29分	2時間43分	3時間 4分	3時間15分	3時間 6分
農閑期	4時間 8分	3時間58分	3時間54分	3時間43分	3時間10分	4時間 1分	3時間49分

菜農家3時間29分，果樹農家3時間15分，稲作複合農家3時間12分と3時間台が続き，稲作専業農家は2時間52分，最も短い経営は畑作農家の2時間43分となっている。

農閑期に於いては，最も短い酪農家の3時間10分の他は，各経営形態共4時間前後で大差ない。

b.　農作業の時期別による家事作業時間の比較

以上の結果，主婦の従事する家事作業時間は農作業の繁閑によって影響を受けることがわかった。

そこで，農作業の最も多忙な農繁期と農作業の平常期及び農閑期の家事作業時間の時間差が，どのような長さにおかれているかを経営形態別にみてみることにする。

まず，農繁期と平常期についてみると，いづれも平常期が長い結果となっいる。

最も長い時間差を示しているのが酪農家の48分，次に稲作専業農家及び稲作複合農家の46分，続いて野菜農家29分，畑作農家24分，果樹農家16分の順となり，ここでは最も差の少ない果樹農家の16分が特徴をみせた。

次に農繁期と農閑期を比較すると，いづれの形態も差が大きく，最も大きな時間差を示しているのが，稲作専業農家の2時間2分，続いて稲作複合農家1時間32分，畑作農家1時間24分，果樹農家1時間2分，野菜農家54分の順となり，いづれも長時間となっている。

このようにみると，主婦の従事する家事作業時間は，農繁期と農閑期に於いて最も大きな差が生まれ，その時間差は最長2時間にも及ぶ経営形態のあることがわかった。

c.　最長・最短家事時間

表2－13によって農作業の時期別平均最長家事時間をみると，農繁期7時間10分，平常期7時間30分，農閑期8時間12分となっている。

これを経営形態別にみると，農繁期に於いては，稲作専業農家が10時間で，他の5形態は共に8時間となっており，稲作専業農家が大きな特徴を示している。

平常期に於いては，畑作農家の7時間，果樹農家の6時間，他の4形態は共に8時間となっており，果樹農家がめだって短い。

農閑期では，稲作専業農家か最も長く10時間で，他の5形態は共に8時間となっている。

全体を通して，稲作専業農家が農繁期・農閑期共に他の形態に2時間の差をつけて最も長時間となっている。

次に，最短家事時間については，農作業の時期別平均時間を表2－13によってみると，家事作業を行なっていない主婦が，各経営形態にいるが，この理由は，妊娠・出産によるものと考えられる。

③農作業時間と家事作業時間の関連

図2－1～図2－6は，主婦の農作業と家事作業時間の関連を農繁閑期別に図示したものである。

どの経営形態農家をみても，家事作業時間の長さは，農作業時間の長さに反比例して変化している。

①～②の項に於いてみてきたように，主婦の家事作業時間は従事する農作業の特徴によって大きく影響を受け

表 2-13　最長・最短家事作業時間　(1人1日平均)

		経営形態						全体平均
		稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
		専業	複合					
農繁期	最長	6時間 0分	7時間 0分	8時間 0分	7時間 0分	8時間 0分	7時間 0分	7時間10分
	最短	0時間 0分	0時間 0分	0時間36分	0時間 0分	0時間10分	1時間 0分	0時間15分
平常期	最長	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	7時間 0分	8時間 0分	6時間30分	7時間35分
	最短	0時間 0分	0時間30分	1時間 0分	0時間 0分	0時間20分	0時間 0分	0時間19分
農閑期	最長	10時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間20分
	最短	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	1時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間10分

図2—1 農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【全体平均】

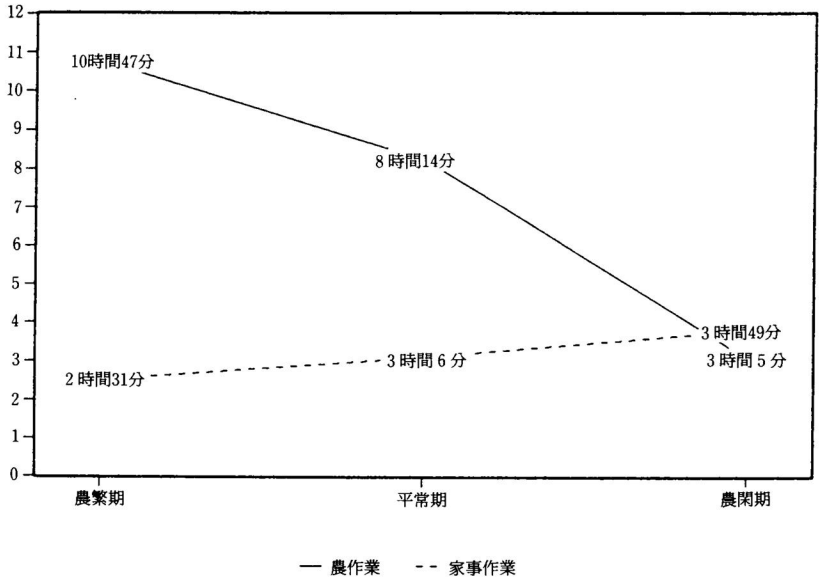


図2—2 農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【稲作専業】

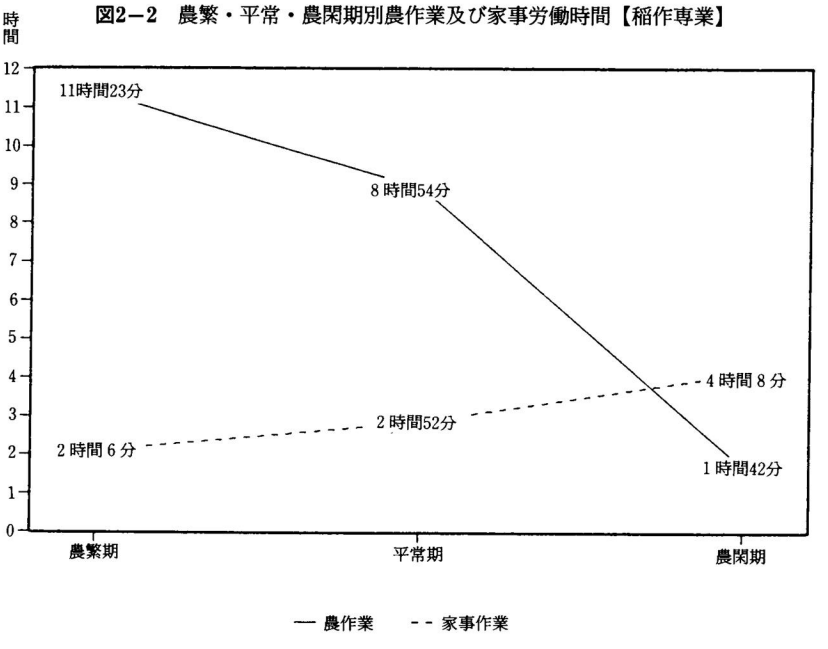


図2−3　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【稲作複合】

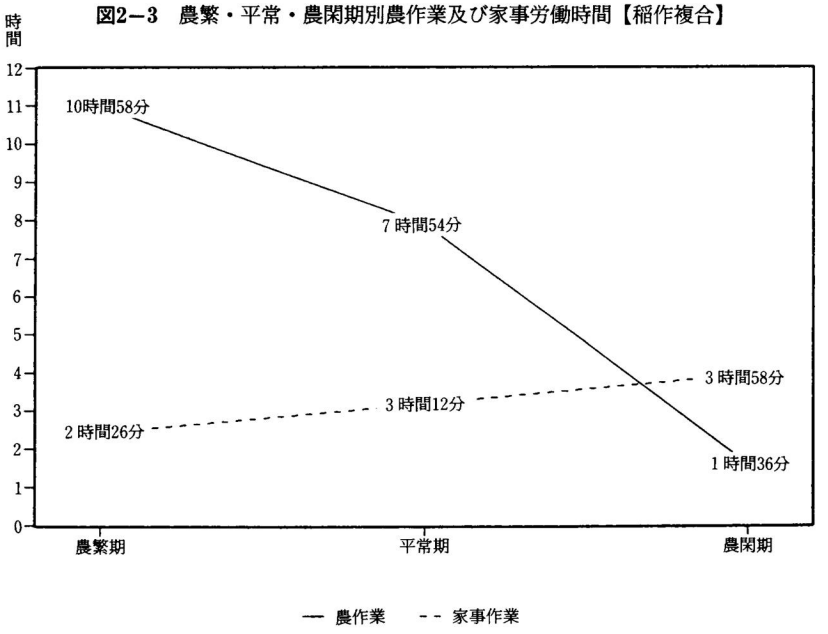


図2−4　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【野菜】

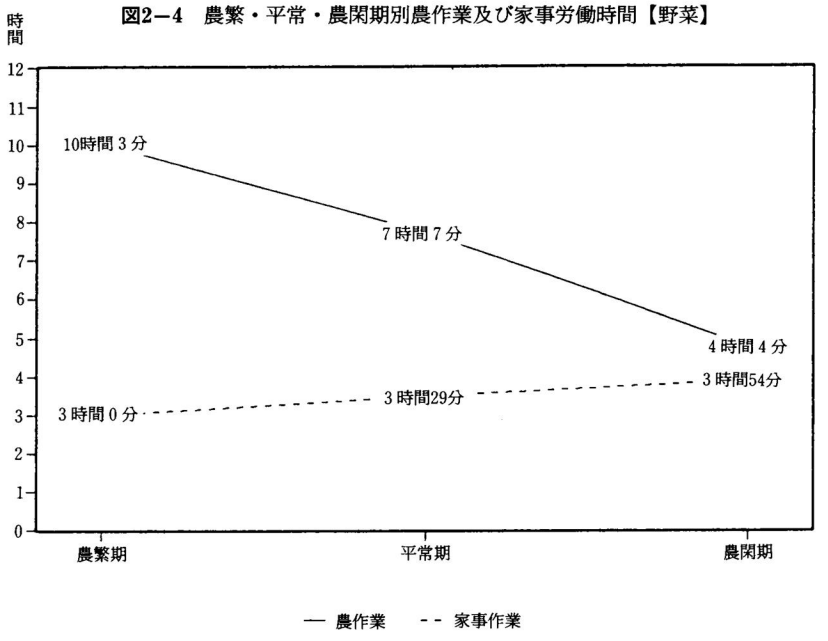


図2—5　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【畑作】

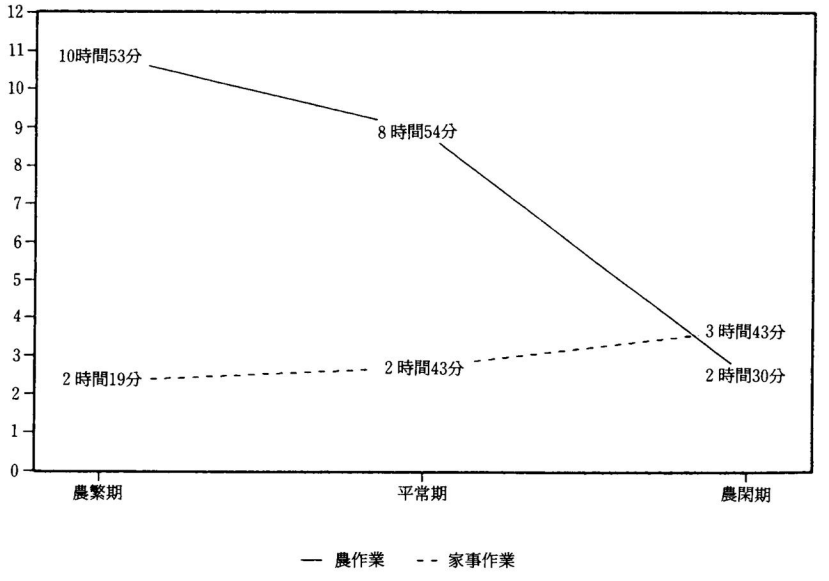


図2—6　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【酪農】

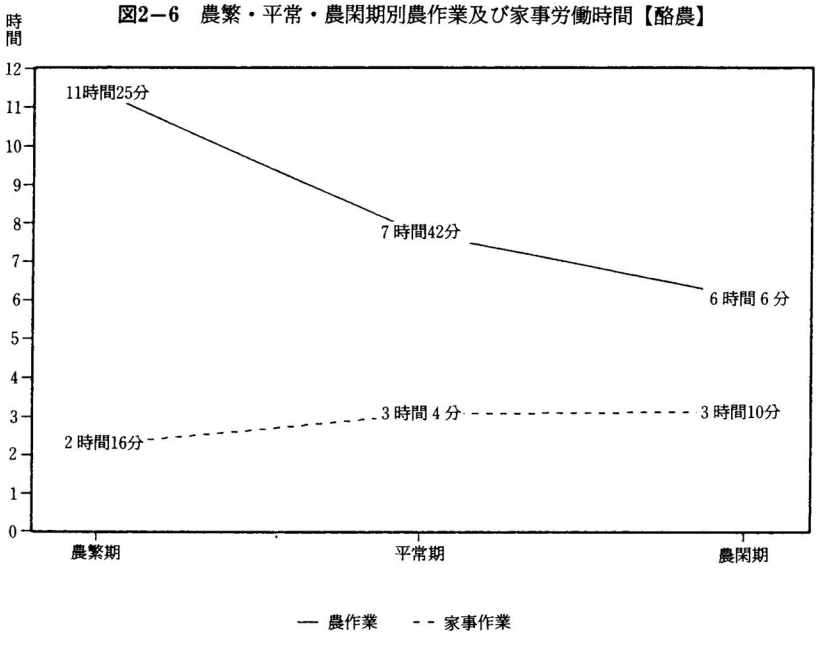
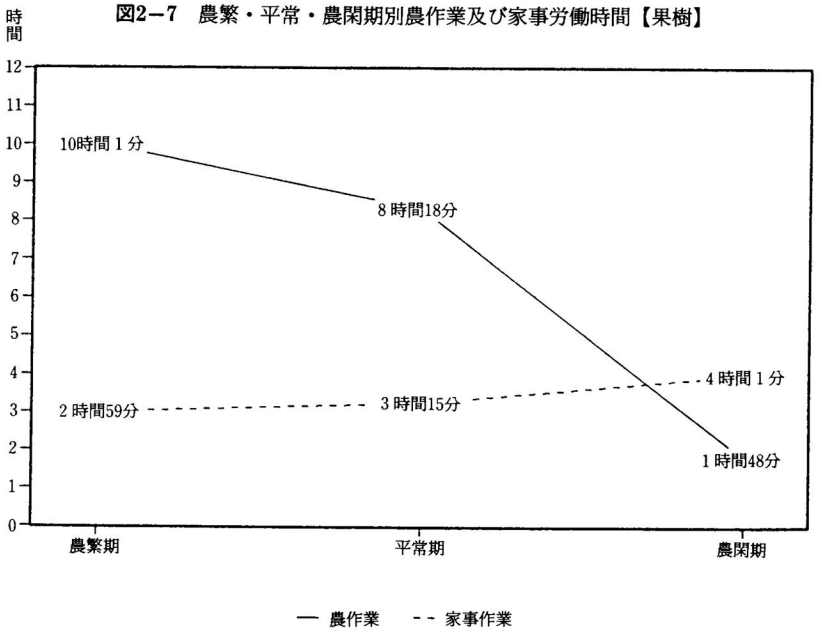


図2−7　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【果樹】



ることがわかった。

ここで明らかにされた農作業の特徴としてあげられるものは，イ.農業経営形態，ロ.イ.を形成する農作物の作目・家畜の種類，ハ.ロ.に基づく農作業歴の特徴，ニ.農作業の繁・閑，ホ.農作業労働従事構造，ヘ.家族形態(主婦以外の家事の担当者）等でこれらが，主婦の家事作業時間の長・短を規定する上での最も大きい要因となっていると云える。

例をあげると表2−10の農閑期における農作業時間は野菜農家と酪農家において，他の経営形態に比較し長い時間となっている。

このことは，野菜農家に於いてはまだ積雪のある2月，3月の時期からハウス作業他の作業が開始される。冬は農閑期と考えられていた北海道の農業には，冬の農閑期はなくなったとの声がきかれるようになって久しい。

又，酪農家に於いてはすでにみたように，主婦は家畜の飼育作業の重要な担い手である。その為，農作業の繁閑に関係なく，農作業としての作業量・作業時間に他の経営形態との違，い（特質）を有するなどがあげられ，生活時間からみた主婦の農作業と家事作業は大きな関連をもっていることがわかる。

④総労働時間について

表2−14はアンケートに基づく，各時期別の総労働時間である。

全体平均でみると農繁期は13時間18分で，どの経営形態農家も13時間以上と長時間に亘っている。

中でも酪農家の13時間41分がめだって長く，どの経営でも，農作業と家事作業に忙しい主婦の姿がめだった。

表2-14　農繁期・平常期・農閑期別主婦の労働時間(農作業＋家事作業)　(1人1日平均)

	経営形態						全体平均
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
農繁期	13時間29分	13時間24分	13時間 3分	13時間12分	13時間41分	13時間 0分	13時間18分
平常期	11時間46分	11時間 6分	11時間11分	11時間37分	10時間46分	11時間33分	11時間20分
農閑期	5時間50分	5時間34分	7時間42分	6時間13分	9時間16分	5時間49分	6時間54分

4）農業労働における主婦労働の評価と経済的自由度

①農業の労働報酬

対象農家の主婦が行なった農業労働に対して，その報酬はどのようなかたちになっているのであろうか。

表2－15によって調査の結果をみると，対象農家主婦のうち47人16.7％が「もらわない」と答えているものの，他の8割強が何らかの形で受け取っている。

その受け取り方をみると，「月給制」38.1％が最も多く，「労働報酬ではなく小遣い」17.8％，「いつでも自由」17.1％また，「収入のあった時」4.6％，「正月・祭りなどの時」3.9％，「その他」7.1％であった。

経営形態別にみると，畑作農家では「月給制」が68.4％で，全経営形態を通して最も高い割合を示し，続いて稲作専業農家が41.7％，野菜農家39.1％，酪農家36.0％となり，稲作複合農家と果樹農家が26.0％と24.5％で各々大差がなかった。

表2-15　労働報酬

（人）

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
月給制	20	41.7	13	26.0	18	39.1	26	68.4	18	36.0	12	24.5	107	38.1
収入のあった時にもらう	4	8.3	5	10.0	3	6.5	0	0.0	0	0.0	1	2.0	13	4.6
正月,祭等の時にもらう	1	2.1	1	2.0	1	2.2	0	0.0	2	4.0	6	12.2	11	3.9
いつでも自由にもらう	8	16.7	12	24.0	8	17.4	4	10.5	7	14.0	9	18.4	48	17.1
労働報酬ではなく小遣い	7	14.6	6	12.0	5	10.9	5	13.2	18	36.0	9	18.4	50	17.8
その他	4	8.3	5	10.0	3	6.5	0	0.0	4	8.0	4	8.2	20	7.1
もらわない	8	16.7	12	24.0	8	17.4	3	7.9	7	14.0	9	18.4	47	16.7
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

全体的にみて，どの経営形態でも，毎月決まって受け取る「月給制」が最も高い割合であった。

また，「収入のあった時」「正月・祭りなどの時」といったボーナス型の受け取り方をしている農家は，各形態共に少なく，畑作農家では該当農家はなく，酪農家では前者が皆無で，後者が2戸。

稲作複合農家で5戸。稲作専業農家で4戸。野菜農家は3戸にとゞまっている。

これに対して不定期性の強い「いつでも自由」と答えた農家が，稲作複合農家で24.0％，果樹農家で18.0％，稲作専業農家で16.7％，酪農家14.0％となっている。

次に，「労働報酬ではなく小遣い」と答えた農家は，酪農家が最も多く36.0％，続いて果樹農家18.4％，稲作専業農家が14.6％，畑作農家13.2％，稲作複合農家12.0％，野菜農家10.0％の順になり，酪農家，果樹農家を除けば，他は大きな差はみられなかった。

「労働報酬はもらわない」は，稲作複合農家で最も多く24.0％，続いて果樹農家18.4％，野菜農家17.4％，稲作専業農家16.7％，酪農家14.0％で，各々2割弱から1割台となっている中で，畑作農家が7.9％で最も少ない。

以上のように調査の結果をみると，ひと口に労働報酬といってもその対応は各農家の実情によって多様であることがうかがえる。

その中で，最も割合の大きかった「月給制」についてみると，農家家計費の確保と計画的運営を目的に，長年に亙って取り組んできた「家計費の月給制」の推進が，近年北海道に於いても定着をみ，「労働報酬」と特定されないものの，毎月の家計費の中に主婦の収入となり得る金額が含まれている場合が多くなった。

このことは日頃から主婦達の声によっても具体的にうかがい知ることができる。更に，この調査に示されたように，「労働報酬ではなく小遣い」及び「いつでも自由に」の項目に281人中合わせて50人の回答が集中していることからも，小遣いとして支給の姿が推察される。

従って労働に見合った内容がどの程度見積もられているのか，また金額についても問題である。

「労働報酬をもらわない」という回答については，その意味は重要である。

原因としては例えば，農家経済にかかわる経済的制約，家族の理解等にかかわる人間関係的制約，その他家族経営農業にかかわる農業観等，農家生活の中にある種々の要因が考えられる。そしてこのことは，農業の近代化にとっても大きな課題である。

以上，主婦の労働報酬の形態は各々異なってはいるが，何らかの形でその取り組みは行われている。

しかし，主婦の納得のいく形で，農家生活に位置づけされるという主体性や経済的自由度が問題である。足許

からの地についた主婦労働の経済的価値評価を実現することが，農業の近代化の今日的重要課題といえよう。

②労働報酬の受け取り方

労働報酬の受け取り方は表2－16のようになった。全体として最も多かったのは，「夫から」の249人中119人で47.8％5割近くであった。続いて「家計費から」が80人で32.1％となっている。

経営形態別にも同様の傾向で，酪農家が「夫から」の18人で36.7％に比較して，「家計費から」が23人で46.9％と高く，果樹農家は「夫から」の15人で36.6％と「家計費から」が同数の15人で36.6％となった。

また，義父・義母からが10例，その他が各経営形態別に3～7例あるが内容はわからない。

農作業を中心とする主婦の報酬や小遣いの管理には，夫の決定権が大きく作用することがうかがえる。

③自分名義の預金通帳

主婦が自分名義の預金通帳の有無についての結果は図2－8のようになった。全体として94.0％が「有」と答えている。

経営形態別にみると，稲作専業農家で100％，野菜農家が全体平均を下回る80.4％が特徴的であった。

全体的には，所有率は9割以上を占めているが，実際には預金通帳の所有の契機，金額や使用の自由度等について，どの程度の配慮が行なわれているかが問題である。

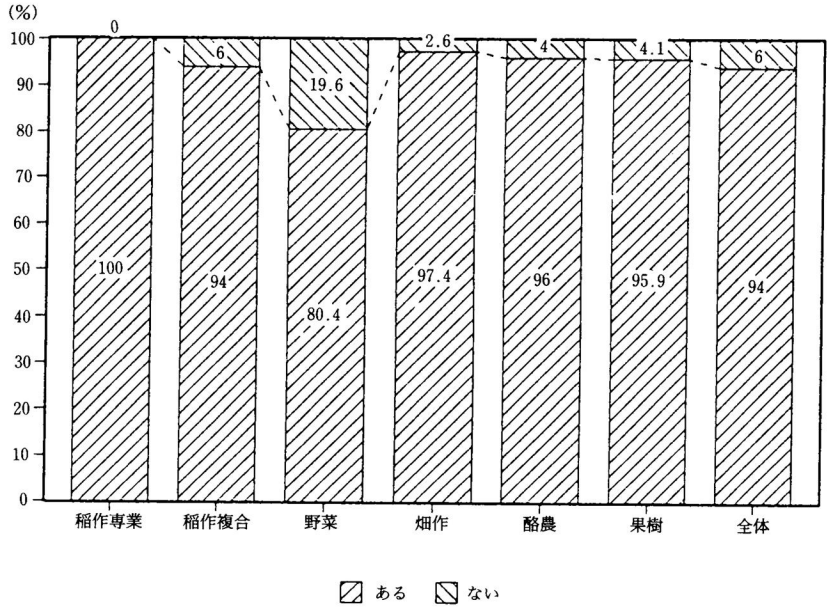
表2-16　労働報酬の受取り方

（人）

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
夫からもらう	26	59.1	19	45.2	20	52.6	21	60.0	18	36.7	15	36.6	119	47.8
義父からもらう	0	0.0	3	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.9	5	2.0
義母からもらう	1	2.3	0	0.0	2	5.3	0	0.0	0	0.0	2	4.9	5	2.0
家計費からもらう	8	18.2	12	28.6	12	31.6	10	28.6	23	46.9	15	36.6	80	32.1
その他	5	11.4	7	16.7	5	13.2	3	8.6	3	6.1	4	9.8	27	10.8
N.A.	4	9.1	0	0.0	0	0.0	1	2.9	0	0.0	3	7.3	8	3.2
対象人数	44		42		38		35		49		41		249	

※複数回答

図2－8　自分名義の預金通帳



3. 家事運営と家計管理

(1)家事の担当者

図3－1によると，全体として妻がよくやる家事の第1は「買い物」(95.7％)，ついで「せんたく」(95.0％)である。その他では，「食器洗い」(87.2％)，「そうじ」(84.0％)，「子供の世話」(83.6％)，「料理」(81.5％)の順であるが，いずれにしても妻の担当は8割以上である。しかし，今回の調査における妻による「料理」の担当率が，ここにあげた家事労働6項目のなかでは最も低かった点は，勤労者世帯の主婦あるいは勤労者共働き世帯の主婦が担当している家事内容とは異なった傾向である[注8)]。

さらに表3－1より妻がよくやる家事を経営形態別にみると，野菜農家の妻の家事担当率は全体に高く，逆に酪農家の妻の家事担当率は各項目において低い傾向にあった。

以上の結果から，全体的にみて「買い物」，「せんたく」は妻がよくやる家事として位置づけられよう。ではそれ以外で妻が担当する割合の低い家事については，誰が担っているのであろうか。今回の調査では，妻以外に夫，親，およびそれ以外の人の家事担当状況について質問している。

前掲図3－1によると，妻の担当率が低い家事の多くを担っているのは，親であるといえよう。妻において担当率が低かった家事のうち，親が担当している割合が高いのは「料理」(34.9%)，「食器洗い」(33.1%)，「そうじ」(30.6%)であり，いずれも30パーセント以上であった。

さらに親がよくやる家事を表3－2より経営形態別にみると，特に稲作専業農家および酪農家において親の「料理」の担当率は50％を越えており，この場合「食器洗い」についても親の担当率が高くなっている。

図3-1　家事の担当者（全体）　―妻と親―

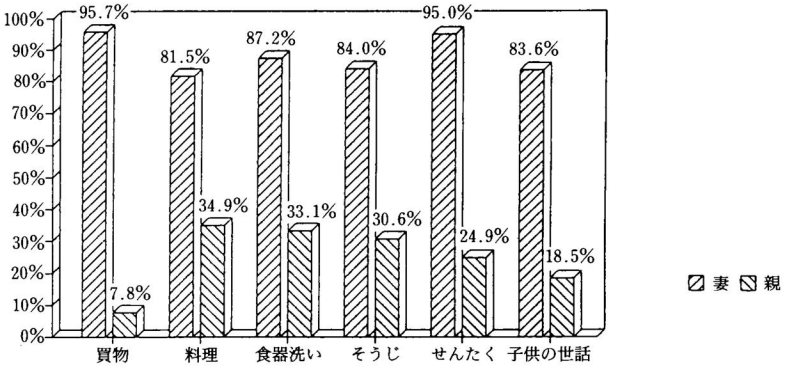


表3-1　妻がよくやる家事

	経営状態											
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹	
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
買物	47	97.9	47	94.0	46	100.0	37	97.4	46	92.0	46	93.9
料理	39	81.3	46	92.0	42	91.3	30	78.9	30	60.0	42	85.7
食器洗い	42	87.5	42	84.0	42	91.3	33	86.8	38	76.0	48	98.0
そうじ	40	83.3	42	84.0	44	95.7	30	78.9	37	74.0	43	87.8
せんたく	47	97.9	50	100.0	44	95.7	31	81.6	46	92.0	49	100.0
子供の世話	40	83.3	42	84.0	43	93.5	30	78.9	38	76.0	42	85.7
対象人数	48		50		46		38		50		49	

注8）NHK「国民生活時間調査」(1990) によると，平日に専業主婦がする家事のうち行為者率が高いものは炊事（98％），洗濯（88％），掃除（78％），また共働女性（フルタイム）では，炊事（95％），洗濯（69％），掃除（40％），共働女性（パートタイム）では，炊事（98％），洗濯（85％），掃除（59％）である。

こうした親の家事担当状況は家族形態に影響されることは当然である。前述のように調査対象の8割以上が親との同居形態をとっており，妻が農作業等において主要な労働力を担う一方，親は家事（主に炊事，そうじ）を分担するといった役割関係にある。むしろそうした関係がなければ，多くの農家世帯は成り立っていかないともいえようか。

夫の家事担当状況については，全体的には「子供の世話」(10.3％）と「買い物」(5.3％）が注目されるが，いずれも担当率は低かった。特に経営形態別にみて，果樹農家と稲作専業農家においては夫の家事担当がほとんどみられなかった（資料3－1)。

それ以外の家事担当者としては，「その他の人」が挙げられるが，子供を含めた他の家族員なのか，あるいは他人を雇用しているのかといった具体的な内容は今回の調査では質問していない。「その他の人」が担当する家事としては，全体では「食器洗い」(8.5％)，「そうじ」(7.1％)，「料理」(6.4％)がわずかにみられた程度である(資料3－2)。

(2)家庭外サービスの利用状況

今日代表的と思われる家庭外サービスを16項目あげ，それらについて現在の利用状況と今後利用したいものについて質問した結果は，表3－3のようになった。

サービス項目によって利用の頻度に差異があるので，全体的な利用状況を把握するため，はじめに各種サービスを「ほとんど利用しない」と回答した結果について分析する。それによって逆に現在の利用状況をたどってみることにする。

表3-2　親がよくやる家事

	経営状態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
買物	7	14.6	2	4.0	3	6.5	4	10.5	4	8.0	2	4.1	22	7.8
料理	29	60.4	12	24.0	6	13.0	18	47.4	26	52.0	7	14.3	98	34.9
食器洗い	23	47.9	13	26.0	8	17.4	18	47.4	26	52.0	5	10.2	93	33.1
そうじ	22	45.8	15	30.0	8	17.4	16	42.1	17	34.0	8	16.3	86	30.6
せんたく	17	35.4	5	10.0	6	13.0	14	36.8	21	42.0	7	14.3	70	24.9
子供の世話	16	33.3	4	8.0	5	10.9	5	13.2	20	40.0	2	4.1	52	18.5
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

表3-3　家庭外サービスの利用状況（全体）　　単位：人，（　）は%

	ほとんど毎日利用	週に1～2回利用	月に1～2回利用	ほとんど利用しない	今後利用したい
クリーニング	7 (2.5)	10 (3.6)	164 (58.4)	95 (33.8)	4 (1.4)
調理済み食品	8 (2.8)	84 (29.9)	81 (28.8)	86 (30.6)	3 (1.1)
加工・冷凍食品	21 (7.5)	117 (41.6)	90 (32.0)	46 (16.4)	5 (1.8)
できあいの惣菜	4 (1.4)	58 (20.6)	97 (34.5)	111 (39.5)	2 (0.7)
漬け物	59 (21.0)	20 (7.1)	38 (13.5)	145 (51.6)	0 (0.0)
持ち帰り弁当	1 (0.4)	3 (1.1)	31 (11.0)	234 (83.3)	2 (0.7)
店屋物の出前	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (4.6)	250 (89.0)	4 (1.4)
献立材料の宅配サービス	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.1)	251 (89.3)	14 (5.0)
給食センター	6 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	250 (89.0)	6 (2.1)
保育所・託児所	49 (17.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	198 (70.5)	4 (1.4)
ベビーシッター	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	240 (85.4)	3 (1.1)
家政婦	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	241 (85.8)	7 (2.5)
デイサービス	1 (0.4)	9 (3.2)	3 (1.1)	229 (81.5)	12 (4.3)
ホームヘルパー	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.7)	235 (83.6)	12 (4.3)
農協・銀行の振替	5 (1.8)	20 (7.1)	171 (60.9)	57 (20.3)	21 (7.5)
キャッシュカード	0 (0.0)	16 (5.7)	136 (48.4)	105 (37.4)	9 (3.2)
計	281(100.0)	281(100.0)	281(100.0)	281(100.6)	281(100.0)

全体的にみて「ほとんど利用しない」とする家庭外サービスは，「献立材料の宅配サービス」(89.3％)，「店屋物の出前」(89.0％)，「給食センター」(89.0％)，「ベビーシッター」(85.5％)，「ホーム・ヘルパー」(83.6％)，「持ち帰り弁当」(83.3％)，「デイ・サービス」(81.5％)において高率であり，いずれも8割以上がほとんど利用していない。

逆に，「ほとんど利用しない」とする割合が低かった項目は順に，「農協・銀行等の振込」(20.3％)，「調理済み食品」(30.6％)，「クリーニング」(33.8％)，「キャッシュカード」(37.4％)，「できあいの惣菜」(39.5％)であり，これらは全体として家庭外サービスの利用がかなりおこなわれていることになる。

つぎに，利用頻度を合わせて考察すると，「ほとんど毎日利用する」家庭外サービスとしては「漬け物」(21.0％)と「保育所・託児所」(17.4％)があげられた。このうち「漬け物」については，「ほとんど利用しない」(51.6％)も半数以上あり，両極に分かれている。「保育所・託児所」の利用は該当する年齢の子どもの有無によって，また施設の設置状況によっても異なる。必要な場合には，ほとんど毎日の利用になるのは当然である。

「週に1～2回利用するサービス」としては，「加工・冷凍食品」(41.6％)があげられ，ほぼ半数近くの農家で利用されている。つづいて「調理済み食品」(29.9％)，「できあいの惣菜」(20.6％)である。先の「漬け物」も含め，これら食生活に関する家庭外サービスの利用が農家においてもかなりおこなわれている様子がうかがえる。

「月に1～2回利用する」サービスとしては，「農協・銀行などの振替」(60.9％)と「クリーニング」(58.4％)があげられ，全体の6割前後が利用している。「キャッシュカード」(48.4％)の利用率も高い。その他「できあいの惣菜」(34.5％)，「加工・冷凍食品」(32.0％)，「調理食品」(28.8％)についても，「月に1～2回利用する」が3割程度みられた。

経営形態別にみて，家庭外サービスの利用に特に大きな差異はみられなかった（資料3－3）。また，「今後利用したいもの」としてあげられた家庭外サービスとしては，酪農家において「献立材料の宅配サービス」(10.0％)と「農協・銀行などの振替」(40.0％)が比較的高率であった。

(3)自家用加工品・自給現物の自家利用の状況

自家用加工品および自給現物の自家利用の有無について質問した結果は，図3－2，図3－3のようになった。

全体的にみて，自家用加工品が「ある」と回答した世帯は8割近くあった。また自給現物の自家利用については9割近くが「ある」と答えている。

経営形態別にみると，自家用加工品が「ある」と回答したのは稲作複合農家(98.0％)において最も多く，つづいて果樹農家(81.6％)，野菜農家(80.4％)，稲作専業農家(77.1％)，畑作農家(76.3％)の順であった。酪農家では約半数強(54.0％)と比較的少なかった。

自給現物の自家利用については，いずれの経営形態においても8割～9割以上と，ほとんどの農家が何かしら自家利用している。

表3－4により自家用加工品を利用する主な理由をみてみると，全体では「おいしい」(52.3％)，「買うより安全」(43.8％)といった理由があげられている。そうした理由にさらに，「つくる楽しみ」や，「家庭が楽しみにしている」とか，「買うより安上がり」といった経済性がプラスしている。

経営形態別にみると，いずれの場合にも自家用加工品

図3-2　自家用加工品の利用状況

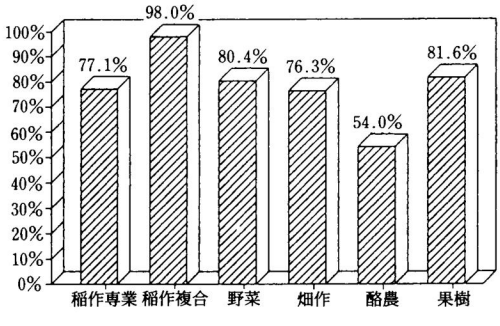


図3-3　自給現物の自家利用の状況

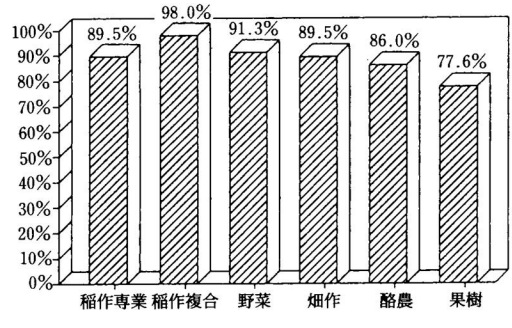


表 3-4　自家用加工品を利用する理由

	経営状態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
売物にならい	1	2.7	1	2.0	2	5.4	3	10.3	1	3.7	6	15.0	14	6.4
買うより安上がり	13	35.1	23	46.9	9	24.3	11	37.9	8	29.6	8	20.0	72	32.9
買うより安全	22	59.5	35	71.4	16	43.2	18	62.1	13	48.1	19	47.5	123	56.2
おいしい	23	62.2	38	77.6	22	59.5	19	65.5	16	59.3	29	72.5	147	67.1
質がよい	12	32.4	22	44.9	4	10.8	6	20.7	5	18.5	9	22.5	58	26.5
つくる楽しみ	22	59.5	32	65.3	9	24.3	11	37.9	12	44.4	12	30.0	98	44.7
家族が楽しみにしている	8	21.6	19	38.8	5	13.5	9	31.0	12	44.4	13	32.5	66	30.1
そ　の　他	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	5.0	3	1.4
対象人数	37		49		37		29		27		40		219	

※複数回答

表 3-5　自給現物を自家利用する理由

	経営状態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
売物にならない	3	7.0	2	4.1	12	28.6	2	5.9	0	0.0	5	13.2	24	9.6
買うより安上がり	18	41.9	36	73.5	21	50.0	21	61.8	16	37.2	13	34.2	125	50.2
買うより安全	23	53.5	38	77.6	16	38.1	18	52.9	14	32.6	13	34.2	122	49.0
おいしい	38	88.4	45	91.8	33	78.6	30	88.2	37	86.0	28	73.7	211	84.7
質がよい	9	20.9	27	55.1	8	19.0	13	38.2	9	20.9	15	39.5	81	32.5
つくる楽しみ	25	58.1	36	73.5	7	16.7	17	50.0	25	58.1	9	23.7	119	47.8
家族が楽しみにしている	9	20.9	25	51.0	3	7.1	12	35.3	14	32.6	9	23.7	72	28.9
そ　の　他	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	5.3	3	1.2
対象人数	43		49		42		34		43		38		249	

※複数回答

は「おいしい」と評価されており，特に稲作複合農家ではおいしさ，質の良さ，安全性についての評価が高い。果樹農家においても自家用加工品は「おいしい」と評価している。しかし酪農家では，おいしさ，安全性，つくる楽しみ等についても評価はあまり高くない。

つぎに自給現物を自家利用する理由について，表3－5によると全体ではやはり「おいしい」(84.7％)があげられ，ついで「買うより安上がり」(50.2％)，「買うより安全」(49.0％)，「つくる楽しみ」(47.8％)があげられた。「売り物にならない」(11.0％)は，理由としては少ない。

経営形態別にみても，いずれの場合も「おいしい」という理由が第1にあげられている。ただし，果樹農家では，この理由は比較的低率である。これに対して稲作複合農家では9割以上が「おいしい」をあげている。「買うより安上がり」という理由は稲作複合農家（73.5％）および畑作農家（61.8％）において比較的高い。

(4)家計費の記録状況

日常の家計費の出入りをどのように記録しているかについて質問した結果は，表3－6のようになった。

全体的にみると家計費の記録を「特に何もつけていない」(27.0％)が3割弱で，残りの約7割の農家は，何らかの形で家計費の記録をつけていることになる。

全国の家計簿記帳状況を日銀貯蓄広報中央委員会「貯蓄と消費に関する世論調査」(平成4年)によってみると，

表 3-6　家計費の記録方法

	経営状態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
市販の家計簿	2	4.2	4	8.0	7	15.2	4	10.5	4	8.0	4	8.2	25	8.9
雑誌などの付録の家計簿	5	10.4	10	20.0	3	6.5	12	31.6	6	12.0	6	12.2	42	14.9
農協の家計簿	14	29.2	18	36.0	11	23.9	3	7.9	8	16.0	8	16.3	52	22.1
レシート等をとっておき後でまとめてつける	17	35.4	13	26.0	11	23.9	3	7.9	8	16.0	8	16.3	62	22.1
自分で記録簿を作りつけている	8	16.7	5	10.0	12	26.1	5	13.2	3	6.0	9	18.4	42	14.9
記録は特に何もつけていない	13	27.1	9	18.0	10	21.7	12	31.6	18	36.0	14	28.6	76	27.0
そ の 他	1	2.1	2	4.0	0	0.0	3	6.0	5	10.2	11	3.9	11	3.9
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

表 3-7　家計管理上の問題点

	経営状態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
交際の費用がかさむ	20	41.7	20	40.0	26	56.5	12	31.6	28	56.0	19	38.8	125	44.5
物が豊富だが何をどう買ったらよいかわからない	6	12.5	2	4.0	2	4.3	2	5.3	3	6.0	2	4.1	0	0.0
子供の教育費がかさむ	17	35.4	18	36.0	18	39.1	14	35.8	20	40.0	10	20.4	97	34.5
現物生産物をもっと有効に使いたい	11	22.9	19	38.0	14	30.4	7	18.4	6	12.0	7	14.3	54	22.8
子供のこづかいの与え方	7	14.6	6	12.0	2	4.3	0	0.0	5	10.0	2	4.1	22	7.8
医療費がかさむ	6	12.5	7	14.0	3	6.5	1	2.6	4	8.0	1	2.0	22	7.8
収入が不規則である	4	8.3	4	8.0	10	21.7	2	5.3	1	2.0	22	44.9	43	15.3
農協の口座より一括落とされるので支出内容が不明	1	2.1	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	3	6.1	6	2.1
青色申告はしているが家計費は推計	9	18.8	4	8.0	4	8.7	3	7.9	0	0.0	2	4.1	22	7.8
上手な貯蓄の仕方がわからない	11	22.9	8	16.0	5	10.9	6	15.8	3	6.0	6	12.2	39	13.9
自分が財布をまかされていない	5	10.4	2	4.0	2	4.3	2	5.3	2	4.0	2	4.1	15	5.3
自分名義の預貯金の通帳がない	0	0.0	0	0.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
借金負債が負担	4	8.3	8	16.0	4	8.7	8	21.1	6	12.0	10	20.4	40	14.2
特にない	5	10.4	8	16.0	6	13.0	7	18.4	28	16.0	12	24.5	46	16.4
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

全国では「つけている」(25.5％)と「ときどきつけている」(20.6％)をあわせても家計簿の記帳状況は50パーセントを下回っており，「つけていない」(53.0％)世帯の方が多い。さらに市郡規模別にみた場合には，大都市よりも郡部の方が若干家計簿記帳率は高いものの，世帯主職業別にみると農林漁業者の家計簿記帳率はむしろ低くなっている。これらに比較すると，今回調査における農家の家計簿記帳率は記録方法はどうであれ，非常によいといえよう。

次に家計費の記録方法をみると，全体的にみて最も多かったのは「レシート等をとっておき後でまとめる」(28.5％)であり，つづいて「農協の家計簿」(22.1％)，「雑誌などの付録の家計簿」(14.9％)，「自分で記録簿を作りつけている」(14.9％)が1割程度みられた。

経営形態別にみると，「市販の家計簿」利用は野菜農家において比較的多く，「雑誌などの付録の家計簿」は畑作農家において比較的多かった。また「農協の家計簿」は，稲作複合農家において多くみられ，「レシート等をとって

おき後でまとめる」は，野菜農家および稲作専業農家において若干多くみられた。「自分で記録簿を作りつけている」は野菜農家および稲作専業農家において若干多くみられた。「自分で記録簿を作りつけている」は野菜農家に多くみられた。「記録は特に何もつけていない」は，酪農家および畑作農家においては3割以上と他に比較すると多い。

(5)家計管理上の問題点

家計管理上，現在問題となっていると思うことを複数回答で質問した結果は，表3－7のようになった。

全体的にみると，問題点としてあげられた上位3項目は，「交際の費用がかさむ」(44.5％)，「子どもの教育費がかさむ」(34.5％)，「現物生産物をもっと有効に使いたい」(22.8％)であった。第4位に「特にない」(16.4％)が続く。これ以外では，「収入が不規則である」(15.3％)，「借金負債が負担」(14.2％)，「上手な貯蓄の仕方がわからない」(13.9％)が1割程度の回答率でみられた。経営形態別にみると，野菜農家と酪農家では，調査対象の半数以上が「交際の費用がかさむ」ことを問題点としてあげている。また，「現物生産物をもっと有効に使いたい」は，稲作複合農家（38.0％），野菜農家（30.4％）において高く，果樹農家では「収入が不規則である」(44.9％)ことを問題点とする場合が多かった。

(6)家庭の管理運営上，今後身につけたいこと

表3－8は，家庭生活を管理・運営していくために，今後さらに身につけたいと思っていることを順に3位まで挙げてもらった結果のうち，第1位にあげられた項目である。

全体では，「家族の健康管理の方法」(17.8％)が最も多くあげられ，以下「得意な料理の種類をふやす」(17.4％)，「ワープロやパソコンの利用技術」(13.5％)，「特にない」(11.7％）の順であった。

経営形態別に上位項目についてみると，稲作専業農家では「得意な料理の種類をふやす」(22.9％)，「家族の健康管理の方法」(20.8％)，稲作複合農家では「ワープロやコンピュータの利用技術」(22.0％)と「家族の健康管理の方法」(18.4％)および「手近かにできる農畜産物加工方法」(18.4％)であった。野菜農家では「得意な料理の種類をふやす」(17.4％)と「子どものしつけと教育方法」(15.2％)があげられた。畑作農家では「得意な料理の種類をふやす」(23.7％）と「家族の健康管理の方法」(21.1％）が，酪農家では「得意な料理の種類をふやす」(20.0％）と「特にない」(14.0％)，果樹農家では「家族の健康管理の方法」(24.5％)と「子どものしつけと教

表3-8　今後身につけたいこと（1位）

	経営状態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
「得意な料理」の種類をふやすこと	11	22.9	6	12.0	28	17.4	9	23.7	10	20.0	5	10.2	49	17.4
手近にできる農畜産加工法	2	4.2	9	18.0	2	4.3	5	13.2	7	14.0	2	4.1	27	9.6
冷凍食品の加工利用方法	3	6.3	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.4
裁縫・仕立て・リフォームの方法	1	2.1	3	6.0	2	4.3	1	2.6	2	4.0	0	0.0	9	3.2
住宅の手入れの方法	1	2.1	0	0.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.7
家具・家財・電化製品の修理技術	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	0.4
室内の装飾方法	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	0.4
家族や友人とのパーティのもち方	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	2	0.7
「賢い消費者」になるための勉強	1	2.1	0	0.0	0	0.0	1	2.6	2	4.0	3	6.1	7	2.5
子供のしつけと教育方法	4	8.3	4	8.0	7	15.2	0	0.0	3	6.0	9	18.4	27	9.6
ワープロやコンピュータの利用技術	8	16.7	11	22.0	6	13.0	4	10.5	5	10.0	4	8.2	38	13.5
家族の健康管理の方法	10	20.8	9	18.0	5	10.9	8	21.1	6	12.0	12	24.5	50	17.8
高齢者との生活方法（介護など）	3	6.3	0	0.0	1	2.2	1	2.6	0	0.0	0	0.0	5	1.8
特にない	4	8.3	5	12.0	4	8.7	3	7.9	7	14.0	9	18.4	33	11.7
家計簿の利用方法	0	0.0	0	0.0	1	2.2	1	2.6	2	4.0	2	4.1	6	2.1
花壇の作り方・庭の手入れの仕方	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.0	0	0.0	2	0.7
そ　の　他	0	0.0	0	0.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

表 3-9　今後身につけたいこと（1～3位）　単位：人，（　）は%

1　位	2　位	3　位
家族の健康管理の方法 50（17.8%）	家族の健康管理の方法 40（14.2%）	ワープロ・コンピュータ利用技術 39（13.9%）
得意な料理の種類増やす 38（13.5%）	ワープロ・コンピュータ利用技術 22（7.8%）	特にない 33（11.7%）
ワープロ・コンピュータ利用技術 38（13.5%）	得意な料理の種類増やす 22（7.8%）	高齢者の介護方法等 23（8.2%）
特にない 33（11.7%）	特にない 22（7.8%）	花壇・庭の手入仕方 16（5.7%）

育方法」（18.4％）および「特にない」（18.4％）であった。

表3－9は，さらに1位から3位までにあげられた複数回答の結果を，全体としてまとめたものである。

「家族の健康管理の方法」が1位と2位にともにあげられ，関心の高さを示している。また前述したように妻の「料理」担当率が比較的低かったにもかかわらず，「得意な料理の種類をふやす」ことの必要性も高く意識されている。「ワープロ・コンピューターの利用技術」を身につけたいといったことも今後の農家世帯にとっては極めて必要性が高いようである。また，三世代同居世帯が多いことから，「高齢者の介護方法等」についての関心も当然と考えられる。

(7)日常生活への満足感

対象農家の主婦は日常生活について，どの程度満足しているのであろうか。

ここでは日常生活に関する事項を，家庭生活について8項，地域生活環境について6項目あげて質問した結果は表6－10及び表6－11のようになった。

評価の方法は，各項目について大変満足＝4点，満足＝3点，不満＝2点，大変不満＝1点，の4段階に分けて点数化し算出した。

1）家庭生活の満足度

家庭生活に関する項目についての全体平均の満足度は2.6で，不満と満足の中間になった。評価としてはまあまあ満足といえよう。（表3－10参照）

各々の項目別にみると，満足度の比較的高かったのは「家族そろっての食事」2.9，「夫婦の会話（時間）」2.9，「家電製品・家具・自動車などの耐久消費財の所有」2.7，「家族の収入」2.6となっており，家族のコミュニケーション面に関する項目であった。

これに対して，「自分だけの自由時間」，「家族揃ってのレジャー・旅行」については，「家族の財産と貯蓄」を含めて各々2.3，2.4と満足度が平均点より低かった。

表 3-10　家庭生活の満足度　（点）

	経営形態						平均
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
	専業	複合					
家族そろっての食事	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	2.9
夫婦の会話(時間)	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	3.0	2.9
家事への夫の参加・協力	2.5	2.3	2.5	2.4	2.5	2.5	2.4
自分だけの自由時間	2.2	2.3	2.3	2.6	2.4	2.3	2.3
家族そろってのレジャー・旅行	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.2	2.3
家族の収入	2.5	2.6	2.5	2.6	2.6	2.4	2.6
家族の財産と貯蓄	2.4	2.6	2.4	2.5	2.4	2.4	2.4
家電製品・家具・自動車などの耐久消費財の所有	2.6	2.7	2.8	2.7	2.9	2.7	2.7
満足度の平均点	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6

大変満足＝4　満足＝3　不満＝2　大変不満＝1

「家族の収入」や「家族の財産と貯蓄」といった経済面の評価は，各形態共不満と満足の中間にあった。

全体を通して，家庭生活の満足度の平均は2点台にとゞまり，満足＝3点には充分達しておらず，特に「自分だけの自由時間」，「家族揃ってのレジャー・旅行」などが低い価となっているのは，「子育て期」と共に農作業の担い手としての多忙性によるものか，特徴の目立つ結果であった。

次に経営形態別結果を表3－11によってみると，全体の人数は，「満足」と「不満足」に集中した形となった。

「満足」の評価についてみると，人数が最も多かったのは「耐久消費財の所有」の188人で，このうち酪農が最も多く39人で21％，畑作の23人12％を除き，各形態とも30人台であった。続く「夫婦の会話」，「家族揃っての食事」，「家族の収入」について，各経営共30人台（約4割）で占められていた。

全体として酪農経営農家に「満足」の評価人数が多かった。

表 3-11　経営形態別家庭生活の満足度　　項目別人数

	経営形態	大変不満足 1点	不満足 2点	満足 3点	大変満足 4点	平均得点
家族揃っての食事	稲作専業	2	8	32	6	2.9
	稲作複合	1	3	21	0	2.8
	野菜	1	7	32	5	2.9
	畑作	1	6	25	6	2.9
	酪農	3	7	34	6	2.9
	果樹	2	6	31	9	3.0
	計	10	37	175	32	2.9
夫婦の会話(時間)	稲作専業	2	10	30	5	2.8
	稲作複合	1	12	35	2	2.8
	野菜	2	10	26	8	2
	畑作	1	8	23	5	2.9
	酪農	1	5	37	7	3.0
	果樹	1	7	31	9	3.0
	計	8	52	182	36	2.9
家事への夫の参加協力	稲作専業	4	21	20	3	2.5
	稲作複合	8	20	20	2	2.3
	野菜	7	15	20	4	2.5
	畑作	3	19	14	1	2.4
	酪農	6	17	25	2	2.5
	果樹	5	21	19	4	2.4
	計	33	113	118	16	2.4
自分だけの自由時間	稲作専業	8	21	19	0	2.2
	稲作複合	5	28	15	2	2.3
	野菜	8	22	12	4	2.3
	畑作	1	16	18	2	2.6
	酪農	7	18	22	3	2.4
	果樹	6	24	16	3	2.3
	計	35	129	102	14	2.3
家族揃ってのレジャー・旅行	稲作専業	6	25	16	1	2.3
	稲作複合	6	26	15	2	2.3
	野菜	6	24	14	2	2.3
	畑作	2	21	10	4	2.4
	酪農	7	20	21	2	2.4
	果樹	9	21	17	2	2.2
	計	36	137	93	13	2.3
家族の収入	稲作専業	5	15	27	1	2.5
	稲作複合	1	16	33	0	2.6
	野菜	2	18	23	2	2.6
	畑作	0	14	23	0	2.6
	酪農	2	15	32	1	2.6
	果樹	3	24	20	1	2.4
	計	13	102	158	5	2.6
家族の財産と貯蓄	稲作専業	5	20	22	1	2.4
	稲作複合	1	20	28	1	2.6
	野菜	4	21	19	1	2.4
	畑作	2	16	17	2	2.5
	酪農	1	27	22	0	2.4
	果樹	2	26	19	1	2.4
	計	15	130	127	6	2.4
耐久消費財の所有	稲作専業	3	13	31	1	2.6
	稲作複合	3	12	34	1	2.7
	野菜	1	10	23	2	2.7
	畑作	1	10	23	2	2.7
	酪農	1	7	39	3	2.9
	果樹	0	15	31	1	2.7
	計	10	66	188	12	2.7

表 3-12　地域生活の満足度　　(点)

	経営形態 稲作 専業	稲作 複合	野菜	畑作	酪農	果樹	平均
スポーツ・レクリエーション施設	2.6	2.6	2.6	2.3	2.7	2.3	2.5
カルチャーセンター・習い事教室	2.6	2.5	2.4	2.3	2.1	2.2	2.4
幼児保育施設	2.9	2.8	2.7	3.0	2.8	2.9	2.8
図書館	2.8	2.6	2.5	2.4	2.8	2.7	2.6
保健所・病院	2.5	2.5	2.5	2.4	2.1	2.5	2.4
音楽・演劇等の鑑賞の機会	2.4	2.3	2.2	2.0	2.2	2.2	2.2
満足度の平均点	2.6	2.6	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5

大変満足＝4　満足＝3　不満＝2　大変不満＝1

更に不満足の評価については,「家族揃ってのレジャー・旅行」,「家族の財産と貯蓄」,「自分だけの自由時間」,「家事への夫の参加」,「家族の収入」の順に高い人数を示し,全調査対象人数の各々40％以上が該当している。

特徴的な傾向としては,「夫婦の会話」の満足度が各経営形態とも不満足度を大きく上回っている割に,「家事への夫の参加協力」の評価が,酪農家を除いて,不満が同人数又は多い傾向にあった。

このことは,対象酪農家の家族構成上の特徴としては見当らないが,夫達の意識の影響をあげてよいかどうかは,今回の調査では特定できない。

「大変不満足」については,「家族揃ってのレジャー・旅行」,「自分だけの自由時間」,「家事への夫の参加協力」など,家族のコミュニケーションや生甲斐にかかわる項目が10％台に上がっていることは問題といえよう。

2）地域生活環境の満足度

地域の生活環境については,余暇開発にかかわる生活文化施設とその機会,幼児保育施設,保険・医療にかかわる施設等6項目について質問した結果,満足度は表3－12のようになった。

対象農家全体の,満足度の平均点は前述の家庭生活の満足度と大きな差はなかった。6項目のうち,平均値以上になったのは,「幼児保育施設」2.8,「図書館」2.6であり,特に「音楽・演劇等の観賞の機会」の評価は2.2と低かった。

これを経営形態別にみると,各経営形態とも揃って満足と評価したのは「幼児保育施設」であった。「図書館」は,酪農家が41人で最も多く,畑作農家15人との差が大きい。畑作農家に於いては「スポーツ・レクリエーション施設」においても満足の評価は16人と少なく,果樹農家がこれに続いて少なかった。

次に,地域の生活環境が大変不満足と不満足を併せた人数をみると,最も多かったのが「音楽・演劇等の観賞

表 3-13　地域の生活環境の満足度(項目別人数)　(人)

	経営形態	大変不満足 1点	不満足 2点	満足 3点	大変満足 4点	平均得点
スポーツ・レクリエーション施設	稲作専業	3	12	32	1	2.6
	稲作複合	4	13	20	1	2.5
	野菜	3	12	27	2	2.6
	畑作	5	17	16	0	2.3
	酪農	2	12	35	0	2.7
	果樹	6	21	18	1	2.3
	計	23	87	148	5	2.5
カルチャーセンタ・習い事教室	稲作専業	3	17	32	1	2.6
	稲作複合	2	13	20	0	2.5
	野菜	3	20	21	0	2.4
	畑作	4	19	14	0	2.3
	酪農	6	21	10	0	2.1
	果樹	5	24	16	0	2.2
	計	23	114	113	1	2.4
幼児保育施設	稲作専業	1	5	37	3	2.9
	稲作複合	0	12	36	0	2.8
	野菜	3	8	30	0	2.7
	畑作	0	2	33	3	3.0
	酪農	2	7	38	1	2.8
	果樹	1	8	31	3	2.8
	計	7	42	205	10	2.8
図書館	稲作専業	2	7	36	3	2.8
	稲作複合	2	14	31	1	2.6
	野菜	2	18	22	0	2.5
	畑作	4	13	15	2	2.4
	酪農	3	3	41	1	2.8
	果樹	4	11	25	4	2.7
	計	17	66	170	11	2.6
保健所・病院	稲作専業	3	17	28	0	2.5
	稲作複合	2	22	23	1	2.5
	野菜	3	15	26	0	2.5
	畑作	4	14	20	0	2.4
	酪農	10	25	15	0	2.1
	果樹	4	18	25	1	2.5
	計	26	111	137	2	2.4
音楽・演劇等の鑑賞の機京	稲作専業	4	23	21	0	2.4
	稲作複合	7	21	18	2	2.3
	野菜	4	25	12	1	2.2
	畑作	6	24	7	0	2.0
	酪農	10	19	17	2	2.2
	果樹	6	25	13	1	2.2
	計	37	137	88	6	2.2

の機会」174人，次に「カルチャーセンター・習い事教室」の137人，続いて「保健所・病院」の136人で，文科系の施設や鑑賞のチャンスの乏しさ，及び保健所，病院等の医療施設の遅れがめだった。

このうち，経営形態で最も大きな特徴をみせたのは，酪農家の「保健所・病院」についての不満度で137人中35人26％と大きく，更に酪農家に於いては「カルチャーセンター・習い事教室」，「音楽・演劇等の観賞の機会」等文化面への不満も大きい数値を示した。

地域の生活環境に於いても，前項の家庭生活の満足度と同様にいづれの項目についても，平均値は満足の3に充分達しておらず，特にめだって低い「文化系施設や機会」の満足度，「医療関係施設」の不満足度及び地域差は大きな問題である。

今後，農家生活の質的向上のためには，家庭生活の充実・発展を支える生活関連社会資本の一日も早い整備がより大きく求められる。

(8)農作業と家事作業の効率化対策

農作業と家事作業の役割を担う農家主婦にとって，農作業の効率化により，労働の軽減をはかること，併せて農作業との関連の大きい家事作業を効率的にすすめることが，農家生活の質的向上に必要である。

そこで，農作業と家事作業の効率化対策について必要と思うことを複数回答で質問した結果は，表3－14及び表3－15のようになった。

1）農作業の効率化対策

全体として，対策にあげられたベスト3は，「労働配分を考えて作業体系を変える」59.6％，「作業を計画的にすすめる」56.2％，「機械化をすすめる」29.5％であった。

また第4位に「雇用労働を入れる」26.3％，続いて「農業ヘルパーの利用」26.0％となった。この他には，「生産の組織化・共同他」18.9％，「主婦の経営面への参加」17.1％が2割弱の回答率であった。

経営形態別にみると，全経営形態の54.0％5割以上7割71.7％までが「労働配分を考えて作業体系を変える」をあげており，中でも野菜農家が71.7％で最も高く，続いて稲作専業農家が64.6％，果樹農家が57.1％と高い割合になっている。

また，「作業を計画的にすすめる」は野菜農家が30人で65.2％，稲作専業農家が同じく30人で62.5％と高く，酪農家で「農業ヘルパー制の利用」56.0％が全経営形態中最も高かった。

このことはすでにみたように，家畜の飼育管理を担う酪農家主婦にとって大きな効率化対策のひとつであることがうなずける。

2）家事労働の効率化対策

表3－15によって，全体として家事労働の効率化対策としてあげられているもののベスト3についてみると，「家族が身の回りのことを自分でする」67.3％，「家族の協力で家事分担」61.6％が群を抜いており，続いて「主婦の農作業を減らす」35.2％であった。

他には「電化製品の利用による省力化」19.6％と2割弱，続いて「家事作業の計画化」14.6％と1割程度みら

表 3-14　農作業の効率化対策　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
機械化をすすめる	18	37.5	15	30.0	11	23.9	11	28.9	16	32.0	12	24.5	83	29.5
生産の組織化・共同化	10	20.8	14	28.0	6	13.0	9	23.7	8	16.0	6	12.2	53	18.9
労働配分を考えて作業体系をかえる	31	64.6	27	54.0	33	71.7	21	55.3	27	54.0	28	57.1	167	59.4
流通の改善・共同出荷をすすめる	9	18.8	9	18.0	7	15.2	7	18.4	1	2.0	8	16.3	41	14.6
雇用労働をいれる	17	35.4	11	22.0	10	21.7	9	23.7	9	18.0	18	36.7	74	26.3
作業を計画的にすすめる	30	62.5	29	58.0	30	65.2	23	60.5	20	40.0	26	53.1	158	56.2
雇用労働をいれる	12	25.0	11	22.0	6	13.0	7	18.4	28	56.0	9	18.4	73	26.0
主婦の経営部面への参加をすすめる	5	10.4	12	24.0	8	17.4	6	15.8	6	12.0	11	22.4	48	17.1
その他	0	0.0	1	2.0	1	2.2	1	2.6	1	2.0	1	2.0	5	1.8
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

表 3-15　家事労働の効率化対策　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
主婦の農作業を減らす	15	31.3	18	36.0	18	39.1	11	28.9	25	50.0	12	24.5	99	35.2
家族の協力で家事分担	35	72.9	29	58.0	28	60.9	24	63.2	29	58.0	28	57.1	173	61.6
家事の共同化等をすすめる	4	8.3	5	10.0	3	6.5	2	5.3	0	0.0	3	6.1	17	6.0
家事の外部化(給食センター・既製品・ファストフードの利用等)	4	8.3	4	8.0	2	4.3	0	0.0	2	4.0	4	8.2	16	5.7
家事作業の計画化	8	16.7	9	18.0	0	0.0	0	0.0	17	34.0	7	14.3	41	14.6
ホームヘルパー等の利用	3	6.3	4	8.0	2	4.3	2	5.3	3	6.0	3	6.1	17	6.0
家電製品の利用による省力化	4	8.3	12	24.0	11	23.9	10	26.3	8	16.0	10	20.4	55	19.6
家族が身の回りのことは自分でする	34	70.8	37	74.0	34	73.9	21	55.3	32	64.0	31	63.3	189	67.3
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

れた。

経営形態別にみると，稲作複合農家 74.0％，野菜農家 73.9％，稲作専業農家 70.8％といずれも 7 割以上が「家族が身の回りのことをする」をあげており，続いて酪農家も 64.0％，果樹農家 63.3％と各々 6 割以上となっている。

次に稲作専業農家が 72.9％，畑作農家が 63.2％の割合で「家族の協力で家事分担」を 1 位にあげており，この項目も，「家族が身の回りのことをする」についで，各経営形態共に，5 割以上の高い割合となり，全体を通して家事労働の効率化対策には，家族各々の生活技術の自立や，家事分担といった協力体制の必要性が高い割合で取り上げられたのが特徴的であった。

(9)女性の家事担当への役割意識

女性が家事を担当することについて，どのように思うかの意向をあげてもらった結果が，表 3－16 である。

「その時々に応じて男女で負担する」が 71.9％と全体の 7 割を占めて最も多く，「女性だけが行なうべき理由はない」が 16.0％ 2 割弱あるものの，「家事は女性が行なうべき仕事である」が 8.9％ 1 割弱あり，「家事は男女が平等に分担する」は 2.1％にとどまった。

これを経営形態別にみると，どの経営形態でも，「その時々に応じて男女で負担する」が最も高い割合であげられ，中でも稲作専業農家では 81.3％，最も少ない果樹農家においても 55.1％と 5 割台となっており，他の農家は 7 割台となった。

一方果樹農家と野菜農家に，「女性だけが行なうべき理由はない」が各々11人と 9 人づついるものの，「家事は女性が行なうべき仕事である」が果樹農家に 7 人おり，全経営形態中最も多い人数になっている。

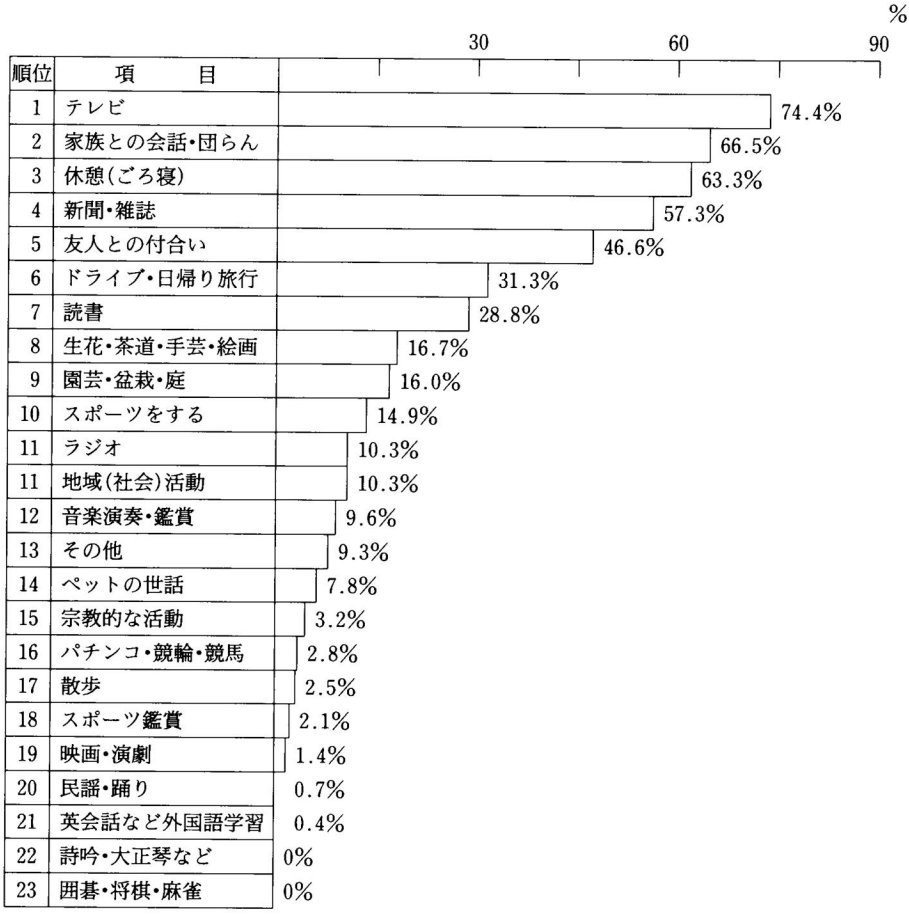
全体を通して，女性の家事担当への役割意識は「その

表 3-16　家事担当への役割意識　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
家事は女性が行うべき仕事である	4	8.3	4	8.0	3	6.5	2	5.3	5	10.0	7	14.3	25	8.9
女性だけが行うべき理由はない	5	10.4	8	16.0	9	19.6	5	13.2	5	10.0	11	22.4	43	15.3
その時々に応じて男女で負担する	37	77.1	36	72.0	30	65.2	29	76.3	39	78.0	27	55.1	198	70.5
家事は男女が平等に分担する	0	0.0	1	2.0	1	2.2	1	2.6	1	2.0	2	4.1	6	2.1
その他	1	2.1	0	0.0	1	2.2	1	2.6	0	0.0	0	0.0	3	1.1
わからない	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	2	0.7
N.A.	1	2.1	0	0.0	2	4.3	0	0.0	0	0.0	1	2.0	4	1.4
計	48		50		46		38		50		49		281	

時々に応じて男女で負担する」とする中庸派が大半で，「女性だけが行なうべき理由はない」「家事は男女平等に分担する」とする進歩派が，合わせて18.1％2割弱いるものの，「家事は女性が行なうべき仕事である」とする保守派が1割となっており，中庸派で占められる対象農家では，家事担当に対する男性の役割意識如何，が大きな鍵になるとみてよいのではなかろうか。

図4−1　余暇時間の過ごし方（1位〜5位までの総合）



4. 余暇生活活動

(1)余暇時間（自由時間）の過ごし方

1日24時間のうち，農作業や家事作業，食事，睡眠時間などの時間を除いた自由時間を余暇時間というが，この時間をどのように過ごしているかについて，24種類の項目をあげて，過ごすことの多い順に1位から5位まで選択してもらった。

1）まず1位から5位までにあがった余暇の過ごし方は図4－1のようになった。

全体的にみると，「テレビ」が（74.7％）で圧倒的1位をしめ，続いて「家族との会話・団欒」66.5％，「休憩（ごろ寝・何もしない」63.3％，「新聞・雑誌」57.3％の項目が各々50％以上の高い割合で1位から4位にあげられた。

これらをみると内容的には，休養・休憩を主にした静的な余暇の過ごし方が主流となっていることがわかる。

次に「友人との付合い」46.6％，「ドライブ・日帰り旅行」31.3％が上位5位，6位に上がっているのは，30歳～40歳主婦の自由時間活動内容としてうなづける。

一方，趣味的活動や，スポーツ関係，地域社会的活動は1割台にとゞまっているのは，前述のような主婦労働の多忙さがもたらす結果によるものなのであろうか，気になるところである。

この他，宗教活動，スポーツ観戦，民謡，踊りなどが，低い割合となっていることが特徴といえよう。

2）更に，表4－1によって経営形態別農家のベスト10をみると，「友人との付合い」が稲作複合農家で1位，畑作及び酪農家で各々3.4位となっている他は，各経営形態とも，「テレビ」，「休憩（ごろ寝）」，「家族との会話・団欒」，「新聞」が1位から4位をしめ，休養中心の静的型の余暇に活動が集中している。

また，「友人との付合い」が，どの経営形態とも10位中5位までに入った。

また「生花・茶道・手芸・絵画」「園芸・盆栽・庭の手入れ」「音楽演奏・観賞」などの趣味，文化の分野の活動は，各々の経営形態に低いながら位置している。

この他「スポーツ」が稲作複合農家（13人），野菜農家（8人）及び畑作農家（7人）の3形態に，「地域社会活動」が稲作専業農家（7人）と稲作複合農家（5人）及び野菜農家（5人）及び畑作で（9人）の4形態にあるが，いづれも少数で健康づくりや社会活動の参加型余暇活動は充分とはいえない現状にあるといえる。

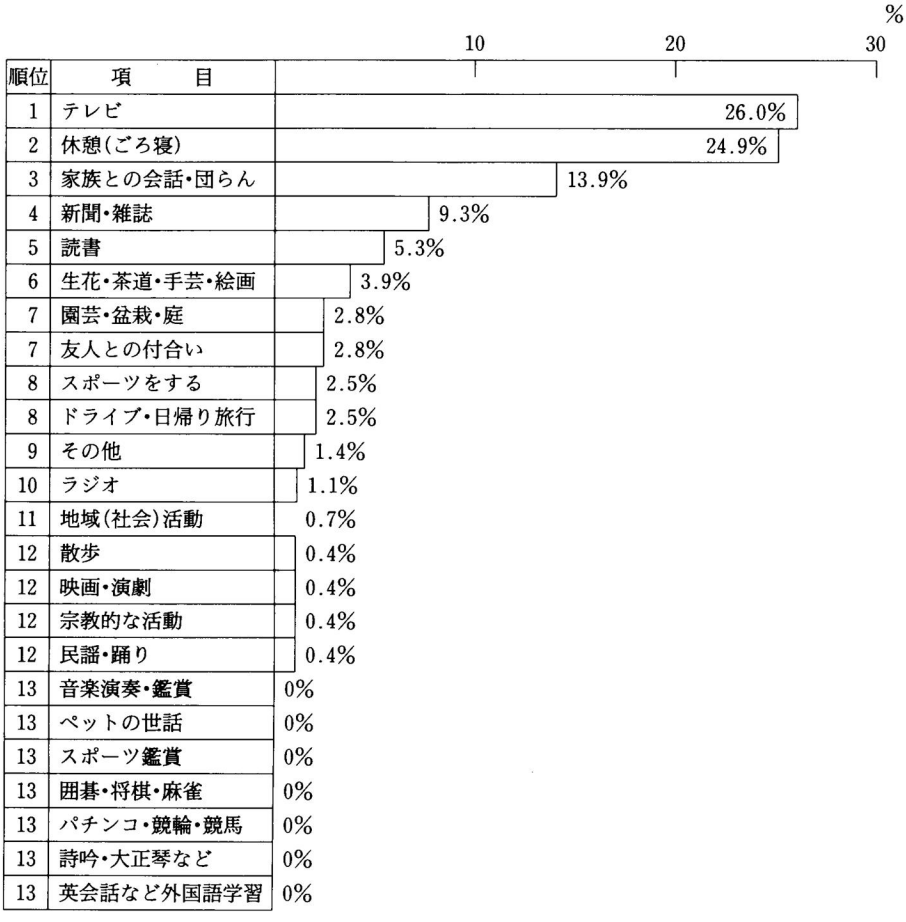
なお，1位にあげた余暇時間の過ごし方は図4－2及び表4－2のようになった。

表4-1　経営形態別余暇時間の過ごし方（総合上位10項目）　（人）

順位	稲作 専業	稲作 複合	野菜	畑作	酪農	果樹
1	テレビ 42	友人との付合い 34	テレビ 34	テレビ 30 家族との会話・団欒 30	家族との会話・団欒 35	家族との会話・団欒 39
2	新聞・雑誌 30	テレビ 32	休憩（ごろ寝） 31	休憩（ごろ寝） 26 新聞・雑誌 26	休憩（ごろ寝） 33 テレビ 33	テレビ 38
3	休憩（ごろ寝） 29	休憩（ごろ寝） 28 家族との会話・団欒 28	家族との会話・団欒 28	友人との付合い 16	新聞・雑誌 29	休憩（ごろ寝） 31
4	家族との会話・団欒 27	新聞・雑誌 26	新聞・雑誌 23	読書 11	友人との付合い 20	新聞・雑誌 27
5	友人との付合い 22	ドライブ・日帰り旅行 16	友人との付合い 19	ドライブ・日帰り旅行 8	生花・茶道・手芸・絵画 17	友人との付合い 20
6	ドライブ・日帰り旅行 17	読書 13 スポーツをする 13	ドライブ・日帰り旅行 18	園芸・盆栽・庭 7	ドライブ・日帰り旅行 16	読書 19
7	読書 13	ペットの世話 7	スポーツをする 8	ラジオ 6 スポーツをする 6	読書 12	ドライブ・日帰り旅行 13
8	生花・茶道・手芸・絵画 9	生花・茶道・手芸・絵画 8	その他 6	音楽演奏・鑑賞 5	園芸・盆栽・庭 10	生花・茶道・手芸・絵画 7
9	地域（社会）活動 7 ラジオ 7	音楽演奏・鑑賞 5 地域（社会）活動 5 その他 5	地域（社会）活動 5	ペットの世話 4 地域（社会）活動 4	ラジオ 7 音楽演奏・鑑賞 7	園芸・盆栽・庭 6
10	園芸・盆栽・庭 5	散歩 2 民謡・踊り 2	ラジオ 4 音楽演奏・鑑賞 4 ペットの世話 4 園芸・盆栽・庭 4	生花・茶道・手芸・絵画 3	スポーツをする 5 地域（社会）活動 5	ラジオ 5
対象人数	48	50	46	38	50	49

※複数回答

図4－2　余暇時間の過ごし方（1位にあげたもの）



(2)年間の休日日数

農業や兼業に従事しなかった日を「休日」として，昨年（1994年）1年間のおよその日数を質問した結果は表4－3のようになった。

年間平均休日数は（64.4日）となった。

経営形態別にみて，平均を下回ったのは，野菜農家と酪農家の2形態であり，恒常的家畜管理作業に従事する酪農家がめだって少ない日数となった。

次にこれを，前年（1994年）1年間の我が国における休日（日曜，祝・祭日及び年末・年始6日間）の合計72日に比較してみると，全体平均日数では89.4％，経営形態別には稲作専業農家149.1％，稲作複合農家104.3％，野菜農家75.3％，畑作農家129.1％，酪農家17.6％，果樹農家90.1％となり，酪農家が17.6％で2割弱と短いものの，他は75％～149.1％の割合となった。

次に，週休2日制による生活の質的向上の実施に向けて，国民の意識も国の施策も伸展をみせているといってよい現在，週休2日制と比較して農家生活における休日の現状はどのような位置づけになっているかを次によって比較してみた。

前述の1994年1年間の休日72日に，年間土曜日日数50日（1月1日，1月15日は祝日）を加えると合計122日となった。

この日数を基にみつめてみると，対象農家全体では52.8％で約2分の1となり，これを経営形態別にみると，当然のことながら全経営形態とも1994年1年間の週休2日制休日日数（122日）を下回り，稲作専業農家78.7％，畑作農家68.1％，稲作複合農家61.6％，果樹農家53.2％，野菜農家44.4％，最後に酪農家が最も低い10.4％となった。

表 4-2　余暇時間の過ごし方（1位にあがったもの）　（人）

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
休憩（ごろ寝，何もしない）	12	25.0	11	22.0	12	26.1	11	28.9	14	28.0	10	20.4	70	24.9
家族との会話・団らん	6	12.5	9	18.0	6	13.0	6	15.8	5	10.0	7	14.3	39	13.9
読書	1	2.1	0	0.0	1	2.2	3	7.9	6	12.0	4	8.2	15	5.3
新聞・雑誌	3	6.3	5	10.0	3	6.5	3	7.9	5	10.0	7	14.3	26	9.3
テレビ	20	41.7	9	18.0	12	26.1	11	28.9	9	18.0	12	24.5	73	26.0
ラジオ	0	0.0	0	0.0	1	2.2	1	2.6	1	2.0	0	0.0	3	1.1
音楽演奏・鑑賞	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
生花・茶道・手芸・絵画	2	4.2	2	4.0	0	0.0	0	0.0	3	6.0	4	8.2	11	3.9
ペットの世話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
園芸・盆栽・庭の手入れ	0	0.0	3	6.0	1	2.2	1	2.6	2	4.0	1	2.0	8	2.8
散歩	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
友人との付合い	1	2.1	1	2.0	1	2.2	1	2.6	2	4.0	2	4.1	8	2.8
スポーツをする	0	0.0	2	4.0	4	8.7	1	2.6	0	0.0	0	0.0	7	2.5
スポーツ鑑賞	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
囲碁・将棋・麻雀など	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
パチンコ・競輪・競馬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
映画・観劇	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	0.4
ドライブ・日帰り旅行	1	2.1	2	4.0	2	4.3	0	0.0	2	4.0	0	0.0	7	2.5
民謡・踊り	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
詩吟・大正琴など	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
英会話などの外国語の学習	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
宗教的な活動	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
地域（社会）活動	0	0.0	2	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7
その他	0	0.0	2	4.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	1	2.0	4	1.4
N.A.	1	2.1	0	0.0	2	4.3	0	0.0	1	2.0	0	0.0	4	1.4
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

表 4-3　年間休日数　（日）

	経営形態						全体平均
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	
平均休日数	96.0	75.1	54.2	83.2	12.7	64.9	64.4
最高休日数	200.0	150.0	160.0	180.0	850.0	865.0	234.2
最低休日数	2.0	2.0	3.0	10.0	0.0	5.0	3.7

なお，全体平均の最高休日日数は234.2日となり，経営形態中最も多かった果樹農家は365日となった。

これは当該経営形態農家の中に妊娠出産期の主婦がいることによるものであり，この数値は全体平均日数にも影響をみる結果となった。

次に最低日数についてみると，全体平均では3.7日と短く，酪農家では休日0の農家があり，年間日数は畑作農家の10日が最高となっている。

以上は，各農家におけるおよその年間休日を単なる延べ日数の「量」でとらえて，勤労者の年間休日数との比較等を試みたのであるが，ここで問題になるのは「休日のとり方」であろう。

すでにみたように，各々の経営形態別農家における年間農作業は，農作物の農業歴により繁・閑の差がある。

このことが農家の休日を規制する大きな条件の一つとなっている。

農作物の成育や家畜の飼育，更に自然条件とも深くかかわる農家の労働構造と，勤労者（サラリーマン）の労働構造との違いがここにある。

この特質がもつマイナスの要因をいかにカバーして休日を確保するかは，生活経営のみではなく農業の経営のあり方，更に社会資本の充実にかかわる大きな課題であるといえよう。

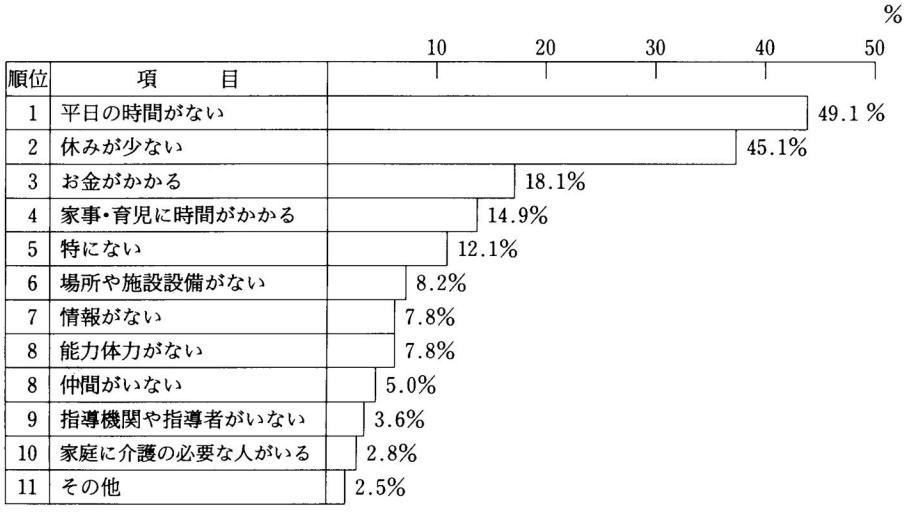
(3)休日への意向

主婦が望む休日のあり方について，4項目にわたって

表4-4　休日のあり方　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
ぜひとも週2日ほしい	2	4.2	0	0.0	2	4.3	0	0.0	0	0.0	2	4.1	6	2.1
週1日はとるべきだ	24	50.0	21	24.0	21	45.7	10	26.3	9	18.0	12	24.5	97	34.5
週休確保が難しい	16	33.3	23	46.0	20	43.5	21	55.3	37	74.0	29	59.2	146	52.0
その他	5	10.4	6	12.0	1	2.2	5	13.2	3	6.0	6	12.2	26	9.3
N.A.	1	2.1	0	0.0	2	4.3	2	5.3	1	2.0	0	0.0	6	2.1
計	48		50		46		38		50		49		281	

図4—3　余暇活動のさまたげ



質問した結果は表4－4のようになった。

まず，全体の52.0％の主婦は，「週休の確保は難しい」と考えているものの何らかのかたちで，「週1日はとるべき」との意向を示した割合は34.5％となった。

「ぜひとも週休2日ほしい」は2.1％にとどまったが，全体的に週休確保に対する農家主婦の願いは大きい。

経営形態別にみると，「週休確保は難しい」との意向がどの形態農家においても高い割合を示し，中でも酪農家は74％となっている。

「週1日はとるべき」については，稲作経営農家と野菜農家において割合が高く，稲作専業農家は「週休確保が難しい」の割合を上回って50％半数の農家がこの意向を示し，週休を求める願いの深さがわかる。野菜農家と酪農家を除く4形態の農家に，「その他」が10％づつみられた。

(4)余暇活動の阻害要因

休日確保が難しさを示すなかで，余暇活動のさまたげとなっているものについての質問の結果は対象全体で図4－3のようになった。

これによると，全体では「平日の自由時間がない」49.1％，続いて「休日がすくない」45.1％と，いづれも休日にかかわる時間や日数の不足の問題で，全体の約半数を占める結果となり，更に，「お金がかかる」18.1％と経済問題が続いている。

3位にあげられている「家事・育児に時間がかかる」14.9％は，対象の主婦の家族周期の段階上から当然とはいえ実情にそくした実のある対策が求められる。

以上の項目が上位に集中したかたちとなったが，「情報がない」「場所や施設・設備がない」が7.8％，この他「さまたげは特にない」が12.1％あった。

これらの結果から，さきにみた「休日のあり方」への

表 4-5　経営形態別余暇活動のさまたげ（1～5位まで）　(%)

順位	稲作 専業	稲作 複合	野菜	畑作	酪農	果樹
1	平日の自由時間が少ない 50.0	平日の自由時間が少ない 54.0	平日の自由時間が少ない 60.9	平日の自由時間が少ない 42.1	休日が少ない 52.0	休日が少ない 51.0
2	休日が少ない 35.4	休日が少ない 40.0	休日が少ない 54.3	休日が少ない 28.9	平日の自由時間が少ない 38.0	平日の自由時間が少ない 49.0
3	家事育児に時間がかかる 18.8	特にない 18.0	お金がかかる 23.7	特にない 21.1	お金がかかる 28.0	家事育児に時間がかかる 20.4
4	能力体力がない 14.6 情報がない 14.6	情報がない 10.0	家庭に介護の必要な人がいる 8.7	場所や施設がない 15.8	家事育児に時間がかかる 12.0	場所や施設がない 12.2
5	特にない 12.5	お金がかかる 8.0 家事育児に時間がかかる 8.0	特にない 6.5	家事育児に時間がかかる 7.9	能力体力がない 10.0 特にない 10.0	情報がない 10.2
対象人数	48	50	46	38	50	49

※複数回答あり

意向と同様に，対象農家の主婦のおかれている農作業や，家事作業をはじめ，地域社会環境の実態が，現在の余暇活動の実現に大きく影響していることがうかがえた。

次に，経営形態別に「余暇活動のさまたげ」の要因をみたのが表4－5である。

どの経営形態をみても，「平日の自由時間がない」「休日がすくない」が1位，2位，の上位を占める結果となった。

野菜農家を除いた全経営に「家事・育児に時間がかかる」があげられ，対象とした年代の主婦の余暇時間問題は主婦の家族周期の段階とも深く関連していることがわかる。

「情報がない」が稲作専業・複合農家に各々14.6％，10.0％，果樹農家に10.2％，「場所や施設がない」が畑作農家と果樹農家に1割ずつあり，各々4位にあがっている。

また，野菜農家に「家庭に介護の必要な人がいる」8.7％が4位にあがっているのが見のがせない特徴である。

「お金がかかる」が，酪農家28.0％で3位に，野菜農家23.7％で同じく3位に，稲作複合農家が8.0％で5位にあげられているが，余暇活動も経済消費型から農家の魅力を発揮しての創造型，自己実現型余暇への工夫も求められるのではなかろうか。

(5)地域社会活動

次に，地域社会と結びついた対象農家主婦の活動の実態を表4－6によってみてみよう。

対象農家全体では，何といっても農協婦人部が1位で49.1％を占めており，続いて若妻会37.7％，次にＰＴＡ35.6％と，30代，40代の主婦達のライフステージ上の特徴と関連した活動が上位を占めていた。

この他に，趣味のグループ25.3％と，これに町内会，スポーツグループ，生活改善グループが続き，以上が13項目中，上位半分をしめ，全体としてライフステージと，趣味にかかわる集団活動に参加していることがわかる。

なお，地区の共同作業や地区内の祭り，レクリエーションのグループといった農村社会の共同活動や，農村ならではの地域社会の文化活動に参加の主婦が，各々23人と19人づつあった。

経営形態別にみると，何といっても農協婦人部がめだって多く，特に，畑作農家と稲作複合農家では各々73.7％，72.0％といづれも7割以上が農協婦人部員であった。続いて稲作専業農家と酪農家が各々56.3％，52.0％と5割をしめていた。

これに対し，野菜農家は農協婦人部に13.0％，若妻会に54.3％，果樹農家は農協婦人部に30.6％，若妻会に34.7％と他の経営形態とは異なる数値となっている他，稲作専業農家では，農協婦人部に続いて若妻会，ＰＴＡ，スポーツクラブに参加がめだち，稲作複合農家では，農協婦人部に続いて若妻会，町内会，生活改善グループ，趣味のグループ，ＰＴＡ，スポーツのグループと多角的な集団活動への参加がめだっている。

野菜農家は若妻会とＰＴＡ及びスポーツのグループに集中した活動，畑作農家は農協婦人部活動に集中し，続いて生活改善グループ，趣味のグループ，ＰＴＡの4集団にウエイトが高い他，地区の共同作業，その他の活動かめだっている。

酪農経営では農協婦人部，若妻会活動に続きＰＴＡ，趣味のグループ，町内会に集中的であり，畑作農家と同じく地区の共同作業にも16％の数値で参加している。最後に果樹農家では，若妻会，ＰＴＡ，が同じ割合で高く，スポーツのグループ12.2％も見うけられた。

表 4-6　参加している集団活動

(人)

参加している集団,活動	経営形態 稲作 専業(%)		稲作 複合(%)		野菜 (%)		畑作 (%)		酪農 (%)		果樹 (%)		計 (%)	
農協婦人部	27	56.3	36	72.0	6	13.0	28	73.7	26	52.0	15	30.6	138	49.1
若妻会	22	45.8	16	32.0	25	54.3	5	13.2	21	42.0	17	34.7	106	37.7
町内会	7	14.6	21	42.0	5	10.9	8	21.1	11	22.0	5	10.2	57	20.3
生活改善のグループ	4	8.3	28	56.0	0	0.0	11	28.9	3	6.0	3	6.1	49	17.4
趣味のグループ	9	18.8	21	42.0	4	8.7	12	31.6	14	28.0	11	22.4	71	25.3
PTA	19	39.6	20	40.0	15	32.6	10	26.3	19	38.0	17	34.7	100	35.6
ボランティアグループ	6	12.5	2	4.0	1	2.2	2	5.3	0	0.0	1	2.0	12	4.3
スポーツのグループ	14	29.2	16	32.0	8	17.4	4	10.5	3	6.0	6	12.2	51	18.1
消費団体・グループ	1	2.1	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	2.0	4	1.4
地区内の祭・レクリエーションのグループ	4	8.3	4	8.0	4	8.7	1	2.6	4	8.0	2	4.1	19	6.8
地区の共同作業	4	8.3	3	6.0	1	2.2	6	15.8	8	16.0	1	2.0	23	8.2
その他	3	6.3	3	6.0	4	8.7	6	15.8	2	4.0	2	4.1	20	7.1
特になし	2	4.2	0	0.0	9	19.6	2	5.3	4	8.0	10	20.4	27	9.6
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

全体として，各経営形態とも，30代～40代の若妻達の生活実態を象徴すると共に，農村地域社会の特徴も反映した地域社会活動の姿である。

5.　生活の情報化

情報化社会の到来といわれて久しいが，近年のコンピュータ普及率の増加，インターネットや電子メールの浸透などいよいよ高度情報化社会が身近かになりつつある。そこで，農家生活における情報化の現状を知るとともに，情報化に対する多様な意識を明らかにすることを目的として調査を行なった。

(1)農家生活をとりまく情報環境

はじめに，「情報化」＝コンピュータと限定せず，情報ソースを広くとらえ，どのような情報媒体を農家生活に取り入れて，それらに対しどのような意識を持っているか調査した。情報媒体として，新聞，カタログ（カタログショッピング用），ラジオ，テレビ，衛星放送付きテレビ（図表では一部BS付きテレビと略），ビデオ，電話，留守番機能付き電話（図表では一部留守番電話と略），携

表 5-1　現在もっている情報媒体・情報関連機器

(人)

	経営形態 稲作 専業(%)		稲作 複合(%)		野菜 (%)		畑作 (%)		酪農 (%)		果樹 (%)		計 (%)	
新聞	48	100.0	49	98.0	43	93.5	37	97.4	45	90.0	46	93.9	268	95.4
カタログ(カタログショッピング用)	32	66.7	26	52.0	29	63.0	28	73.7	39	78.0	34	69.4	188	66.9
ラジオ	47	97.9	49	98.0	45	97.8	38	100.0	44	88.0	49	100.0	272	96.8
テレビ	48	100.0	50	100.0	44	95.7	37	97.4	50	100.0	49	100.0	278	98.9
衛星放送付きテレビ	21	43.8	16	32.0	20	43.5	26	68.4	16	32.0	14	28.6	113	40.2
ビデオ	46	95.8	46	92.0	41	89.1	37	97.4	47	94.0	46	93.9	263	93.6
電話	46	95.8	50	100.0	44	95.7	37	97.4	48	96.0	48	98.0	273	97.2
留守番機能付電話	15	31.3	24	48.0	17	37.0	14	36.8	13	26.0	20	40.8	103	36.7
携帯電話	7	14.6	3	6.0	4	8.7	5	13.2	2	4.0	5	10.2	26	9.3
ファクシミリ電話	10	20.8	19	38.0	16	34.8	36	94.7	38	76.0	32	65.3	151	53.7
ワープロ	29	60.4	23	46.0	14	30.4	24	63.2	21	42.0	16	32.7	127	45.2
パソコン	23	47.9	28	56.0	15	32.6	16	42.1	25	50.0	14	28.6	121	43.1
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

図5−1　現在持っている情報媒体・情報関連機器－1

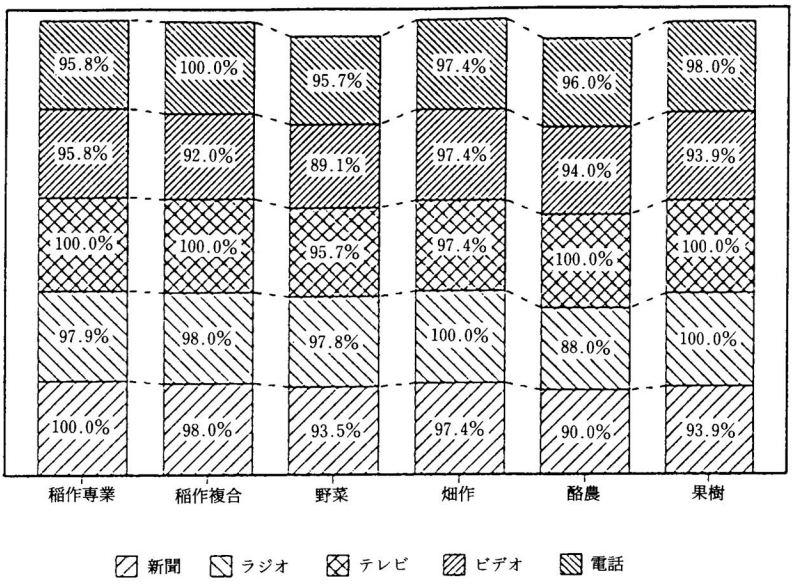
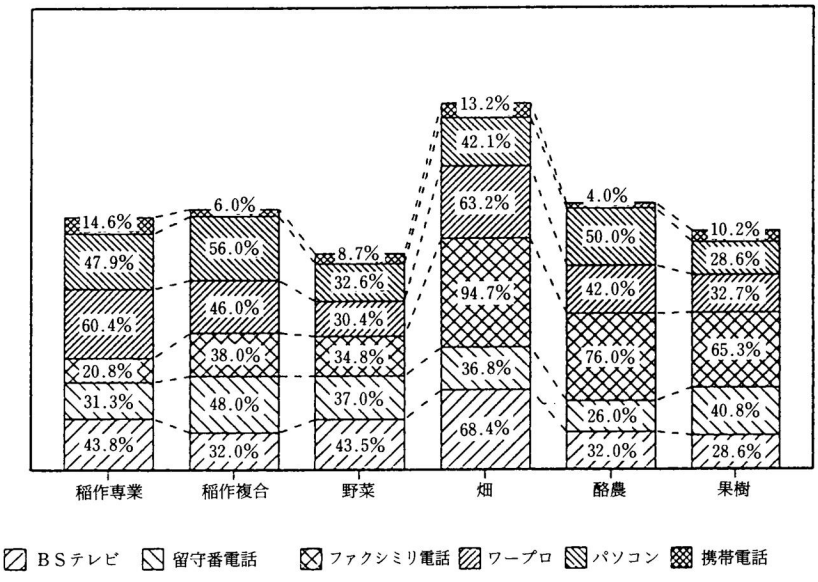


図5−2　現在持っている情報媒体・情報関連機器－2



帯電話，ファクシミリ電話，ワープロ，パソコンの12種類を取り上げた。

1）現在持っている情報媒体・情報関連機器

情報媒体・情報関連機器として現在すでに持っている（または購読している）と答えたものは表5－1のようになった。全体としては，テレビが98.9％と一番高く，携帯電話が9.3％と一番低かった。

図5－1には，「現在持っている情報媒体・情報関連機器」のうちすべての経営形態を通してほとんどの家庭で保有しているもの（ほぼ90％以上）を取り上げた。その内容は「新聞」，「ラジオ」，「テレビ」，「ビデオ」，「電話」となり，これらが農家生活における主たる情報媒体であることがわかった。

図5－2は，それ以外の「現在持っている情報媒体・情報関連機器」の保有率である。

ファクシミリ電話が全世帯の53.7％にも普及していることがわかった。特に畑作農家では94.7％と高く，調査対象となった38世帯中保有していないのはわずか2世帯であった。すべての項目について畑作農家に高い保有率が見られた。

2）将来持ちたい情報媒体・情報関連機器

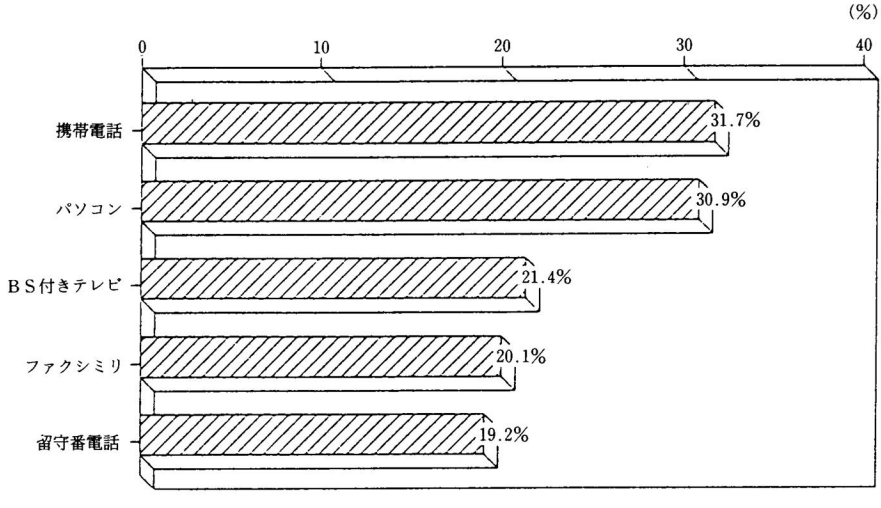
現在は持っていないが近い将来持とう（または購読しよう）と考えている情報媒体・情報関連機器は表5－2の通りである。

表5-2　将来持ちたい情報媒体・情報関連機器　（人）

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
新聞	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
カタログ(カタログショッピング用)	1	2.1	1	2.0	2	4.3	0	0.0	0	0.0	1	2.0	5	1.8
ラジオ	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
テレビ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
衛星放送付きテレビ	10	20.8	10	20.0	13	28.3	4	10.5	12	24.	12	24.5	61	21.7
ビデオ	1	2.1	0	0.0	2	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.1
電話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	0.4
留守番機能付電話	12	25.0	10	20.0	11	23.9	9	23.7	4	8.0	7	14.3	53	18.9
携帯電話	13	27.1	15	30.0	14	30.4	16	42.1	11	22.0	19	38.8	88	31.3
ファクシミリ電話	21	43.8	13	26.0	14	30.4	0	0.0	5	10.0	5	10.2	58	20.6
ワープロ	9	18.8	10	20.0	7	15.2	1	2.6	5	10.0	10	20.4	42	14.9
パソコン	19	39.6	15	30.0	18	39.1	9	23.7	10	20.0	16	32.7	87	31.0
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

図5－3　将来持ちたい情報媒体・情報関連機器上位5種



「将来持ちたい情報媒体・情報関連機器」のうち全体の上位5項目にあげられたものを図5－3に表わした。携帯電話が31.7％と一番多く，次いでパソコンの30.9％であった。パソコンを持っている世帯はすでに全体の43.1％あり，残りの世帯だけを対象とするとその約54％が将来持ちたいと考えていることがわかった。

図5－4は，各経営形態別の上位5項目である。畑作農家の数字が相対的に低く，これはすでに高い割合で情報関連機器を保有している現われであろう。例えばファクシミリについてみると，すでに38世帯中36世帯が保有しているため将来持ちたいとしている世帯は0であった。

3）必要不可欠な情報媒体・情報関連機器

生活に必要不可欠と思われる（現在もっている，持っていないにかかわらず）情報媒体・情報関連機器は各経営形態別に表5－3のようになった。

図5－4　将来持ちたい情報関連機器　ＢＥＳＴ５

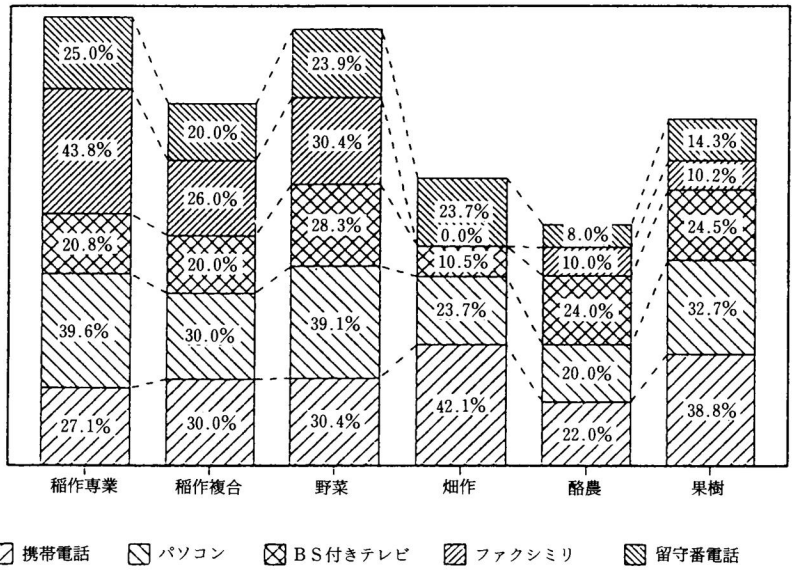


表5-3　必要不可欠の情報媒体・情報関連機器　（人）

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
新聞	21	43.8	35	70.0	19	41.3	15	39.5	26	52.0	24	49.0	140	49.8
カタログ(カタログショッピング用)	1	2.1	3	6.0	1	2.2	0	0.0	5	10.0	4	8.2	14	5.0
ラジオ	14	29.2	22	44.0	20	43.5	8	21.1	18	36.0	20	40.8	102	36.3
テレビ	18	37.5	31	62.0	20	43.5	14	36.8	30	60.0	21	42.9	134	47.7
衛星放送付きテレビ	3	6.3	2	4.0	4	8.7	3	7.9	1	2.0	2	4.1	15	5.3
ビデオ	5	10.4	9	18.0	8	17.4	3	7.9	10	20.0	10	20.4	45	16.0
電話	22	45.8	39	78.0	21	45.7	15	39.5	31	62.0	23	46.9	151	53.7
留守番機能付電話	4	8.3	11	22.0	2	4.3	3	7.9	1	2.0	5	10.2	26	9.3
携帯電話	3	6.3	2	4.0	1	2.2	0	0.0	2	4.0	2	4.1	10	3.6
ファクシミリ電話	3	6.3	11	22.0	6	13.0	4	10.5	19	38.0	4	8.2	47	16.7
ワープロ	2	4.2	4	8.0	4	8.7	0	0.0	2	4.0	1	2.0	13	4.6
パソコン	6	12.5	16	32.0	3	6.5	2	5.3	5	10.0	5	10.2	37	13.2
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

図5－5に，「必要不可欠な情報媒体・情報関連機器」を全体として高いものから低いものへ表わした。電話が一番高く53.7％であるが，ほとんどの人が必要不可欠と考えているものは（90％以上）見当たらない。

4）あれば便利と考える情報媒体・情報関連機器

あれば便利と考える情報媒体・情報関連機器（現在持っている，持っていないにかかわらず）と答えたものは表5－4のようになった。

どの経営形態もほぼ同様の傾向にあるが，特に稲作専業農家では，ワープロ27.1％(平均43.1％)，パソコン10.4％（平均40.2％）と全体平均に比べ低い数値であった。全体では，電話(14.9％)，新聞(20.3％)，テレビ(21.7％)，ラジオ（24.6％）が下位となり，これら4項目を除いた項目について多いものから順に並べると図5－6のようになった。携帯電話が57.7％ともっとも高く，次いで留守番機能付き電話(45.9％)とファクシミリ電話(45.6％）がほぼ同数で続いた。

図5－5　必要不可欠な情報媒体・情報関連機器

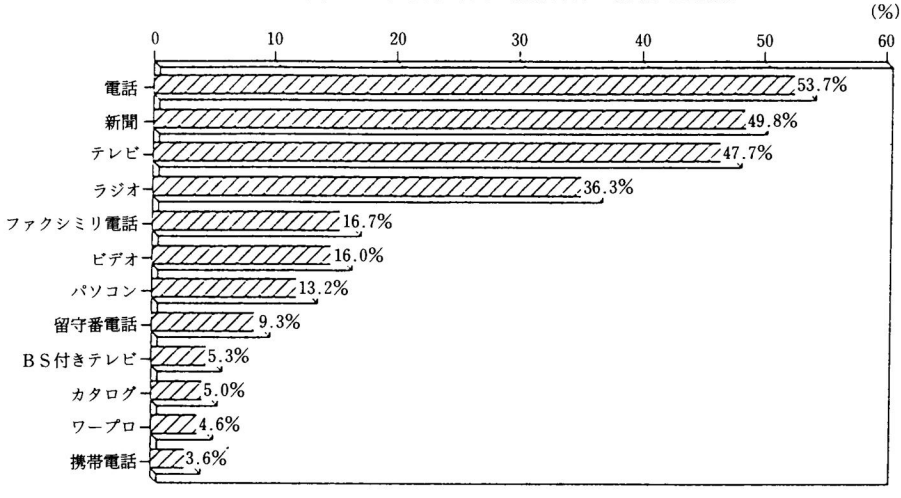


表5-4　あれば便利な情報媒体・情報関連機器　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
新聞	10	20.8	6	12.0	10	21.7	8	21.1	14	28.0	9	18.4	57	20.3
カタログ(カタログショッピング用)	20	41.7	22	44.0	18	39.1	17	44.7	21	42.0	23	46.9	121	43.1
ラジオ	12	25.0	13	26.0	8	17.4	11	28.9	17	34.0	8	16.3	69	24.6
テレビ	12	25.0	9	18.0	8	17.4	9	23.7	12	24.0	11	22.4	61	21.7
衛星放送付きテレビ	23	47.9	20	40.0	14	30.4	14	36.8	20	40.0	20	40.8	111	39.5
ビデオ	18	37.5	22	44.0	18	39.1	14	36.8	19	38.0	16	32.7	107	38.1
電話	8	16.7	3	6.0	7	15.2	8	21.1	10	20.0	6	12.2	42	14.9
留守番機能付電話	18	37.5	24	48.0	26	56.5	17	44.7	21	42.0	23	46.9	129	45.9
携帯電話	25	52.1	31	62.0	28	60.9	22	57.9	27	54.0	29	59.2	162	57.7
ファクシミリ電話	25	52.1	20	40.0	24	52.2	15	39.5	23	46.0	21	42.9	128	45.6
ワープロ	13	27.1	27	54.0	21	45.7	15	39.5	21	42.0	24	49.0	121	43.1
パソコン	5	10.4	19	38.0	21	45.7	19	50.0	23	46.0	26	53.1	113	40.2
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

図5－6　あれば便利な情報媒体・情報関連機器

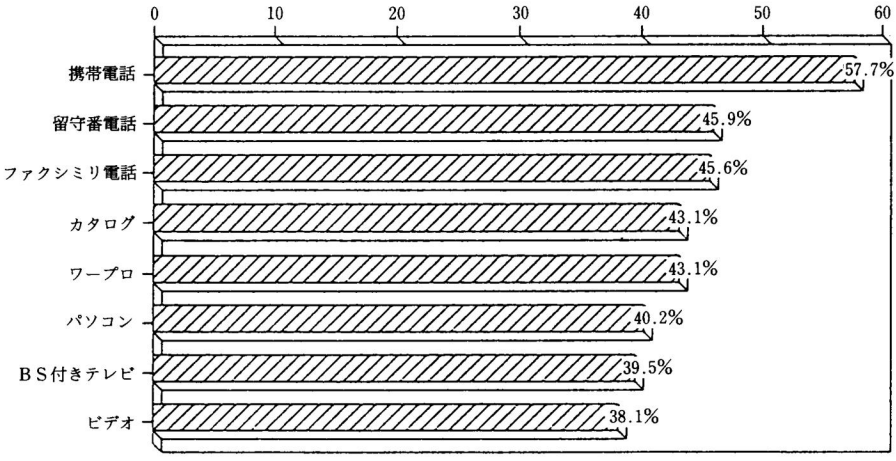


表 5-5　無くても良い情報媒体・情報関連機器　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
新聞	3	6.3	1	2.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	1.8
カタログ(カタログショッピング用)	3	6.3	14	28.0	10	21.7	7	18.4	11	22.0	5	10.2	50	17.8
ラジオ	0	0.0	2	4.0	1	2.2	0	0.0	2	4.0	0	0.0	5	1.8
テレビ	0	0.0	0	0.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	2	4.1	3	1.1
衛星放送付きテレビ	7	14.6	20	40.0	11	23.9	6	15.8	13	26.0	11	22.4	68	24.2
ビデオ	1	2.1	1	2.0	2	4.3	1	2.6	5	10.0	2	4.1	12	4.3
電話	1	2.1	0	0.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7
留守番機能付電話	5	10.4	7	14.0	9	19.6	7	18.4	20	40.0	8	16.3	56	19.9
携帯電話	7	14.6	16	32.0	6	13.0	6	15.8	15	30.0	10	20.4	60	21.4
ファクシミリ電話	1	2.1	11	22.0	6	13.0	0	0.0	1	2.0	3	6.1	22	7.8
ワープロ	3	6.3	8	16.0	10	21.7	2	5.3	13	26.0	7	14.3	43	15.3
パソコン	1	2.1	4	8.0	9	19.6	1	2.6	6	12.0	6	12.2	27	9.6
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

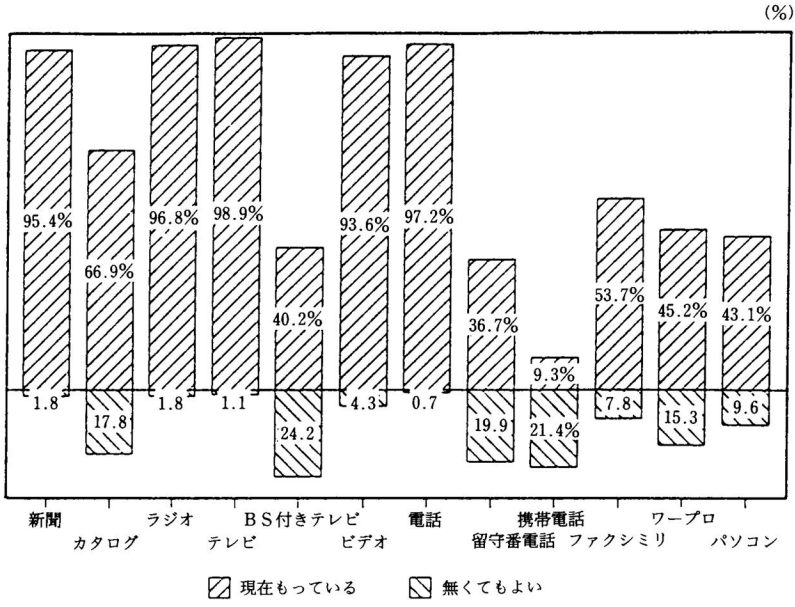
5）無くても良い情報媒体・情報関連機器

情報化社会の中で，多様な情報メディアが農家生活を取り囲んでいるが，取り入れてはみたが無くても良いと考えられている，また，無くても良いと考えているので取り入れられていない情報媒体・情報関連機器もある。それらについては表5－5のようになった。

全体で見ると衛星放送付きテレビ(24.2％)，携帯電話(21.4％)，留守番機能付き電話(19.9％)が高い割合であった。この3項目は「現在持っている情報媒体・情報関連機器」の下位3項目と一致しており，現在持っていないことから，無くても日常生活に緊急の不便を感じていないと意識されているのではないだろうか。

さらに，全ての項目について「現在持っているもの」と「無くてもよいもの」を対比したのが図5－7である。

図5—7　現在持っているものと無くても良い情報媒体・情報関連機器



(2)ワープロ・パソコンからみた情報環境

次に農家生活における情報化をワープロ・パソコンといったいわゆる情報処理機器から見ていく。

各経営形態別に「ワープロを持っている人」,「パソコンを持っている人」,「その両方を持っている人」,「両方とも持っていない人」に分けると表5－6のようになった。どちらか一方だけ，あるいは両方持っている人を「もっている」，どちらも持っていない人を「もっていない」に分け,各経営形態別に比較したものが図5－8である。

「もっている」は全体の63％にも達していた。各経営形態別に見ると一番保有率の高かったのは畑作農家(73.7％)，次いで稲作専業農家(72.9％)であった。一番保有率の低い野菜農家においても50％を超えていた。

また,パソコンだけに限ってみても全体の41.6％(「パソコン」17.8％＋「両方あり」23.8％)が保有している。これは全国平均の家庭への普及率(94年度8.6％，95年度予測10.4％)（日経流通新聞1995.8.17付け）と比較して非常に高い数字である。このような現状を踏まえ，調査対象者の中からワープロ・パソコンを持っている人に限定して1)，2)，3)の調査，ワープロ・パソコンを持っていない人に限定して4)の調査を行なった。

表5-6　ワープロ・パソコンの保有状況　(人)

経営形態	ワープロ	パソコン	両方あり	な　し
稲作専業	13	5	17	13
稲作複合	5	9	17	19
野　菜	8	9	6	23
畑　作	12	4	12	10
酪　農	10	13	11	16
果　樹	12	10	4	23
計	60	50	67	104
(%)	21.4	17.8	23.8	37.0

1）ワープロ・パソコンの現在の使い道

農家生活の中に，ワープロ・パソコンといった先端の情報処理機器が非常に高い割合で保有されていることが明らかとなったが，現在それらはどのようなことに使われているのかその現状を調査した。

表5－7は，各経営形態別の現在の使い道である。農業簿記，農作業日誌など農家経営に直結した使い道とパソコンゲーム，日記・手紙など趣味娯楽の項目を設けた。どの経営形態においても1番多い使い道が「農業簿記」であり，全体では，約6割(58.8％)の農家がパソコンによる農業簿記記帳を行なっていることがわかった。農作業日誌については，経営形態ごとにばらつきが見られ，野菜農家では52.2％の高い使用であるが酪農家ではわずか1名2.9％であった。全体では約2割(21.5％)の農家

図5−8　ワープロ・パソコンの保有状況

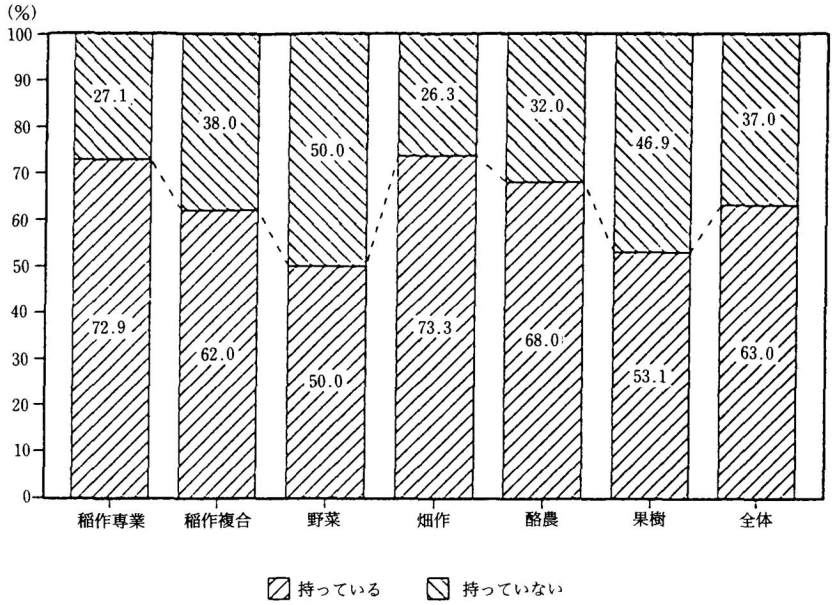


表 5-7　ワープロ・パソコンの現在の使い道

(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
農業簿記	21	60.0	22	71.0	14	60.9	13	46.4	20	58.8	14	53.8	104	58.8
家計簿	6	17.1	9	29.0	11	47.8	4	14.3	5	14.7	6	23.1	41	23.2
農作業日誌	7	20.0	6	19.4	12	52.2	4	14.3	1	2.9	8	30.8	38	21.5
住所録	13	37.1	13	41.9	9	39.1	8	28.6	16	47.1	15	57.7	74	41.8
肥料計算	6	17.1	11	35.5	1	4.3	4	14.3	1	2.9	6	23.1	29	16.4
日記・手紙	5	14.3	5	16.1	7	30.4	2	7.1	6	17.6	6	23.1	31	17.5
飼料計算	0	0.0	3	9.7	2	8.7	0	0.0	9	26.5	0	0.0	14	7.9
教育	4	11.4	2	6.5	4	17.4	1	3.6	3	8.8	3	11.5	17	9.6
個件(牛など)管理	1	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	35.3	0	0.0	13	7.3
趣味	4	11.4	6	19.4	6	26.1	4	14.3	5	14.7	6	23.1	31	17.5
土壌診断	0	0.0	2	6.5	1	4.3	1	3.6	2	5.9	2	7.7	8	4.5
パソコンゲーム	17	48.6	10	32.3	9	39.1	7	25.0	13	38.2	11	42.3	67	37.9
パソコン通信-情報交換	2	5.7	2	6.5	3	13.0	4	14.3	5	14.7	3	11.5	19	10.7
-気象データ	0	0.0	1	3.2	0	0.0	2	7.1	1	2.9	0	0.0	4	2.3
-その他	1	2.9	0	0.0	1	4.3	0	0.0	1	2.9	0	0.0	3	1.7
営業計算	6	17.1	3	9.7	6	26.1	4	14.3	3	8.8	9	34.6	31	17.5
その他	2	5.7	0	0.0	0	0.0	1	3.6	2	5.9	2	7.7	7	4.0
対象人数	35		31		23		28		34		26		177	

※複数回答

で農作業日誌にワープロ・パソコンが用いられている。

図5－9は，全体としての現在の使い道を多い順に並べたものである。上位半分には農業簿記，農作業日誌を除くと，趣味，娯楽的な使い道が多く，下位半分に農家経営的な使い道が集中している。インターネットという言葉をよく耳にする昨今であるが，パソコン通信の利用がまだ全体として14.7％であり，この分野での使用はまだこれからと言えよう。

2）ワープロ・パソコンの今後の使い道

ワープロ・パソコンを持っている人にとって，「今後の使い道」とはすでにある程度のハードウェアの準備は出来ているのであるから，ごく近い将来ということを意味するであろう。

表5－8が今後の使い道として考えられていることで

図5－9　ワープロ・パソコンの現在の使い道　全体

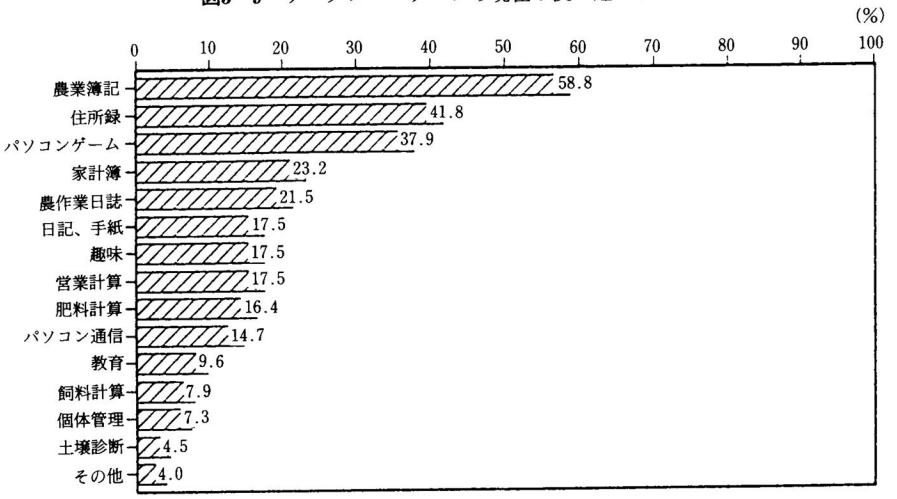


表5-8　ワープロ・パソコンの今後の使い道　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)			(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
農業簿話	6	17.1	5	16.1	8	34.8	8	28.6	9	26.5	7	26.9	43	24.3
家計簿	16	45.7	12	38.7	12	52.2	3	10.7	13	38.2	8	30.8	64	36.2
農作業日誌	12	34.3	13	41.9	7	30.4	9	32.1	7	20.6	9	34.6	57	32.2
住所録	6	17.1	9	29.0	3	13.0	8	28.6	4	11.8	5	19.2	35	19.8
肥料計算	5	14.3	9	29.0	6	26.1	3	10.7	4	11.8	2	7.7	29	16.4
日記・手紙	3	8.6	3	9.7	3	13.0	1	3.6	2	5.9	4	15.4	16	9.0
飼料計算	2	5.7	0	0.0	3	13.0	0	0.0	4	11.8	1	3.8	10	5.6
教育	4	11.4	5	16.1	3	13.0	2	7.1	1	2.9	5	19.2	20	11.3
個件(牛など)管理	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	6	17.6	0	0.0	7	4.0
趣味	3	8.6	3	9.7	6	26.1	0	0.0	1	2.9	3	11.5	16	9.0
土壌診断	5	14.3	6	19.4	6	26.1	0	0.0	2	5.9	2	7.7	21	11.9
パソコンゲーム	1	2.9	3	9.7	4	17.4	1	3.6	4	11.8	0	0.0	13	7.3
パソコン通信-情報交換	10	28.6	8	25.8	4	17.4	3	10.7	7	20.6	3	11.5	35	19.8
-気象データ	4	11.4	7	22.6	4	17.4	4	14.3	5	14.7	3	11.5	27	15.3
-その他	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	1	2.9	1	3.8	3	1.7
営業計算	6	17.1	1	3.2	2	8.7	6	21.4	3	8.8	4	15.4	22	12.4
その他	1	2.9	0	0.0	1	4.3	1	3.6	0	0.0	1	3.8	4	2.3
対象人数	35		31		23		28		34		26		177	

※複数回答

ある。畑作農家を除いたどの経営形態でも「家計簿」と「農作業日誌」の両方に高い数値が見られる。畑作農家ではすでにほぼ半数(46.4%)の世帯で「農業簿記」に使用しているが，残り半数(46.4%)も今後「農業簿記」に使いたいと考えている。

図5－10は，今後の使い道にあげられた項目を全体で多い順に並べたものである。1位は「パソコン通信」で，現在の使い道では低い割合であったが多くの人が着目していることがわかった。次いで小差で「家計簿」が続き，農家の主婦が家庭経営に積極的に情報機器を取り入れようという姿勢がうかがえる。

3）ワープロ・パソコンを導入して便利になった項目

表5－9には，ワープロ・パソコンの導入によって便利になった項目をまとめた。どの経営形態においても「農

図5－10　ワープロ・パソコンの今後の使い道　全体

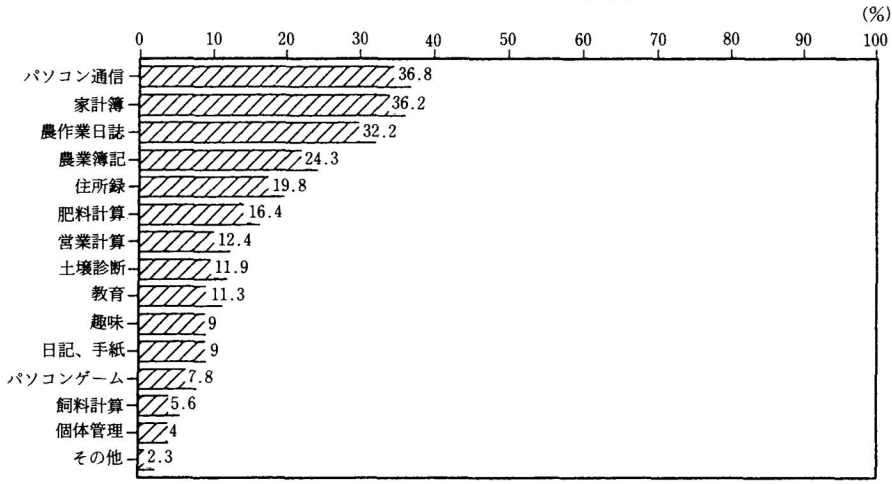


表5-9　ワープロ・パソコンを使って便利になった項目　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
農業簿記	16	45.7	10	32.3	6	26.1	6	21.4	15	44.1	8	30.8	61	34.5
家計簿	1	2.9	4	12.9	4	17.4	3	10.7	3	8.8	2	7.7	17	9.6
農作業日誌	2	5.7	4	12.9	3	13.0	1	3.6	0	0.0	3	11.5	13	7.3
住所録	6	17.1	4	12.9	3	13.0	3	10.7	7	20.6	4	15.4	27	15.3
肥料計算	3	8.6	5	16.1	1	4.3	3	10.7	1	2.9	1	3.8	14	7.9
日記・手紙	0	0.0	1	3.2	2	8.7	2	7.1	2	5.9	2	7.7	9	5.1
飼料計算	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0	6	17.6	0	0.0	8	4.5
教育	0	0.0	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6
個体(牛など)管理	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0	6	17.6	0	0.0	8	4.5
趣味	0	0.0	1	3.2	3	13.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.3
土壌診断	0	0.0	0	0.0	1	4.3	1	3.6	0	0.0	0	0.0	2	1.1
パソコンゲーム	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	1	2.9	0	0.0	2	1.1
パソコン通信-情報交換	1	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	5.9	1	3.8	4	2.3
-気象データ	0	0.0	1	3.2	0	0.0	3	10.7	1	2.9	0	0.0	5	2.8
-その他	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6
営業計算	3	8.6	2	6.5	0	0.0	2	7.1	2	5.9	1	3.8	10	5.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
対象人数	35		31		23		28		34		26		177	

※複数回答

業簿記」が1位にあげられている。ソフトの充実と農業改良普及所の地道な指導の成果であると思われる。「農作業日誌」は全体の23.2％が現在の使い道にあげているが，実際に便利になったという人は9.6％に過ぎなかった。

図5－11は，便利になった項目を全体として多い順に並べたものである。農業簿記の34.5％以外はすべての項目とも数値が低いという特徴が見られる。

4）ワープロ・パソコンの将来の使い道

全体としては4割弱(108人37.0％)の人がワープロ，パソコンのどちらも保有していない。ワープロ・パソコンを持っていない人は将来どのようなことに情報機器を活用させたいと考えているであろうか。

図5－11　ワープロ・パソコンを使って便利になった項目　全体

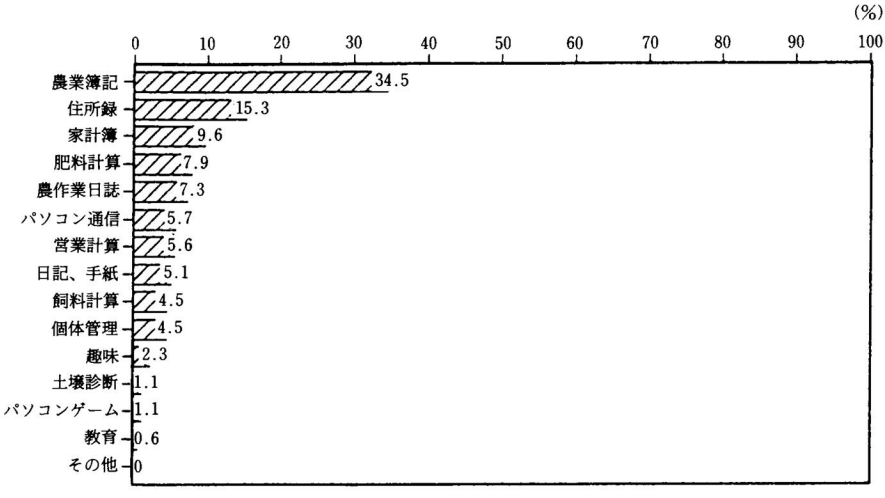


表5-10　ワープロ・パソコンの将来の使い道　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
農業簿記	8	61.5	16	84.2	13	56.5	5	50.0	15	93.8	20	87.0	77	74.0
家計簿	13	100.0	17	89.5	13	56.5	2	20.0	12	75.0	19	82.6	76	73.1
農作業日誌	8	61.5	14	73.7	14	60.9	6	60.0	8	50.0	13	56.5	63	60.6
住所録	10	76.9	15	78.9	9	39.1	3	30.0	8	50.0	8	34.8	53	51.0
肥料計算	5	38.5	11	57.9	5	21.7	2	20.0	3	18.8	5	21.7	31	29.8
日記・手紙	2	15.4	4	21.1	2	8.7	0	0.0	7	43.8	5	21.7	20	19.2
飼料計算	0	0.0	3	15.8	1	4.3	0	0.0	7	43.8	1	4.3	12	11.5
教育	4	30.8	2	10.5	2	8.7	0	0.0	2	12.5	4	17.4	14	13.5
個体(牛など)管理	0	0.0	0	0.0	1	4.3	1	10.0	16	100.0	0	0.0	18	17.3
趣味	3	23.1	4	21.1	3	13.0	1	10.0	2	12.5	4	17.4	17	16.3
土壌診断	2	15.4	6	31.6	3	13.0	1	10.0	4	25.0	4	17.4	20	19.2
パソコンゲーム	2	15.4	2	10.5	3	13.0	0	0.0	3	18.8	0	0.0	10	9.6
パソコン通信-情報交換	5	38.5	5	26.3	4	17.4	1	10.0	5	31.3	7	30.4	27	26.0
-気象データ	10	76.9	7	36.8	2	8.7	0	0.0	10	62.5	9	39.1	38	36.5
-その他	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0
営業計算	6	46.2	7	36.8	4	17.4	1	10.0	3	18.8	14	60.9	35	33.7
その他	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0
対象人数	13		19		23		10		16		23		104	

※複数回答

ワープロ・パソコンの将来の使い道について表5－10のようになった。酪農家では全員(100％)が「個体(牛など)管理」をあげている。また，稲作専業農家では「家計簿」を全員(100％)があげており，また，パソコン通信による「気象データ」にも高い数値が示された。

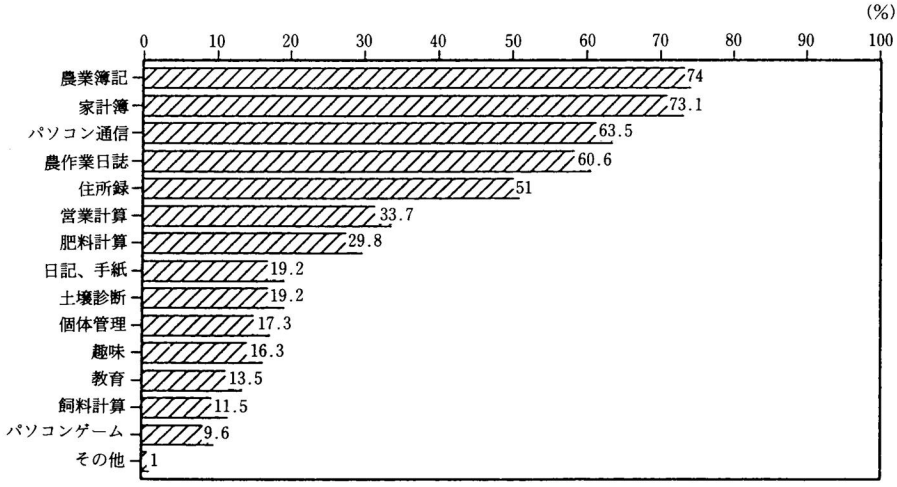
図5－12は，将来の使い道を全体として多い順に並べたものである。「農業簿記」「家計簿」は共に70％以上の高い数値であり，「パソコン通信」も第3位にあげられている。どの項目も高い数値であり，これからワープロ・パソコンを導入しようとしている人の情報機器に対する大きな期待が現われている。

今回の調査により，農家生活における情報機器等の充実ぶりが明らかとなった。テレビ，ラジオ，新聞，電話はもちろんの事，先進的な情報機器とくにファクシミリ電話，ワープロ・パソコンは全国の世帯平均より非常に高かった。

また，ワープロ・パソコンについては，ハードウェアの充実とソフトウェアの現状とにギャップがあり農業簿記を除いて有意義に活用されているとは言えないことがわかった。しかしながら，パソコンを無くても良いと考えている人は少なく，多くの人が将来はパソコンを多様な方面に活用したいと考えていることも明らかとなった。

農業経営および農家経営の今後の発展は，情報機器を媒体とした，タイムリーな情報の収集，発信なくしては語れないであろう。そのためには，国，都道府県レベルでの農家に対する農業情報提供の整備が必要であることは言うまでもなく，それと同時に情報処理操作に関する充分な教育機会を持つことが重要である。情報を活用する能力を養成しなくては情報環境の設備投資に見合う利益は望めないであろう。

図5－12　ワープロ・パソコンの将来の使い道



Ⅳ　調査研究結果のまとめ

「農家生活の質的向上に関する研究」－日韓共同研究－の一環として，30歳代～40歳代の農家主婦300人を対象に，「生活経営からみた農家生活の実態」－北海道調査を実施した。

調査の内容は，北海道農業の経済力と共に求められる「生活の質の豊かさ」について，農家生活経営を視点とした，農業経営と主婦とのかかわり，家事運営と家計管理，余暇生活活動，生活の情報化を中心に，今後の充実化に必要と考えられる事項とした。

次に，本調査で明らかになった点について総括的な考察を行なう。

1　変容が進む農家主婦の結婚前職業の構造

調査対象者の結婚前の職業経験者は94.5％にのぼり，そのうち61.9％は勤め人で占められていた。

更にその職業内容は，多岐に亘り専門職も少なくなかった。

このことは北海道農村の未婚女性の農村離れを浮き彫りにすると共に，農外職業経験女性に北海道農業，農家生活の未来が託されている姿といえよう。

農業以外で培った貴重な体験や力を，魅力ある農家生活創造や子弟の教育に発揮することが期待されると同時に，的確な支援体制の整備が求められるところである。

2 農業に果たす主婦の役割とその評価

農家主婦が果たす経営の役割については，各経営形態共に「夫と共に基幹労働力」として大きな役割を担うと同時に，数多くの高度な農業技術をこなし，経営への参加も予想以上のものがあった。

しかしその評価は必ずしも充分ではなく，経済的自立度にも課題が残されている。このことは，農業経営，農家生活の近代化をはじめ，農村女性の自立と生甲斐創造についての今日的重要課題である。

3 まだ低い日常生活の満足度

家庭生活の満足度，地域生活の満足度は共に満足の評価には充分達しておらず，不満と満足の中間であった。

家庭生活においては，「生き甲斐に関する項目」及び地域生活環境においては，「文化系施設や機会」「医療関係施設」について不満足の評価と地域差がめだった。

今後，農家生活の質的向上のためには，家庭生活の充実や地域文化，医療に関する生活関連社会資本の一日も早い整備が求められる。

4 主婦が求める農作業・家事作業の効率化対策

農作業・家事作業に多忙な主婦が求める農作業の効率化対策は，「労働配分を考えた作業の体系化」，「農作業の計画化」が上位を占め，酪農家では56％の主婦が「ヘルパー制の利用」を求めている。

このように多くの主婦が農業経営における経営者の経営能力や，社会的支援体制の必要性を強く求めていることがわかった。

家事作業の効率化対策の特徴としては，「家族の協力体制」「生活技術の自立化」が大きく上っており，生活経営の重要性が明らかになった。

生産と生活が密接に関連する農家生活において，生活重視の農業実現のためには，農業経営における家族労働のあり方が重要な課題であるといえよう。

5 家事運営と農家生活

家事の社会化・サービス化が進展する中で，農家ならではの食文化を守り育て，かつ家族の楽しみとして取り組んでいる姿がみられ，80～90％の家庭で自給現物の自家利用が行なわれている結果であった。

家計管理の記録については，レシート等の利用の工夫がみられたが，ワープロ・パソコン等の利用状況は明らかでなかった。

家計管理・運営上の問題点としては，交際費及び教育費の増大が大きくあげられた。

6 農作業の繁閑，地域生活環境に影響される余暇生活

余暇のすごし方は，休息を中心とする休養型の静的すごし方が最も多かった。

余暇活動の阻害要因としては，平日の時間不足，休みがない，が上位を占め，週休確保の難しさが明らかになった。

この課題は主婦のライフステージ及び農業経営との関連が大きい課題といえる。　地域的な対策としては主婦が自由に余暇を楽しみ，積極的に活用できる地域生活環境の整備が強く求められる。

7 今後の家庭生活管理・運営のために身につけたい事項

内容としては，家族の健康管理の方法，得意料理の習得などに関心の高さがみられた他，ワープロ・コンピューターの利用が高く意識されている。

また高齢者の介護方法についての希望があり，このことは世代同居率の高い農家世帯にとって関心も高まる課題といえる。

8 生活の情報化の進展

前述のように，30才代～40才代の主婦の，ワープロ・パソコンについての高い関心と共にワープロ・パソコン・ファクシミリ電話の普及率は全国水準に比較して高かった。また，その使い道として農業簿記が1位であったが，それ以外では，有効利用されているとは言えない状況にあることがわかった。

しかし，将来多方面に活用したいとの意向が多く，今後，充分な情報操作教育の機会を持つことが重要である。

要　　約

「農家生活の質的向上に関する研究」－日韓共同研究－の一環として，経営形態別農家の30才代～40才代の主婦300人を対象に「生活経営からみた農家生活の実態」北海道調査を実施した。

調査内容は，農業経営と主婦のかかわり，家事運営と家計管理，余暇生活活動，生活の情報化，とした。

調査の結果は，①農家主婦の結婚前職業構造の著しい変容　②農業に果たす女性の役割と適正評価の重要性

③まだ低い家庭生活・地域生活環境の満足度　④家事作業と農作業の関連と改善対策等の意向　⑤自由時間・休日確保の困難性　⑥家計費中の交際費・教育費の増大問題　⑦多忙な主婦の家事作業の分担協力者としての高齢者の役割　⑧主婦のコンピューター，ワープロへの高い利用意欲と今後の農家生活における情報化に役立つ教育の必要性。

以上の諸点について，実態及び課題が明らかになった。

謝　　辞

本研究の実施にあたり，多大の協力を頂いた韓国国立安城産業大学校　崔 一信 助教授，同夫人　金 愛賢 女史，調査対象地区農業改良普及センター及び生活関係改良普及員諸氏に心からの御礼を申し上げる。

参考文献・引用資料

1) 日本人の余暇と旅行　総理府広報室編　平成元年12月
2) 農業ランド北海道　北海道農政部農業改良課　平成5年3月　p.6,8～9,11
3) 農山酒家婦人・高齢者の農林水産業・生活に関する基本調査－平成6年版－平成6年3月　農村生活総合研究センター
4) 北海道の農業1995　株式会社北海道協同組合通信社　平成7年9月　p.18
5) 北海道農林水産統計年報－平成6年度（1994年）農林水産省北海道統計情報事務所

Summary

The purpose of this paper is to analyze farm family life in Hokkaido, Japan from the point of view of life management. We obtained information on how women are engaged in farming, housework and financial management, their spare time activities, and how they get information for liying, by means of questionnaires sent out to 300 women aged between 30 to 49 years old. The results are as follows:

1) Women's job—careern before marriage have been rapidly changing.
2) Women play an important part in farming and its evaluation is important.
3) They are not always satisfied with their life and life environment.
4) They want to improve housework and farming to lighten heir burden.
5) It is difficult for women to get holiday and free time.
6) There is a problem that the expenses for social intercourse and education are increasing.
7) Women are very interested in using computers and wordprocessers and education towards gaining greater access to information about farm familie's life is necessary.

〈資 料 編〉

資料 2-1　従事している農業経営および農作業　(人)

		経営形態													
		稲作				野菜		畑作		酪農		果樹		計	
		専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
農業経営	1.作目や品種の決定	11	22.9	24	48.0	9	19.6	9	23.7	2	4.0	10	20.4	65	23.1
	2.作付・作業計画	17	35.4	21	42.0	12	26.1	12	31.6	7	14.0	15	30.6	84	29.9
	3.農業機械・施設等の改善計画	3	6.3	5	10.0	0	0.0	7	18.4	6	12.0	3	6.1	24	8.5
	4.販売・出荷計画	9	18.8	12	24.0	11	23.9	5	13.2	8	16.0	14	28.6	59	21.0
	5.経営簿記帳	12	25.0	19	38.0	13	28.3	5	13.2	11	22.0	16	32.7	76	27.0
	6.農作業日誌	11	22.9	21	42.0	20	43.5	11	28.9	7	14.0	16	32.7	86	30.6
	7.青色申告	14	29.2	6	12.0	15	32.6	12	31.6	7	14.0	11	22.4	65	23.1
	8.農業収入の管理	7	14.6	19	38.0	21	45.7	2	5.3	6	12.0	13	26.5	68	24.2
	9.農業経営費の管理	8	16.7	19	38.0	8	17.4	1	2.6	7	14.0	4	8.2	47	16.7
	10.経営方針の決定	7	14.6	10	20.0	4	8.7	3	7.9	6	12.0	4	8.2	34	12.1
	11.その他	8	16.7	1	2.0	3	6.5	0	0.0	11	22.0	2	4.1	25	8.9
農作業	1.トラクタ運転	21	43.8	17	34.0	7	15.2	18	47.4	33	66.0	12	24.5	108	38.4
	2.その他の機械作業	12	25.0	15	30.0	5	10.9	9	23.7	14	28.0	9	18.4	64	22.8
	3.機械の補助作業	26	54.2	29	58.0	17	37.0	24	63.2	13	26.0	14	28.6	123	43.8
	4.耕耘	11	22.9	12	24.0	1	2.2	3	7.9	0	0.0	2	4.1	29	10.3
	5.播種	44	91.7	45	90.0	32	69.6	26	68.4	4	8.0	18	36.7	169	60.1
	6.育苗	44	91.7	43	86.0	27	58.7	27	71.1	3	6.0	13	26.5	157	55.9
	7.田植	43	89.6	39	78.0	22	47.8	0	0.0	0	0.0	9	18.4	113	40.2
	8.施肥	21	43.8	15	30.0	11	23.9	6	15.8	0	0.0	13	26.5	66	23.5
	9.中耕	5	10.4	3	6.0	1	2.2	3	7.9	1	2.0	1	2.0	14	5.0
	10.除草	39	81.3	43	86.0	34	73.9	35	92.1	7	14.0	23	46.9	181	64.4
	11.防除	37	77.1	40	80.0	21	45.7	4	10.5	1	2.0	9	18.4	112	39.9
	12.灌水	20	41.7	27	54.0	9	19.6	2	5.3	0	0.0	4	8.2	62	22.1
	13.水管理	6	12.5	16	32.0	4	8.7	5	13.2	0	0.0	2	4.1	33	11.7
	14.温度管理	27	56.3	26	52.0	13	28.3	13	34.2	1	2.0	7	14.3	87	31.0
	15.摘心・摘花	12	25.0	19	38.0	17	37.0	5	13.2	0	0.0	34	69.4	87	31.0
	16.剪定	8	16.7	9	18.0	4	8.7	0	0.0	0	0.0	5	10.2	26	9.3
	17.収穫	42	87.5	43	86.0	41	89.1	27	71.1	11	22.0	35	71.4	199	70.8
	18.選別・荷造り	36	75.0	30	60.0	39	84.8	15	39.5	2	4.0	33	67.3	155	55.2
	19.出荷	28	58.3	27	54.0	28	60.9	10	26.3	3	6.0	25	51.0	121	43.1
	20.販売	9	18.8	6	12.0	5	10.9	5	13.2	3	6.0	22	44.9	50	17.8
	21.搾乳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.6	44	88.0	0	0.0	45	16.0
	22.給餌	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	30	60.0	0	0.0	31	11.0
	23.畜舎清掃	1	2.1	0	0.0	0	0.0	1	2.6	46	92.0	0	0.0	48	17.1
	24.分娩世記	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.6	42	84.0	0	0.0	43	15.3
	25.その他	1	2.1	2	4.0	1	2.2	1	2.6	3	6.0	3	6.1	11	3.9
対象人数		48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

資料 2-2　時期別農作業・家事作業時間　　（1人1日平均）

作業時間			経営形態 稲作		野菜	畑作	酪農	果樹	全体平均
農繁期	農作業	平均	11時間23分	10時間58分	10時間 3分	10時間53分	11時間25分	10時間 1分	10時間47分
		最長	15時間30分	14時間 0分	17時間 0分	15時間30分	17時間 0分	15時間50分	15時間50分
		最短	0時間 0分	7時間 0分	5時間 0分	8時間 0分	0時間 0分	6時間 0分	4時間20分
	家事作業	平均	2時間 6分	2時間26分	3時間 0分	2時間19分	2時間16分	2時間59分	2時間31分
		最長	6時間 0分	7時間 0分	8時間 0分	7時間 0分	8時間 0分	7時間 0分	7時間10分
		最短	0時間 0分	0時間 0分	0時間36分	0時間 0分	0時間10分	1時間 0分	0時間15分
平常期	農作業	平均	8時間54分	7時間54分	7時間42分	8時間54分	7時間42分	8時間18分	8時間14分
		最長	12時間 0分	10時間30分	12時間 0分	13時間 0分	12時間 0分	12時間 0分	11時間55分
		最短	0時間 0分	1時間 0分	0時間 0分	6時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	1時間10分
	家事作業	平均	2時間52分	3時間12分	3時間29分	2時間43分	3時間 4分	3時間15分	3時間 6分
		最長	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	7時間 0分	8時間 0分	6時間30分	7時間35分
		最短	0時間 0分	0時間30分	1時間 0分	0時間 0分	0時間20分	0時間 0分	0時間19分
農閑期	農作業	平均	1時間42分	1時間36分	4時間48分	2時間30分	6時間 6分	1時間48分	3時間 5分
		最長	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分	10時間 0分
		最短	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分
	家事作業	平均	4時間 8分	3時間58分	3時間54分	3時間43分	3時間10分	4時間 1分	3時間49分
		最長	10時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間 0分	8時間20分
		最短	0時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	1時間 0分	0時間 0分	0時間 0分	0時間10分

資料 2-3　自分名義の預金通帳　　（人）

	経営形態 稲作 専業	(%)	稲作 複合	(%)	野菜	(%)	畑作	(%)	酪農	(%)	果樹	(%)	計	(%)
ある	48	100.0	47	94.0	37	80.4	37	97.4	48	96.0	47	95.9	264	94.0
ない	0	0.0	3	6.0	9	19.6	1	2.6	2	4.0	2	4.1	17	6.0
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	48		50		46		38		50		49		281	

資料 3-1　夫がよくやる家事　　（人）

担当家事	経営形態 稲作 専業	(%)	稲作 複合	(%)	野菜	(%)	畑作	(%)	酪農	(%)	果樹	(%)	計	(%)
買物	3	6.3	2	4.0	3	6.5	5	13.2	2	4.0	0	0.0	15	5.3
料理	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	2	0.7
食器洗い	0	0.0	1	2.0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7
そうじ	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	2.6	0	0.0	1	2.0	3	1.1
せんたく	0	0.0	1	2.0	1	2.2	2	5.3	0	0.0	0	0.0	4	1.4
子供の世話	5	10.4	2	4.0	9	19.6	2	5.3	7	14.0	4	8.2	29	10.3
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

資料 3-2 他の人がよくやる家事 (人)

担当家事	経営形態 稲作 専業	(%)	稲作 複合	(%)	野菜	(%)	畑作	(%)	酪農	(%)	果樹	(%)	計	(%)
買物	3	6.3	1	2.0	1	2.2	2	5.3	1	2.0	1	2.0	9	3.2
料理	8	16.7	0	0.0	2	4.3	4	10.5	3	6.0	1	2.0	18	6.4
食器洗い	6	12.5	2	4.0	3	6.5	8	21.1	3	6.0	2	4.1	24	8.5
そうじ	4	8.3	2	4.0	2	4.3	6	15.8	3	6.0	3	6.1	20	7.1
せんたく	3	6.3	1	2.0	2	4.3	3	7.9	3	6.0	1	2.0	13	4.6
子供の世話	2	4.2	0	0.0	1	2.2	2	5.3	0	0.0	0	0.0	5	1.8
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

資料 3-3　家庭外サービスの利用状況　　(人)

		A.現在利用しているもの								N.A.		B.今後利用したいもの	
		ほとんど毎日	(%)	週に1〜2	(%)	月に1〜2	(%)	ほとんど使わない	(%)		(%)		
クリーニング	稲作専業	0	0.0	1	2.1	32	66.7	15	31.3	0	0.0	2	4.2
	稲作複合	3	6.0	1	2.0	33	66.0	13	26.0	0	0.0	1	2.0
	野　菜	4	8.7	3	6.5	26	56.5	13	28.3	0	0.0	0	0.0
	畑　作	0	0.0	0	0.0	22	57.9	13	34.2	3	7.9	0	0.0
	酪　農	0	0.0	2	4.0	29	58.0	18	36.0	1	2.0	1	2.0
	果　樹	0	0.0	3	6.1	22	44.9	23	46.9	1	2.0	0	0.0
調理済み食品	稲作専業	1	2.1	14	29.2	17	35.4	12	25.0	4	8.3	1	2.1
	稲作複合	3	6.0	17	34.0	12	24.0	16	2.0	2	4.0	0	0.0
	野　菜	1	2.2	14	30.4	14	30.4	15	32.6	2	4.3	0	0.0
	畑　作	0	0.0	12	31.6	10	26.3	11	28.9	5	13.2	0	0.0
	酪　農	2	4.0	18	36.0	17	34.0	10	20.0	3	6.0	2	4.0
	果　樹	1	2.0	9	18.4	11	22.4	22	44.9	6	12.2	0	0.0
加工食品・冷凍食品	稲作専業	2	4.2	15	31.3	23	47.9	8	16.7	0	0.0	2	4.2
	稲作複合	6	12.0	21	42.0	14	28.0	9	18.0	0	0.0	0	0.0
	野　菜	3	6.5	21	45.7	13	28.3	8	17.4	1	2.2	0	0.0
	畑　作	2	5.3	13	34.2	12	31.6	9	23.7	2	5.3	1	2.6
	酪　農	5	10.0	23	46.0	17	34.0	4	8.0	1	2.0	2	4.0
	果　樹	3	6.1	24	49.0	11	22.4	8	16.3	3	6.1	0	0.0
できあいの総菜	稲作専業	1	2.1	9	18.8	15	31.3	22	45.8	1	2.1	1	2.1
	稲作複合	2	4.0	12	24.0	18	36.0	18	36.0	0	0.0	0	0.0
	野　菜	0	0.0	13	28.3	12	26.1	20	43.5	1	2.2	0	0.0
	畑　作	0	0.0	5	13.2	14	36.8	14	36.8	5	13.2	1	2.6
	酪　農	1	2.0	7	14.0	23	46.0	18	36.0	1	2.0	0	0.0
	果　樹	0	0.0	12	24.5	15	30.6	19	38.8	3	6.1	0	0.0
漬　物	稲作専業	15	31.3	1	2.1	2	4.2	30	62.5	0	0.0	0	0.0
	稲作複合	11	22.0	3	6.0	4	8.0	28	56.0	4	8.0	0	0.0
	野　菜	6	13.0	4	8.7	9	19.6	25	54.3	2	4.3	0	0.0
	畑　作	7	18.4	2	5.3	6	15.8	18	47.4	5	13.2	0	0.0
	酪　農	8	16.0	7	14.0	12	24.0	20	40.0	3	6.0	0	0.0
	果　樹	12	24.5	3	6.1	5	10.2	24	49.0	5	10.2	0	0.0
持ち帰り弁当	稲作専業	0	0.0	1	2.1	4	8.3	42	87.5	1	2.1	0	0.0
	稲作複合	1	2.0	0	0.0	2	4.0	47	94.0	0	0.0	0	0.0
	野　菜	0	0.0	1	2.2	6	13.0	39	84.8	0	0.0	1	2.2
	畑　作	0	0.0	0	0.0	2	5.3	32	84.2	4	10.5	0	0.0
	酪　農	0	0.0	0	0.0	12	24.0	34	68.0	4	8.0	1	2.0
	果　樹	0	0.0	1	2.0	5	10.2	40	81.6	3	6.1	0	0.0
店屋物の出前	稲作専業	0	0.0	0	0.0	2	4.2	43	89.6	3	6.3	1	2.1
	稲作複合	0	0.0	0	0.0	2	4.0	46	92.0	2	4.0	2	4.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	6	13.0	38	82.6	2	4.3	1	2.2
	畑　作	0	0.0	0	0.0	1	2.6	32	84.2	5	13.2	0	0.0
	酪　農	0	0.0	0	0.0	0	0.0	48	96.0	2	4.0	0	0.0
	果　樹	0	0.0	0	0.0	2	4.1	43	87.8	4	8.2	0	0.0
献立材料の宅配サービス	稲作専業	0	0.0	0	0.0	2	4.2	42	87.5	4	8.3	2	4.2
	稲作複合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	48	96.0	2	4.0	2	4.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	44	95.7	2	4.3	0	0.0
	畑　作	0	0.0	3	7.9	1	2.6	28	73.7	6	15.8	3	7.9
	酪　農	0	0.0	0	0.0	0	0.0	44	88.0	6	12.0	5	10.0
	果　樹	0	0.0	0	0.0	0	0.0	45	91.8	4	8.2	2	4.1

資料3-3（つづき）家庭外サービスの利用状況　（人）

給食センター	稲作専業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	43	89.6	5	10.4	3	6.3
	稲作複合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	48	96.0	2	4.0	1	2.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	44	95.7	2	4.3	0	0.0
	畑　作	1	2.6	0	0.0	0	0.0	32	84.2	5	13.2	0	0.0
	酪　農	3	6.0	0	0.0	0	0.0	41	82.0	6	12.0	2	4.0
	果　樹	2	4.1	0	0.0	0	0.0	42	85.7	5	10.2	0	0.0
保育所・託児所	稲作専業	6	12.5	0	0.0	0	0.0	36	75.0	6	12.5	1	2.1
	稲作複合	2	4.0	2	0.0	2	0.0	45	90.0	3	6.0	0	0.0
	野　菜	11	23.9	0	0.0	0	0.0	31	67.4	4	8.7	0	0.0
	畑　作	5	13.2	0	0.0	0	0.0	26	68.4	7	18.4	0	0.0
	酪　農	14	28.0	0	0.0	0	0.0	32	64.0	4	8.0	3	6.0
	果　樹	11	22.4	0	0.0	0	0.0	28	57.1	10	20.4	0	0.0
ベビーシッター	稲作専業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	41	85.4	7	14.6	1	2.1
	稲作複合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	47	94.0	3	6.0	0	0.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	40	87.0	6	13.0	0	0.0
	畑　作	0	0.0	0	0.0	0	0.0	29	76.3	9	23.7	0	0.0
	酪　農	0	0.0	0	0.0	0	0.0	43	86.0	7	14.0	2	4.0
	果　樹	0	0.0	0	0.0	0	0.0	40	81.6	9	18.4	0	0.0
家政婦	稲作専業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	43	89.6	5	10.4	1	2.1
	稲作複合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	46	92.0	4	8.0	2	4.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	39	84.8	7	15.2	1	2.2
	畑　作	0	0.0	0	0.0	0	0.0	31	81.6	7	18.4	1	2.6
	酪　農	0	0.0	0	0.0	0	0.0	43	86.0	7	14.0	2	4.0
	果　樹	0	0.0	0	0.0	0	0.0	39	79.6	10	20.4	0	0.0
デイ・サービス	稲作専業	0	0.0	4	8.3	0	0.0	38	79.2	6	12.5	1	2.1
	稲作複合	1	2.0	2	4.0	0	0.0	43	86.0	4	8.0	6	12.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	1	2.2	39	84.8	6	13.0	0	0.0
	畑　作	0	0.0	1	2.6	0	0.0	28	73.7	9	23.7	0	0.0
	酪　農	0	0.0	1	2.0	2	4.0	41	82.0	6	12.0	3	6.0
	果　樹	0	0.0	1	2.0	0	0.0	40	81.6	8	16.3	2	4.1
ホームヘルパー	稲作専業	0	0.0	0	0.0	1	2.1	41	85.4	6	12.5	1	2.1
	稲作複合	0	0.0	0	0.0	1	2.0	44	88.0	5	10.0	5	10.0
	野　菜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	37	80.4	9	19.6	2	4.3
	畑　作	0	0.0	0	0.0	0	0.0	29	76.3	9	23.7	1	2.6
	酪　農	0	0.0	0	0.0	0	0.0	43	86.0	7	14.0	3	6.0
	果　樹	0	0.0	0	0.0	0	0.0	41	83.7	8	16.3	0	0.0
農協・銀行等の振替	稲作専業	0	0.0	2	4.2	33	68.8	10	20.8	3	6.3	0	0.0
	稲作複合	0	0.0	6	12.0	30	60.0	13	26.0	1	2.0	0	0.0
	野　菜	0	0.0	2	4.3	23	50.0	16	34.8	5	10.9	1	2.2
	畑　作	3	7.9	4	10.5	21	55.3	4	10.5	6	15.8	0	0.0
	酪　農	0	0.0	4	8.0	32	64.0	9	18.0	5	10.0	20	40.0
	果　樹	2	4.1	2	4.1	32	65.3	5	10.2	8	16.3	0	0.0
キャッシュカード	稲作専業	0	0.0	4	8.3	22	45.8	19	39.6	3	6.3	2	4.2
	稲作複合	0	0.0	1	2.0	28	56.0	18	36.0	3	6.0	0	0.0
	野　菜	0	0.0	2	4.3	20	43.5	19	41.3	5	10.9	2	4.3
	畑　作	0	0.0	2	5.3	9	23.7	21	55.3	6	15.8	2	5.3
	酪　農	0	0.0	6	12.0	32	64.0	11	22.0	1	2.0	2	4.0
	果　樹	0	0.0	1	2.0	25	51.0	17	34.7	6	12.2	1	2.0

資料 4-1　余暇時間の過ごし方(1位から5位までの合計)　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)			(%)
休憩(ごろ寝,何もしない)	29	60.4	28	56.0	31	67.4	26	68.4	33	66.0	31	63.3	178	63.3
家族との会話・団らん	27	56.3	28	56.0	28	60.9	30	78.9	35	70.0	39	79.6	187	66.5
読書	13	27.1	13	26.0	13	28.3	11	28.9	12	24.0	19	38.8	81	28.8
新聞・雑誌	30	62.5	26	52.0	23	50.0	26	68.4	29	58.0	27	55.1	161	57.3
テレビ	42	87.5	32	64.0	34	73.9	30	78.9	33	66.0	38	77.6	209	74.4
ラジオ	7	14.6	0	0.0	4	8.7	6	15.8	7	14.0	5	10.2	29	10.3
音楽演奏・鑑賞	3	6.3	5	10.0	4	8.7	5	13.2	7	14.0	3	6.1	27	9.6
生花・茶道・手芸・絵画	9	18.8	8	16.0	3	6.5	3	7.9	17	34.0	7	14.3	47	16.7
ペットの世話	3	6.3	7	14.0	4	8.7	4	10.5	2	4.0	2	4.1	22	7.8
園芸・盆栽・庭の手入れ	5	10.4	13	26.0	4	8.7	7	18.4	10	20.0	6	12.2	45	16.0
散歩	3	6.3	2	4.0	1	2.2	1	2.6	0	0.0	0	0.0	7	2.5
友人との付合い	22	45.8	34	68.0	19	41.3	16	42.1	20	40.0	20	40.8	131	46.6
スポーツをする	6	12.5	13	26.0	8	17.4	6	15.8	5	10.0	4	8.2	42	14.9
スポーツ観戦	1	2.1	1	2.0	1	2.2	0	0.0	1	2.0	2	4.1	6	2.1
囲碁・将棋・麻雀など	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
パチンコ・競輪・競馬	2	4.2	1	2.0	2	4.3	0	0.0	1	2.0	2	4.1	8	2.8
映画・観劇	0	0.0	1	2.0	2	4.3	0	0.0	1	2.0	0	0.0	4	1.4
ドライブ・日帰り旅行	17	35.4	16	32.0	18	39.1	8	21.1	16	32.0	13	26.5	88	31.3
民謡・踊り	0	0.0	2	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7
詩吟・大正琴など	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
英会話などの外国語の学習	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	1	0.4
宗教的な活動	3	6.3	0	0.0	1	2.2	2	5.3	3	6.0	0	0.0	9	3.2
地域(社会)活動	7	14.6	5	10.0	5	10.9	4	10.5	5	10.0	3	6.1	29	10.3
その他	5	10.4	5	10.0	6	13.0	2	5.3	4	8.0	4	8.2	26	9.3
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

資料 4-2　余暇活動のさまたげ　(人)

	経営形態												計	
	稲作				野菜		畑作		酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)		(%)			(%)
平日の自由時間がない	24	50.0	27	54.0	28	60.9	16	42.1	19	38.0	24	49.0	138	49.1
お金がかかる	8	16.7	4	8.0	11	23.9	9	23.7	14	28.0	5	10.2	51	18.1
休日が少ない	17	35.4	20	40.0	25	54.3	11	28.9	26	52.0	25	51.0	124	44.1
家事・育児に時間がかかる	9	18.8	4	8.0	10	21.7	3	7.9	6	12.0	10	20.4	42	14.9
家庭に介護の必要な人がいる	2	4.2	1	2.0	4	8.7	1	2.6	0	0.0	0	0.0	8	2.8
能力・体力がない	7	14.6	4	8.0	2	4.3	2	5.3	5	10.0	2	4.1	22	7.8
仲間がいない	5	10.4	2	4.0	2	4.3	1	2.6	3	6.0	1	2.0	14	5.0
情報がない	7	14.6	5	10.0	0	0.0	2	5.3	3	6.0	5	10.2	22	7.8
場所や施設・設備がない	2	4.2	3	6.0	3	6.5	6	15.8	3	6.0	6	12.2	23	8.2
指導機関や指導者がいない	5	10.4	2	4.0	0	0.0	1	2.6	1	2.0	1	2.0	10	3.6
その他	0	0.0	2	4.0	2	4.3	1	2.6	0	0.0	2	4.1	7	2.5
特にない	6	12.5	9	18.0	3	6.5	8	21.1	5	10.0	3	6.1	34	12.1
対象人数	48		50		46		38		50		49		281	

※複数回答

農家生活に関するアンケート調査

このアンケート調査は、より良い農家生活を考える基礎資料にするために行われるものです。すこし長くてご面倒をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、結果につきましては無記名でコンピュータ処理しますので内容についてご迷惑をおかけすることは絶対にありません。ありのままをご記入くださるようお願いいたします。

酪農学園　北海道文理科短期大学　生活経営学研教室

1．あなた自身についておたずねします。

[　] に数字か文字を記入して下さい。また、あてはまる項目に○印をつけて下さい。

(1)現在の年齢 [　　] 歳　　(2)結婚してから現在までの年数 [　　] 年

(3)結婚前の職業　1.農　業　2.漁　業　3.勤め人 [職業名　　]　4.その他　5.な　し

(4)あなたの実家の職業　1.農　業　2.漁　業　3.勤め人 [職業名　　]　4.商　業　5.その他

2．あなたの家族についておたずねします。あてはまる項目に○印をつけて下さい。

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.
構成	夫婦のみ	夫　婦 未婚の子供	夫婦 両親	夫婦 父親	夫婦 母親	夫婦・未婚の 子供・両親	夫婦・未婚の 子供・父親	夫婦・未婚の 子供・母親	夫婦・未婚の子供 父親・他の人	夫婦・未婚の子供 母親・他の人	その他 [　]

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.
人数	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上

3．あなたの家族の中に、寝たきりの病人がいますか。

1．いない　　2．い　る　[　　] 人 →→

いると答えた方は、右の表に具体的に記入して下さい。

続　柄	年齢	入院中	自宅療養中	介護している人
例：義父	78		○	私、義母

4．お宅の農業経営についておたずねします。

(1)経営耕地面積について、あてはまる内容の [　] に数字か文字を記入してください。(おおよそで結構です)

1.水　田 [　　]㌃　2.普通畑 [　　]㌃　3.牧草地 [　　]㌃　4.果樹園 [　　]㌃

5.その他 [具体的に　　,　　]㌃ [　　,　　]㌃ [　　,　　]㌃

(2)作目・家畜等ににについて、あてはまる内容の [　] に数字か文字を記入してください。(おおよそで結構です)

1.稲　作 [　　]㌃　2.麦雑穀 [　　]㌃　3.いも類 [　　]㌃　露地野菜 [　　]㌃

5.施設野菜[　　]㌃　6.施設花[　　]㌃　7.工芸作物[　　]㌃　8.果樹[具体名　　,　　]㌃

[　,　㌃]　9.牛乳 [成牛　　]頭 [育成牛　　]頭　10.肉牛 [ホルスタイン　　]頭 [専用牛　　]頭

11.肉豚 [　　]頭　12.繁殖豚 [　　]頭　13.鶏 [　　]羽　.14.その他家畜 [具体名　　,　　]頭

(3)昨年の粗収入(農畜産物販売金額)について、あてはまる欄の番号に○印をつけて下さい。(おおよそで結構です)

1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
100万円未満	100～200万円	201～300万円	301～500万円	501～700万円	701～800万円	801万円以上

(4)経営組織について、あてはまる欄の番号に○印をつけて下さい。

1.	2.	3.	4.	5.
個　人　経　営	農業法人組織	協　業　組　織	農作業の共同化実施	そ　の　他

5．生産活動についておたずねします。あてはまる欄の番号に○印をつけて下さい。

1.	2.	3.	4.	5.
夫婦とも基幹労働	夫のみ基幹労働	妻のみ基幹労働	妻は家事に専念	その他[　　]

6．あなたの一日平均の作業時間についておたずねします。[　] 数字を記入して下さい。
分については30分単位で結構です。

農繁期		平常期		農閑期	
農作業	家事作業	農作業	家事作業	農作業	家事作業
[　]時間[　]分	[　]時間[　]分	[　]時間[　]分	[　]時間[　]分	[　]時間[　]分	[　]時間[　]分

7．あなたの農業労働による労働報酬についておたずねします。あてはまる項目に○印をつけて下さい。
1.月給制　2.収入のあった時にもらう　3.正月・祭り等の時にもらう　4.いつでも自由にもらう
5.労働報酬としてはないが小遣いとしてもらう　6.その他 [　　]　7.もらわない

1～6を選んだ方に受取方についておたずねします。あてはまる項目に○印をつけて下さい。
1.夫からもらう　2.義父からもらう　3.義母からもらう　4.家計簿からもらう　5.その他[　　]

8．あなた名義の預金通帳はあまりすか。どちらかに○印をつけて下さい。
1.ある　2.ない

9．あなたが従事している農業経営及び農作業についておたずねします。あてはまる項目すべてに○印をつけて下さい。

農業経営	1.作目や品種の決定	2.作付・作業計画	3.農業機械・施設等の改善計画
	4.販売・出荷計画	5.経営簿記帳	6.農作業日誌
	7.青色申告	8.農業収入の管理	9.農業経営費の管理
	10.経営方針の決定	11.その他 [　　]	
農作業	1.トラクタ運転	2.その他の機械作業	3.機械の補助作業
	4.耕転	5.揺種	6.育苗
	7.田植	8.施肥	9.中耕
	10.除草	11.防除	12.潅水
	13.水管理	14.温度管理	15.摘心・摘花
	16.剪定	17.収穫	18.選別・荷造り
	19.出荷	20.販売	21.搾乳
	22.給餌	23.蓄舎清掃	24.分娩世話
	25.その他 [　　]		

10．家事や家計の管理について、おたずねします。
(1)お宅の家事担当について、それぞれあてはまるところに○印をつけて下さい。

家事・担当者	1．妻がよくやる	2．夫がよくやる	3．親がよくやる	4．その他の人
1．買物				
2．料理				
3．食器洗い				
4．そうじ				
5．せんたく				
6．子どもの世話				

(2)お宅では、次のような家庭外サービスをどのように利用していますか。それぞれについて○印をつけて下さい。

	A.現在利用しているもの				B.今後利用したいもの
	1.ほとんど毎日	2.週に1～2回	3.月に1～2回	4.ほとんど使わない	
1.クリーニング					
2.調理済み食品					
3.加工食品・冷凍食品					
4.できあいの総菜					
5.漬け物					
6.持ち帰り弁当					
7.店屋物の出前					
8.献立材料の宅配サービス					
9.給食センター					
10.保育所・託児所					
11.ベビーシッター					
12.家政婦					
13.デイ・サービス					
14.ホームヘルパー					
15.農協・銀行等の振替					
16.キャッシュカード					

(3)お宅では、自家用の加工食品や自給現物で自家利用しているものは何かありますか。

	A.自家用加工品	B.自給現物の自家利用
1）有　無	1.ある　2.ない	1.ある　2.ない
2）それは何ですか （種類、品名）		
3）利用する理由は？	1．売り物にならない 2．買うより安上がり 3．買うより安全 4．おいしい 5．質が良い 6．つくる楽しみ 7．家族が楽しみにしている 8．その他（　　）	1．売り物にならない 2．買うより安上がり 3．買うより安全 4．新鮮・おいしい 5．質が良い 6．つくる楽しみ 7．家族が楽しみにしている 8．その他（　　）

(4)お宅では、日常の家計費の出入りについてどのように記録していますか。あてはまるものに○印をつけて下さい。

1.市販の家計簿を買ってつけている　2.雑誌などの付録の家計簿をけつている
3.農協の家計簿をつけている　4.レシート等をとっておいて後でまとめる
5.自分で記録簿を作りつけている　6.記録は特に何もつけていない
7.その他（具体的に　　）

(5)あなたが家計管理する上で、現在問題となっていると思うことは何かありますか。ありましたらいくつでも○印をつけて下さい。

1.交際の費用がかさむ　2.物が豊富だが何をど買ったらよいかわからない
3.子どもの教育費がかさむ　4.現物の生産物をもっと有効に使いたい　5.子どものこづかいの与え方
6.医療費がかさむ　7.収入が不規則である　8.農協の講座より一括落とされるので支出内容が不明

9.青色申告はしているが家計費は推計でしているのでこけでよいか　10.上手な貯蓄の仕方がわからない
11.自分が財布をまかされていない　12.自分名義の預貯金の通帳がない
13.借金負債が負担　14.特にない

(6)家庭生活を管理、運営していくために、あなたが今後さらに身につけたいと思っていることは何かありますか。ありましたら、次の中から順に3位まで番号で記入して下さい。

順位	1位	2位	3位
番号			

1.「得意な料理」の種類をふやすこと　2.手近にできる農畜産加工法　3.冷凍食品の加工利用法
4.裁縫・仕立て・リフォームの方法　5.住宅の手入れの方法　6.家具・家財・電気製品の修理技術
7.室内の装飾方法　8.家族や友人とのパーティのもち方　9.「堅い消費者」になるための勉強
10.子どものしつけと教育方法　11.ワープロやコンピュータの利用技術
12.家族の健康管理の方法(栄養・病気・治療)　13.高齢者との生活方法(介護など)
14.将来設計のすすめ方　15.家計簿の利用
16.花壇の作り方・庭の手入れの仕方　17.その他(具体的に　　)

(7)あなたは日常生活に満足していますか。次のそれぞれのことがらについて、あてはまる数字に○印をつけて下さい。

家庭生活	大変不満足	不満足	満足	大変満足
1.家族そろっての食事	1	2	3	4
2.夫婦の会話(時間)	1	2	3	4
3.食事への夫の参加・協力	1	2	3	4
4.自分だけの自由時間	1	2	3	4
5.家族そろってのレジャー・旅行	1	2	3	4
6.家族の収入	1	2	3	4
7.家族の財産と貯蓄	1	2	3	4
8.家電製品・家具・自動車などの耐久消費財の所有	1	2	3	4

地域生活環境	大変不満足	不満足	満足	大変満足
1.スポーツ・レクレーション施設	1	2	3	4
2.カルチャーセンター習い事教室	1	2	3	4
3.幼児保育施設	1	2	3	4
4.図書館	1	2	3	4
5.保健所・病院	1	2	3	4
6.音楽・演劇等の鑑賞の機会	1	2	3	4

(8)家族と農作業を効率的にすすめるために、今後どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からあなたのお考えに最も近いものを各々について3つ選んで○印をつけて下さい。

A. 農作業について
1.機械化をすすめる　2.生産の組織化・共同化
3.労働配分を考えて作業体系をかえる　4.流通の改善・共同出荷をすすめる
5.雇用労働をいれる　6.作業を計画的にすすめる
7.農業ヘルパーの利用　8.主婦の経営部面への参加をすすめる
9.その他(具体的に　　)

B. 家事労働について
1.主婦の農作業を減らす　2.家族の協力で家事分担
3.家事の共同化(共同加工)等をすすめる
4.家事の外部化(給食センター・既製品・ファーストフードの利用等)

5.家事作業の計画化　6.ホームヘルパー等の利用
7.家電製品の利用による省力化　8.家族員が身の回のことは自分でする
9.その他(具体的に　　)

(9)女性が家事を担当することについて、あなたはどのように思いますか。次のうちあなたのお考えに最も近いものに1つだけ○印をつけて下さい。

1.家事は女性がおこなうべき仕事である　2.女性だけがおこなうべき理由はない
3.その時々に応じて男女で分担する　4.家事は男女が平等に分担する
5.その他(具体的に　　)

11. 余暇について、おたずねします。

(1)農作業や家事作業、食事や睡眠などを除いた自由な時間を余暇時間といいますが、あなたはこの時間をどのように過ごすことが多いですか。下の項目の中からあてはまるものを、過ごすことが多い順に5位まで番号で記入して下さい。

順位	1位	2位	3位	4位	5位
番号					

1.休憩(ごろ寝、何もしない)　2.家族との会話・団らん　3.読書　4.新聞・雑誌
5.テレビ　6.ラジオ　7.音楽演奏・鑑賞　8.生花・茶道・手芸・絵画
9.ペットの世話　10.園芸・盆栽・庭の手入れ　11.散歩　12.友人との付合い
13.スポーツをする　14.スポーツ鑑賞　15.囲碁・将棋・麻雀など
16.パチンコ・競輪・競馬　17.映画・観劇　18.ドライブ・日帰り旅行
19.民謡・踊り　20.詩吟・大正琴など　21.英会話などの外国語の学習
22.宗教的な活動　23.地域(社会)活動　24.その他(具体的に　　)

(2)農業や兼業に従事しなかった日を休日として、あなたがとった昨年1年間の休日の日数を記入して下さい。おおよそで結構です。　年間　　日

(3)あなたが望休日のあり方について、つぎのうち1つだけ○印をつけて下さい。

1.ぜひとも週2日ほしい　2.週1日はとるべきだ　3.週休確保は難しい　4.その他(　　)

(4)あなたの余暇活動のさまたげになっていることは何かありますか。ありましたらいくつでも○印をつけて下さい。

1.平日の自由時間がない　2.お金がかかる　3.休日が少ない
4.家事・教育に時間がかかる　5.家庭に介護の必要な人がいる　6.能力・体力がない
7.仲間がいない　8.情報がない　9.場所や施設・設備がない
10.指導機関や指導者がいない　11.その他(具体的に　　)　12.特にない

(5)あなたが、現在よく参加している集団や活動は何かありますか。ありましたら、いくつでも○印をつけて下さい。

1.農協婦人部　2.若妻会　3.町内会　4.生活改善のグループ
5.趣味のグループ　6.PTA　7.ボランティアのグループ
8.スポーツのグループ　9.消費者団体のグループ　10.地区内の祭り・レクレーションのグループ
11.地区の共同作業　12.その他(具体的に　)　13.特にない

12. 情報社会といわれる現代ですが、あなたをとりまく情報環境についておたづねします。

(1)次にあげる情報媒体・情報関連機器のうち質問に該当するものに○印をつけてください。

①現在持っているもの(または講読している)に○印をつけてください。
②現在は持っていないが、近い将来持とう(または講読しよう)と考えているものに○印をつけて下さい。
③生活に必要不可欠なものに○印をつけて下さい。　(現在持っている、持っていないにかかわらず)
④あれば便利と考えるものに○印をつけて下さい。　(　　〃　　)
⑤無くても良いと考えるものに○印をつけて下さい。(　　〃　　)

① 現在持っている	② 将来持ちたい	情報媒体・情報関連機器	③ 必要不可欠	④ あれば便利	⑤ 無くても良い
		1．新　聞			
		2．カタログ(カタログショッピング用)			
		3．ラジオ			
		4．テレビ			
		5．衛生放送付きテレビ			
		6．ビデオ			
		7．電　話			
		8．留守番機能付電話			
		9．携帯電話			
		10．ファクシミリ			
		11．ワープロ			
		12．パソコン			

(2)ワープロ・パソコンを持っている方は、次の1～3までの質問に答えてください。

ワープロ・パソコンを持っていない方は、次の4の質問にお答えください。

①ワープロ・パソコンを現在はどのようなことに使っていますか。あてはまる項目に○印をつけて下さい。あなただけではなく、家族全体として考えて下さい。

②今後、どのようなことに使ってみたいですか(予定・希望)。あてはまる項目に、いくつでも○印をつけて下さい。

③パソコン・ワープロを使うことによって特に便利になったと感ずる使いみちに、いくつでも○印をつけて下さい。

④近い将来ワープロ・パソコンを持つとしたら何に使ってみたいですか。あてはまる項目に、いくつでも○印をつけて下さい。

① 現在の使い道	② 今後の使いみち	③ 特に便利になった	ワープロ・パソコンの使い道	④ 将来の使いみち
			1．農業簿記	
			2．家計簿	
			3．農作業日記	
			4．住所録	
			5．肥料計算	
			6．日記、手紙	
			7．飼料計算	
			8．教　育	
			9．個体（牛など）管理	
			10．趣　味（　　）	
			11．土壌診断	
			12．ゲーム	
			13．パソコン通信　①情報交換	
			②気象データ	
			③その他（　　）	
			14．経営計算	
			15．その他（　　）	

ご協力たいへんありがとうございました。